

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

## 基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

京都薬科大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

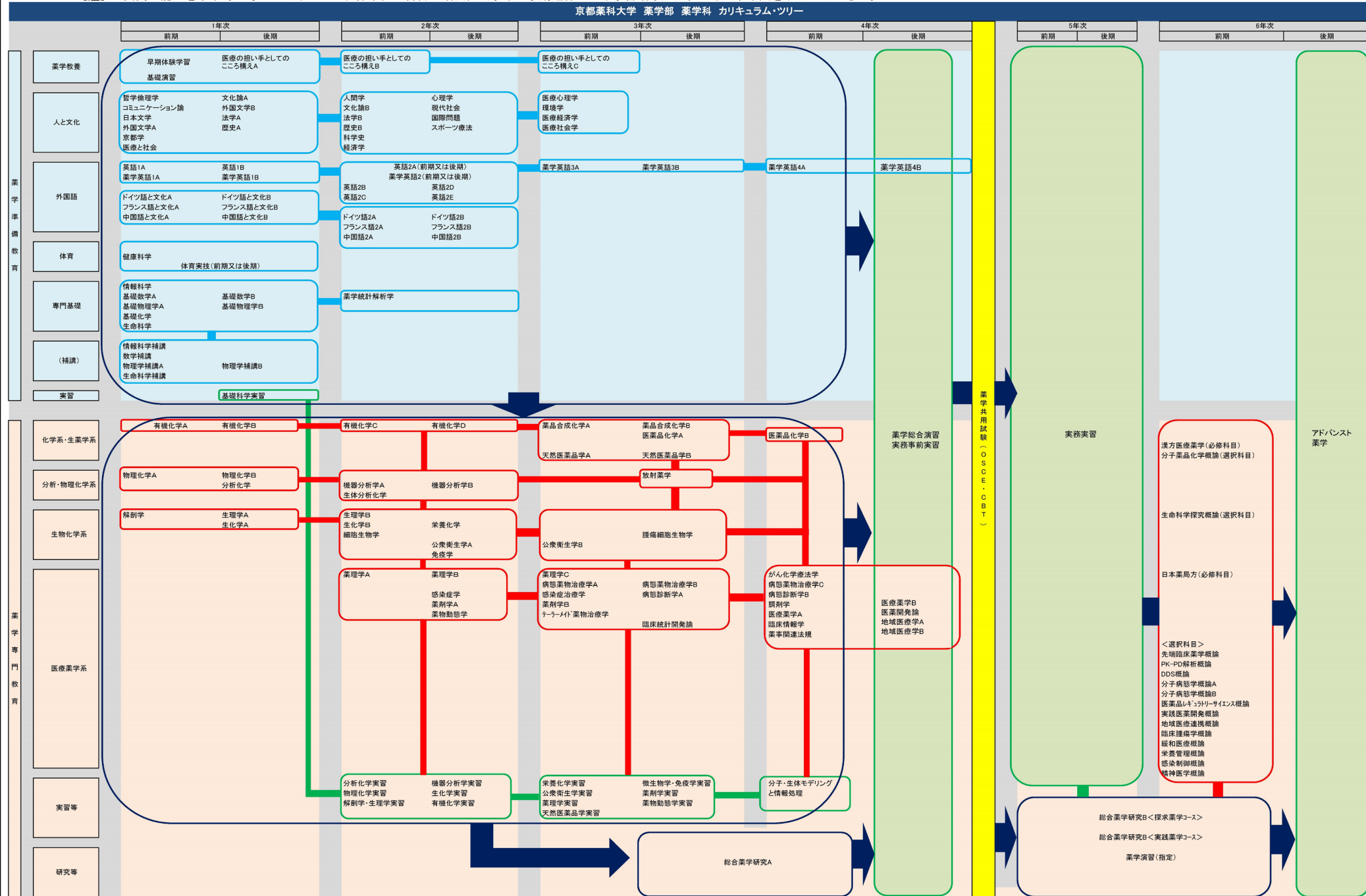
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向	3	48
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	52
基礎資料 5	教員・職員の数	5	53
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	54
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	55
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	72
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	76
基礎資料10	学生の健康管理	6	266
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	267
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	269
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	270

(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的性と科目の順次性(学年・学期進行による学習順序)がわかるような図を示してください。

京都薬科大学 薬学部 薬学科 カリキュラム・ツリー



(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目							
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
<b>A 基本事項</b>								
<b>(1) 薬剤師の使命</b>								
<b>【①医療人として】</b>								
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	早期体験学習 医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC	実務事前実習				
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)								
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)								
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)								
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB						
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)								
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		医療の担い手としての このころ構えB						
<b>【②薬剤師が果たすべき役割】</b>								
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	早期体験学習 医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC	実務事前実習				
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。								
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A 調剤学				
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。								
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。						医療開発論		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。						医療薬学A		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC					
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)								
<b>【③患者安全と薬害の防止】</b>								
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	早期体験学習 医療の担い手としての このころ構えA							
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB		医療薬学A				
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。								
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。					医療薬学A 医療開発論			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。 (知識・態度)				医薬開発論		
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	早期体験学習 医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB		臨床情報学 医薬開発論 医療薬学A		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。（知識・態度）				医薬開発論		
<b>【④薬学の歴史と未来】</b>						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。				医薬開発論		
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。				医薬開発論 医療薬学A		
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	早期体験学習					
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>						
<b>【①生命倫理】</b>						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）						
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB				
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）						
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
<b>【②医療倫理】</b>						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。						
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB				
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						
<b>【③患者の権利】</b>						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）			医療の担い手としての このころ構えC			
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。				医薬開発論		
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB		医療薬学A 医療薬学B 医薬開発論 実務事前実習		
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)				医薬開発論 実務事前実習		
<b>【④研究倫理】</b>						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	臨床統計開発論	医薬開発論		
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。			医療の担い手としての このころ構えC			
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）						
<b>(3) 信頼関係の構築</b>						
<b>【①コミュニケーション】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。				実務事前実習		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。		医療の担い手としての このころ構えB				
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)				実務事前実習		
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)						
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	早期体験学習					
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)						
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)		医療の担い手としての このころ構えB				
<b>【②患者・生活者と薬剤師】</b>						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。			医療の担い手としての このころ構えC			
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)						
<b>(4) 多職種連携協働とチーム医療</b>						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA		医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。		医療の担い手としての このころ構えB				
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	基礎演習					
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	基礎演習 早期体験学習	医療の担い手としての このころ構えB				
<b>(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</b>						
<b>【①学習の在り方】</b>						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)			医療の担い手としての このころ構えC			総合薬学研究
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				臨床情報学		
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)						
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)						
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報科学					
<b>【②薬学教育の概要】</b>						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA		医療の担い手としての このころ構えC			
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	早期体験学習 医療の担い手としての このころ構えA					
<b>【③生涯学習】</b>						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA	医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学B		
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	情報科学			実務事前実習		総合薬学研究
<b>【④次世代を担う人材の育成】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）			医療の担い手として のこころ構えC			
2) 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）						総合薬学研究
<b>B 薬学と社会</b>						
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	医療の担い手として のこころ構えA					
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）	医療の担い手として のこころ構えA					
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）	早期体験学習					
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）		医療の担い手として のこころ構えB				
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）						
<b>(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</b>						
<b>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</b>						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関連法規		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				薬事関連法規 調剤学		
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。						
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。		医療の担い手として のこころ構えB		薬事関連法規		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。		医療の担い手として のこころ構えB				
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。				薬事関連法規		
<b>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</b>						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。			医療の担い手として のこころ構えC 薬理学実習	薬事関連法規 調剤学 医薬開発論 医療薬学A		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			薬理学実習	医薬開発論 医療薬学A 臨床情報学 薬事関連法規		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。				医薬開発論 薬事関連法規 医療薬学A		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				薬事関連法規 医薬開発論 臨床情報学		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。						
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関連法規		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。						日本薬局方
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事関連法規 医薬開発論 臨床情報学		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA			医薬開発論		
<b>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</b>						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関連法規 医療薬学A		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。				薬事関連法規		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関連法規 医療薬学A		
<b>(3) 社会保障制度と医療経済</b>						
<b>【①医療、福祉、介護の制度】</b>						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				地域医療学B		
2) 医療保険制度について説明できる。				地域医療学B 医療薬学A		
3) 療養担当規則について説明できる。						
4) 公費負担医療制度について概説できる。				地域医療学B		
5) 介護保険制度について概説できる。						
6) 薬価基準制度について概説できる。				地域医療学B 医療薬学A		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				地域医療学B		
<b>【②医薬品と医療の経済性】</b>						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				地域医療学B 医療薬学A		
2) 国民医療費の動向について概説できる。						
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。				地域医療学B 医療薬学A 臨床情報学		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				地域医療学B		
<b>(4) 地域における薬局と薬剤師</b>						
<b>【①地域における薬局の役割】</b>						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。				地域医療学A		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA			地域医療学A 医療薬学A 医薬開発論		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			医療の担い手としての このころ構えC	地域医療学A 医療薬学A		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				地域医療学B		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				地域医療学A		
<b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。				地域医療学A 医療薬学A		



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	医療の担い手としての このころ構えA											
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。			医療の担い手としての このころ構えC	地域医療学A								
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。												
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)												
<b>C 薬学基礎</b>												
<b>C1 物質の物理的性質</b>												
(1) 物質の構造												
<b>【①化学結合】</b>												
1) 化学結合の様式について説明できる。							有機化学A 基礎化学					
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。												
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。							有機化学A	有機化学C				
<b>【②分子間相互作用】</b>												
1) ファンデルワールス力について説明できる。												
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。							有機化学A 基礎化学					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。												
4) 分散力について例を挙げて説明できる。												
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	有機化学A 基礎化学 生化学A											
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	有機化学A 基礎化学											
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎化学											
<b>【③原子・分子の挙動】</b>												
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。			放射薬学									
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。												
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。												
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。			機器分析学A									
5) 光の散乱および干渉について説明できる。												
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。												
<b>【④放射線と放射能】</b>												
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。												
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。												
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。			放射薬学									
4) 核反応および放射平衡について説明できる。												
5) 放射線測定の実験と利用について概説できる。												
(2) 物質のエネルギーと平衡												
<b>【①気体の微視的状態と巨視的状態】</b>												
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。							物理化学A					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。												
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。												

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②エネルギー】</b>						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 A					
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
<b>【③自発的な変化】</b>						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 A					
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。						
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	物理化学 A 生化学 A					
<b>【④化学平衡の原理】</b>						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物理化学 B					
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	生化学 A 物理化学 B					
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	物理化学 B					
4) 共役反応の原理について説明できる。						
<b>【⑤相平衡】</b>						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	物理化学 B					
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。		物理化学実習				
<b>【⑥溶液の性質】</b>						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	物理化学 B					
2) 活量と活量係数について説明できる。	物理化学 B 基礎化学					
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	物理化学 B	機器分析学 B 物理化学実習				
4) イオン強度について説明できる。	物理化学 B 基礎化学					
<b>【⑦電気化学】</b>						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 B					
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	生化学 A 物理化学 B	機器分析学 B				
<b>(3) 物質の変化</b>						
<b>【①反応速度】</b>						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	物理化学 A	物理化学実習				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。	物理化学A					
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学実習				
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	生化学A 物理化学A					
<b>C2 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【①分析の基本】</b>						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	基礎科学実習 分析化学	分析化学実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析化学実習 生体分析化学				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学					
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>						
<b>【①酸・塩基平衡】</b>						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	基礎科学実習 基礎化学 分析化学	分析化学実習				
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)						
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	基礎科学実習					
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	生化学A 分析化学 基礎科学実習					
<b>【②各種の化学平衡】</b>						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学					
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学 基礎化学	生体分析化学				
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学					
4) 分配平衡について説明できる。						
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>						
<b>【①定性分析】</b>						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。						日本薬局方
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
<b>【②定量分析(容量分析・重量分析)】</b>						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	分析化学実習				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学	生体分析化学				
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学実習				
5) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)						日本薬局方
6) 日本薬局方記載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
7) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
<b>【①分光分析法】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	基礎科学実習					
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学A				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。						
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。						
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）		機器分析学実習				
<b>【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】</b>						
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学A				
<b>【③質量分析法】</b>						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学A				
<b>【④X線分析法】</b>						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		機器分析学A				
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						
<b>【⑤熱分析】</b>						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		機器分析学B				
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						
<b>（5）分離分析法</b>						
<b>【①クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。						
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		機器分析学B				
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）		機器分析学B 機器分析学実習 生化学実習				
<b>【②電気泳動法】</b>						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学B 生化学実習				
<b>（6）臨床現場で用いる分析技術</b>						
<b>【①分析の準備】</b>						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		生体分析化学				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
<b>【②分析技術】</b>						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		生体分析化学	放射薬学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5) 代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。		機器分析学B 生体分析化学	放射薬学			

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目																	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年												
<b>C3 化学物質の性質と反応</b>																		
(1) 化学物質の基本的性質																		
【①基本事項】																		
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。							有機化学 A					日本薬局方						
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。							有機化学 B											
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。							有機化学 A											
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。																		
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。																		
6) 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。							有機化学 B											
7) 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。							有機化学 A		薬品合成化学 A									
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 B																	
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)																		
【②有機化合物の立体構造】																		
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。							有機化学 A											
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。																		
3) エナンチオマーとジアステロマーについて説明できる。																		
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。																		
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)																		
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, trans ならびに E, Z 異性)について説明できる。							有機化学 B 有機化学 A											
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)							有機化学 A											
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。																		
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応																		
【①アルカン】																		
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 A																	
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)																		
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。																		
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)																		
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。																		
【②アルケン・アルキン】																		
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。													有機化学 B	有機化学 C	薬品合成化学 B			
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。																		
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。																		
【③芳香族化合物】																		
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。							有機化学 C											
2) 芳香族性の概念を説明できる。																		
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。																		
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。								薬品合成化学 B										
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。																		

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(3) 官能基の性質と反応</b>						
<b>【①概説】</b>						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機化学A					
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		有機化学実習				
<b>【②有機ハロゲン化合物】</b>						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学B					
3) 脱離反応の特徴について説明できる。						
<b>【③アルコール・フェノール・エーテル】</b>						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学B	有機化学D	薬品合成化学B			
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
<b>【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学C 有機化学D				
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			薬品合成化学B			
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学D				
<b>【⑤アミン】</b>						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学D	薬品合成化学B			
<b>【⑥電子効果】</b>						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学A		薬品合成化学B			
<b>【⑦酸性度・塩基性度】</b>						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学A	有機化学D	薬品合成化学A			
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。			薬品合成化学B			
<b>(4) 化学物質の構造決定</b>						
<b>【①核磁気共鳴 (NMR)】</b>						
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学A 有機化学実習	薬品合成化学A			
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)		機器分析学実習 有機化学実習				
<b>【②赤外吸収 (IR)】</b>						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析学A 有機化学実習				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析学A 機器分析学実習 有機化学実習				
<b>【③質量分析】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) マスペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析学A	薬品合成化学A			
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						
4) 代表的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)						
<b>【④総合演習】</b>						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		機器分析学実習	薬品合成化学A			
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【①無機化合物・錯体】</b>						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	基礎化学					
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		生体分析化学				
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。						
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
<b>C4 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質</b>						
<b>【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】</b>						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	生化学A 生命科学	生化学B	医薬品化学A			
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
<b>【②生体内で機能する小分子】</b>						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。				医薬品化学B		
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品化学A			
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		生体分析化学				
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>						
<b>【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】</b>						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品化学A			
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
<b>【②酵素阻害剤と作用様式】</b>						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学A			医薬品化学B		
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
<b>【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。				医薬品化学B		
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
<b>【④生体内で起こる有機反応】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学A			
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						
<b>【3】医薬品の化学構造と性質、作用</b>						
<b>【①】医薬品と生体分子の相互作用</b>						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。				医薬品化学B 分子・生体モデリング と情報処理		
<b>【②】医薬品の化学構造に基づく性質</b>						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。			薬品合成化学A 薬品合成化学B	医薬品化学B		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						
<b>【③】医薬品のコンポーネント</b>						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				医薬品化学B		
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。						
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			薬品合成化学B			
<b>【④】酵素に作用する医薬品の構造と性質</b>						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学B		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) β-ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
<b>【⑤】受容体に作用する医薬品の構造と性質</b>						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学B		
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) ベンジジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
<b>【⑥】DNA に作用する医薬品の構造と性質</b>						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				医薬品化学B		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
<b>【⑦】イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質</b>						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。				医薬品化学B		
<b>C5 自然が生み出す薬物</b>						
<b>【1】薬になる動植物</b>						
<b>【①】薬用植物</b>						



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
2) 代表的な薬用植物を外形態から説明し、区別できる。（知識、技能）			天然医薬品学A 天然医薬品学実習			
3) 植物の主な内部形態について説明できる。			天然医薬品学A			
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。			天然医薬品学A			
<b>【②生薬の基原】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
<b>【③生薬の用途】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
<b>【④生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。			天然医薬品学実習			日本薬局方
3) 代表的な生薬を鑑別できる。（技能）						
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。			天然医薬品学B 天然医薬品学実習			日本薬局方
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。			天然医薬品学実習			
<b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b>						
<b>【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品学A			
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品学A			
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
<b>【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			天然医薬品学B			
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		感染症学	天然医薬品学B 感染症治療学			
<b>【③天然生物活性物質の取扱い】</b>						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）			天然医薬品学B 天然医薬品学実習			
<b>【④天然生物活性物質の利用】</b>						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然医薬品学A 天然医薬品学B			
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然医薬品学A			
<b>C6 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【①細胞膜】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生理学A 生命科学 解剖学 生化学A	細胞生物学				
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生理学A	生化学B 細胞生物学				
<b>【②細胞小器官】</b>						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生理学A 生命科学 解剖学	細胞生物学				
<b>【③細胞骨格】</b>						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生理学A 生命科学 解剖学	細胞生物学				
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【①脂質】</b>						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学A 生命科学					
<b>【②糖質】</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学A 生命科学					
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
<b>【③アミノ酸】</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学A 生命科学					
<b>【④タンパク質】</b>						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学A 生命科学	細胞生物学				
<b>【⑤ヌクレオチドと核酸】</b>						
1) ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生化学A 生命科学	細胞生物学				
<b>【⑥ビタミン】</b>						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学A	栄養化学				
<b>【⑦微量元素】</b>						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		栄養化学				
<b>【⑧生体分子の定性、定量】</b>						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	基礎科学実習	生化学実習				
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b>						
<b>【①タンパク質の構造と機能】</b>						
1) 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生命科学 生理学A 解剖学	細胞生物学				
<b>【②タンパク質の成熟と分解】</b>						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。		生化学B 細胞生物学				
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
<b>【③酵素】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学A 物理化学A 生命科学					
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学A					
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学実習				
<b>【④酵素以外のタンパク質】</b>						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生理学A	細胞生物学				
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		栄養化学 生化学B				
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生化学A 生命科学	細胞生物学				
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
<b>【②遺伝情報を担う分子】</b>						
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。		生化学B 細胞生物学				
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。						
3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。		生化学B				
<b>【③遺伝子の複製】</b>						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	生命科学	生化学B 細胞生物学				
<b>【④転写・翻訳の過程と調節】</b>						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	生命科学	生化学B 細胞生物学				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	解剖学					
3) 転写因子による転写制御について説明できる。		生化学B				
4) RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。						
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生命科学	生化学B 細胞生物学				
<b>【⑤遺伝子の変異・修復】</b>						
1) DNAの変異と修復について説明できる。	生命科学	生化学B				
<b>【⑥組換えDNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。		生化学B 細胞生物学				
2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。						
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【①概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学A 生命科学					
<b>【②ATPの産生と糖質代謝】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生化学A	細胞生物学				
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)と ATP 合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。						
5) 糖新生について説明できる。						
<b>【③脂質代謝】</b>						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生化学B				
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
<b>【④飢餓状態と飽食状態】</b>						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生化学B				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
<b>【⑤その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学B				
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。						
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学A					
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【① 概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生理学A	細胞生物学				
<b>【②細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生理学A	細胞生物学				
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
<b>【③細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生理学A	細胞生物学				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生命科学					
<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
<b>【①細胞分裂】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生理学A 基礎科学実習	細胞生物学				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	生命科学	生理学B 細胞生物学				
<b>【②細胞死】</b>						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	生理学A	細胞生物学				
<b>【③がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	生理学A	細胞生物学				
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C7 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
<b>（1）人体の成り立ち</b>						
<b>【①遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	生命科学 解剖学	生化学B 細胞生物学				
2) 遺伝子多型について概説できる。	解剖学					
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。						
<b>【②発生】</b>						
1) 個体発生について概説できる。	解剖学	細胞生物学				
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	生理学A 解剖学					
<b>【③器官系概論】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	解剖学	解剖学・生理学実習				
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	解剖学 生理学A					
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）						
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）	基礎科学実習					
<b>【④神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。	生理学A	薬理学B				
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	解剖学					
<b>【⑤骨格系・筋肉系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。	生理学A 解剖学					
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑥皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。	解剖学 生理学A					
<b>【⑦循環器系】</b>						
1) 心臓について概説できる。	解剖学	生理学B 薬理学B				
2) 血管系について概説できる。						
3) リンパ管系について概説できる。		生理学A 解剖学				
<b>【⑧呼吸器系】</b>						
1) 肺、気管支について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑨消化器系】</b>						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	解剖学	生理学B				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
<b>【⑩泌尿器系】</b>						
1) 泌尿器系について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑪生殖器系】</b>						
1) 生殖器系について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑫内分泌系】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 内分泌系について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑬感覚器系】</b>						
1) 感覚器系について概説できる。	生理学A 解剖学					
<b>【⑭血液・造血器系】</b>						
1) 血液・造血器系について概説できる。	生理学A 解剖学					
<b>(2) 生体機能の調節</b>						
<b>【①神経による調節機構】</b>						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生理学A 解剖学	細胞生物学 薬理学B				
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列举し、概説できる。	生理学A	解剖学・生理学実習				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		細胞生物学				
<b>【②ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【③オータコイドによる調節機構】</b>						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学A 解剖学					
<b>【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生理学A 解剖学	細胞生物学				
<b>【⑤血圧の調節機構】</b>						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	解剖学	解剖学・生理学実習				
<b>【⑥血糖の調節機構】</b>						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	解剖学	生化学B				
<b>【⑦体液の調節】</b>						
1) 体液の調節機構について概説できる。	解剖学	生理学B				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
<b>【⑧体温の調節】</b>						
1) 体温の調節機構について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>【⑨血液凝固・線溶系】</b>						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	生理学A			病態薬物治療学C		
<b>【⑩性周期の調節】</b>						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	解剖学	生理学B				
<b>C8 生体防御と微生物</b>						
<b>(1) 身体をまもる</b>						
<b>【① 生体防御反応】</b>						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。						
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。						
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	生理学A	免疫学	微生物学・免疫学実習			
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②免疫を担当する組織・細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	生理学 A	免疫学	微生物学・免疫学実習			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
<b>【③分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	生理学 A	免疫学	微生物学・免疫学実習			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。						
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
<b>(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用</b>						
<b>【① 免疫応答の制御と破綻】</b>						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	生理学 A	免疫学	微生物学・免疫学実習			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			腫瘍細胞生物学			
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			腫瘍細胞生物学			
<b>【② 免疫反応の利用】</b>						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		免疫学	微生物学・免疫学実習			
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			腫瘍細胞生物学 微生物学・免疫学実習			
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			微生物学・免疫学実習			
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）			免疫学 生化学実習			
<b>(3) 微生物の基本</b>						
<b>【① 総論】</b>						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生命科学	細胞生物学				
<b>【② 細菌】</b>						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	生命科学					
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。			感染症学			
<b>【③ ウイルス】</b>						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		細胞生物学 感染症学				
<b>【④ 真菌・原虫・蠕虫】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 真菌の性状を概説できる。						
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		感染症学				
<b>【⑤ 消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		感染症学				
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
<b>【⑥ 検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。（技能）			微生物学・免疫学実習			
2) 無菌操作を実施できる。（技能）						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
<b>（4）病原体としての微生物</b>						
<b>【①感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。		感染症学				
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
<b>【②代表的な病原体】</b>						
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。						
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。						
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。						
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。			感染症学			
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。						
9) 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。						
<b>D 衛生薬学</b>						
<b>D1 健康</b>						
<b>（1）社会・集団と健康</b>						
<b>【①健康と疾病の概念】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		公衆衛生学A				
<b>【②保健統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。		公衆衛生学A				
3) 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。						
<b>【③疫学】</b>						



平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		公衆衛生学A				
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学実習			
<b>（2）疾病の予防</b>						
<b>【①疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	健康科学	公衆衛生学A				
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。						
<b>【②感染症とその予防】</b>						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		感染症学				
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。						
<b>【③生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	健康科学	公衆衛生学A				
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）			公衆衛生学実習			
<b>【④母子保健】</b>						
1) 新生児マスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		公衆衛生学A				
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		感染症学				
<b>【⑤労働衛生】</b>						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。		公衆衛生学A				
2) 労働衛生管理について説明できる。						
<b>（3）栄養と健康</b>						
<b>【①栄養】</b>						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	健康科学	栄養化学				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生化学A	生化学B 栄養化学				
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		栄養化学	栄養化学実習			
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。						
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。						
<b>【②食品機能と食品衛生】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		栄養化学				
2) 油脂が変化する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			栄養化学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			栄養化学実習			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
<b>【③食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		感染症学				
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		栄養化学				
<b>D2 環境</b>						
<b>（1）化学物質・放射線の生体への影響</b>						
<b>【①化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		公衆衛生学 A				
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			公衆衛生学 B			
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）			公衆衛生学 B			
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			公衆衛生学実習			
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。			公衆衛生学 B			
<b>【②化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）		公衆衛生学 A	公衆衛生学実習			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOEL）などについて概説できる。						
4) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。						
<b>【③化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		公衆衛生学 A				
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。						
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。						
<b>【④放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。						
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。			放射線学			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。			公衆衛生学 B			

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(2) 生活環境と健康</b>						
<b>【①地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			公衆衛生学B			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。						
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）				公衆衛生学実習		
<b>【②環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			公衆衛生学B			
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。						
<b>【③水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			公衆衛生学B			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			公衆衛生学B			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			公衆衛生学B			
<b>【④大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			公衆衛生学B			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）			公衆衛生学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			公衆衛生学B			
<b>【⑤室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			公衆衛生学B 公衆衛生学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			公衆衛生学B			
<b>【⑥廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			公衆衛生学B			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) マニフェスト制度について説明できる。						
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【①薬の作用】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。			薬理学実習			
2) アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。		薬理学A				
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。	生理学A					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。（06(6)【②細胞内情報伝達】1～5.参照）		細胞生物学 薬理学A				
6) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。（E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照）		薬剤学A 薬理学A				
7) 薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。						
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。（E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照）		薬理学A		調剤学		
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						
<b>【②動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。（態度）		解剖学・生理学実習	薬理学実習	医薬開発論		
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）						
<b>【③日本薬局方】</b>						
1) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						日本薬局方
<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
<b>【①症候】</b>						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疽、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害			病態診断学A	病態診断学B		
<b>【②病態・臨床検査】</b>						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態診断学A	病態診断学B		
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態診断学A			
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
<b>(3) 薬物治療の位置づけ</b>						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。			病態診断学A	病態診断学B がん化学療法学		
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）						
<b>(4) 医薬品の安全性</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学A		がん化学療法学		
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害						
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）	早期体験学習 基礎演習			臨床情報学		
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>						
<b>(1) 神経系の疾患と薬</b>						
<b>【①自律神経系に作用する薬】</b>						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学A				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
<b>【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学A	薬理学実習			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）						
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			病態薬物治療学B			
<b>【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学B				
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬理学実習			
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B 薬理学実習			
5) うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B			
6) 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B 薬理学実習			
7) てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B 薬理学実習			
8) 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B 薬理学C	病態診断学B		
9) Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10) 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。			病態診断学B			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）						
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			病態薬物治療学B			
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学B 薬物動態学 薬理学A	テーラーメイド薬物治療学			
<b>（2）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>						
<b>【①抗炎症薬】</b>						
1) 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学C			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
3) 創傷治癒の過程について説明できる。						
<b>【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学C			
2) 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）			病態診断学A 薬理学C			
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症候群、薬疹			病態診断学A			
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
6) 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病						
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬理学C 病態薬物治療学B	病態薬物治療学C		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			病態診断学A 薬理学C			
9) 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態診断学A			
<b>【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態診断学A 薬理学C	病態診断学B		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学C 病態薬物治療学B			
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬物動態学	薬理学C テーラーメイド薬物治療学			
<b>(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>						
<b>【①循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (Vf)、房室ブロック、QT延長症候群						
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学B	病態診断学A	病態診断学B		
3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)						
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
<b>【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。				病態診断学B		
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血			薬理学C	病態薬物治療学C 病態診断学B		
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5) 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病 (重複)、悪性リンパ腫 (重複) (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】 参照)				病態薬物治療学C		
<b>【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>						
1) 利尿薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学B				

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学A			
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学A 薬理学B		病態診断学B		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石			病態薬物治療学A			
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫			病態診断学A 薬理学C			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			病態診断学A			
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬理学B 薬物動態学	薬理学C テラーメイド薬物 治療学			
<b>（4）呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>						
<b>【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態診断学A 薬理学C	病態診断学B		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
<b>【②消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎			薬理学C 病態薬物治療学B	病態診断学B		
2) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。					病態診断学B	
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						



平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 機能的消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学C 病態薬物治療学B 薬理学実習	病態診断学B		
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学C 病態薬物治療学B			
9) 痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
<b>【③化学構造と薬効】</b>						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬物動態学	薬理学C テーラーメイド薬物治療学			
<b>(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>						
<b>【①代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学A			
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
<b>【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学C	病態薬物治療学C		
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態診断学A			
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）						
<b>【③化学構造と薬効】</b>						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬物動態学	薬理学C テーラーメイド薬物治療学			
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>						
<b>【①眼疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学A	病態薬物治療学B			
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
<b>【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態薬物治療学B			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎			病態診断学A 病態薬物治療学B			
<b>【③皮膚疾患の薬、病態、治療】</b>						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）			病態診断学A			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照）		感染症学	感染症治療学			
3) 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態診断学B		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）			病態診断学A			
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬物動態学 薬理学A	病態診断学A 病態薬物治療学B テーラーメイド薬物治療学			
<b>（7）病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬</b>						
<b>【①抗菌薬】</b>						
1) 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬		感染症学	感染症治療学			
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。						
<b>【②抗菌薬の耐性】</b>						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			感染症治療学			
<b>【③細菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			感染症治療学 病態診断学A	病態診断学B		
2) 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		感染症学	感染症治療学 病態薬物治療学B			
3) 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		感染症学	感染症治療学			
5) 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等						
6) 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病						
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		感染症学				
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症						
<b>【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】</b>						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		感染症学	感染症治療学			
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）				感染症治療学 薬理学C 病態薬物治療学B		
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				感染症治療学		
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病						
<b>【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		感染症学	感染症治療学			
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症						
<b>【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		感染症学	感染症治療学			
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症						
<b>【⑦悪性腫瘍】</b>						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。				がん化学療法学		
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。						
<b>【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			腫瘍細胞生物学	がん化学療法学		
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。						
4) 代表的ながん化学療法法のレジメン（FOLFFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				がん化学療法学 病態薬物治療学C		
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）						
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				がん化学療法学		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌						
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍						
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			病態診断学A			
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
<b>【⑨がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。				がん化学療法学 病態診断学B		
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
<b>【⑩化学構造と薬効】</b>						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		薬物動態学 感染症学	感染症治療学 腫瘍細胞生物学 テーラーメイド薬物 治療学			
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【①組換え体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				医薬開発論		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		生化学B				
<b>【③細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）		細胞生物学				
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			病態診断学A	病態薬物治療学C		
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。						
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。		細胞生物学				
<b>（9）要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				地域医療学A 医療薬学A		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				地域医療学A 調剤学 実務事前実習 医療薬学A		
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				地域医療学A		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				地域医療学A 医療薬学A		
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				地域医療学A		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）						
<b>（10）医療の中の漢方薬</b>						
<b>【①漢方薬の基礎】</b>						
1) 漢方の特徴について概説できる。			天然医薬品学B			漢方医療薬学
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。						
<b>【②漢方薬の応用】</b>						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			天然医薬品学B			漢方医療薬学
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
<b>【③漢方薬の注意点】</b>						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			天然医薬品学B			漢方医療薬学
<b>（11）薬物治療の最適化</b>						
<b>【①総合演習】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				医療薬学B		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)						
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>(1) 医薬品情報</b>						
<b>【①情報】</b>						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				臨床情報学		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。						
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。				臨床情報学 医薬開発論		
<b>【②情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				臨床情報学		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				臨床情報学 医薬開発論		
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。						
5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。				臨床情報学		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				臨床情報学 医薬開発論		
<b>【③収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				臨床情報学 実務事前実習		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)						
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				臨床情報学		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)						
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。				臨床情報学 実務事前実習		
<b>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				臨床情報学		
2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
<b>【⑤生物統計】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。		薬学統計解析学	臨床統計開発論 薬理学実習			
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布）について概説できる。						
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			臨床統計開発論			
5) 二群間の差の検定（t検定、 $\chi^2$ 検定など）を実施できる。（技能）			臨床統計開発論 薬理学実習	分子・生体モデリングと情報処理		
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。			臨床統計開発論			
7) 基本的な生存時間解析法（ Kaplan-Meier 曲線など）について概説できる。						
<b>【⑥臨床研究デザインと解析】</b>						
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			臨床統計開発論			
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。						
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。						
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。						
7) 統計解析時の注意点について概説できる。		薬学統計解析学		分子・生体モデリングと情報処理		
8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。						
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）						
<b>【⑦医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医療薬学A		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）				臨床情報学		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）						
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【①情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				臨床情報学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				医療薬学A		
<b>【②収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム（POS）を説明できる。				臨床情報学		
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 （A(2) 【③患者の権利】参照）				臨床情報学 医薬開発論		
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【①遺伝的素因】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。			テーラーメイド薬物治療学			
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				がん化学療法学		
<b>【②年齢的要因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド薬物治療学	臨床情報学		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				がん化学療法学 臨床情報学		
<b>【③臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド薬物治療学			
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						
<b>【④その他の要因】</b>						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。						
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			テーラーメイド薬物治療学	臨床情報学		
3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
<b>【⑤個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）			テーラーメイド薬物治療学	がん化学療法学 実務事前実習		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				がん化学療法学		
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>（1）薬物の体内動態</b>						
<b>【①生体膜透過】</b>						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。	生命科学					
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		薬剤学 A				
<b>【②吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。						
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。		薬剤学 A				
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			感染症治療学	調剤学		
5) 初回通過効果について説明できる。						
<b>【③分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬剤学 A				
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		薬剤学 A 薬物動態学	薬物動態学実習			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
4) 血液－組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		薬剤学 A				
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。				調剤学		



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【④代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬剤学A				
2) 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。						
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。						
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。				調剤学		
<b>【⑤排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬剤学A 薬物動態学				
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。		薬剤学A				
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。				調剤学		
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【①薬物速度論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。		薬物動態学	薬物動態学実習 テーラーメイド薬物治療学	分子・生体モデリングと情報処理		
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)						
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			テーラーメイド薬物治療学			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。		薬物動態学				
5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態学実習			
6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。			感染症治療学			
<b>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			テーラーメイド薬物治療学			
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)						
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【①固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。			薬剤学B 薬剤学実習			
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。						
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2(2)【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)	基礎化学 物理化学B		薬剤学B			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。	基礎化学					
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>【②半固形・液状材料】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。			薬剤学B			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。						
<b>【③分散系材料】</b>						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)	物理化学B	物理化学実習				
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。		薬剤学B				
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。						
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
<b>【④薬物及び製剤材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			薬剤学B			
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)	物理化学A					
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			薬剤学B			
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【①代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			薬剤学B			日本薬局方
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			薬剤学実習			
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。			薬剤学B			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			薬剤学B 薬剤学実習			
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。			薬剤学B			
<b>【②製剤化と製剤試験法】</b>						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			薬剤学B			日本薬局方
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			薬剤学実習			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			薬剤学B			
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			薬剤学B 薬剤学実習			
<b>【③生物学的同等性】</b>						
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			薬剤学B			
<b>(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)</b>						
<b>【①DDS の必要性】</b>						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。						
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1) 【④代謝】4. も参照)		薬剤学A				
<b>【②コントロールドリリース (放出制御)】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。		薬剤学A				
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
<b>【③ターゲティング（標的指向化）】</b>						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。		薬剤学A				
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
<b>【④吸収改善】</b>						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。		薬剤学A				
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
<b>F 薬学臨床</b>						
前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
<b>(1) 薬学臨床の基礎</b>						
<b>【①早期臨床体験】</b> ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習				実務実習	
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)						
<b>【②臨床における心構え】</b> [A(1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)		医療の担い手としての このころ構えB		調剤学 実務事前実習		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)						
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)			医療の担い手としての このころ構えC			
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)				実務事前実習		
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)		医療の担い手としての このころ構えB			実務実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	早期体験学習					
<b>【③臨床実習の基礎】</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	医療の担い手としての このころ構えA		医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				調剤学 医療薬学A		
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。			医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				実務事前実習 医療薬学A		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B(3)①参照]				地域医療学A		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					実務実習		
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。							
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）							
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。				医療薬学B			
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。							
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。							
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				がん化学療法学			
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。							
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。							
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）							
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>							
<b>【①法令・規則等の理解と遵守】 [B(2)、(3)参照]</b>							
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				調剤学 実務事前実習			
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）						実務実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）							
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。							
<b>【②処方せんと疑義照会】</b>							
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				調剤学 医療薬学A 実務事前実習			
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				調剤学 実務事前実習			
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。							
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。							
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。							
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）							
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					実務実習		
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）							
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）							
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）							
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）							
<b>【③処方せんに基づく医薬品の調製】</b>							
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				調剤学 実務事前実習			
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。							
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）							
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				調剤学 医療薬学A			
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				実務事前実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)						
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				実務事前実習		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				調剤学 実務事前実習		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					実務実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)				実務事前実習		
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)						
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)						
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)				実務事前実習		
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)						
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)						
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)				実務事前実習		
<b>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)					実務事前実習	
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。						
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)						
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。						
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)						
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。						
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)						
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)						
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						実務実習
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)						
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)						
<b>【⑤医薬品の供給と管理】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				医療薬学A		
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。						
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			放射薬学			
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。						
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。						
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					実務実習	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）						
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）						
<b>【⑥安全管理】</b>						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				医療薬学A		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。						
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）						
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。						
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）				実務事前実習		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				医療薬学A		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				実務事前実習		
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					実務実習	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）						
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）				実務事前実習		
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						
<b>(3) 薬物療法の実践</b>						
<b>【①患者情報の把握】</b>						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				実務事前実習		
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 【E3(2)①参照】						
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。						
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					実務実習	
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)						
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)						
<b>【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				実務事前実習		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)						
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)						
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)						
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)						
<b>【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			テーラーメイド薬物治療学	実務事前実習		
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。						
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				調剤学 医療薬学A		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				医療薬学A		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。						
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				がん化学療法学		
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)					実務実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)						
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)						
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)						
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)				医療薬学A		
<b>【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				調剤学 医療薬学B		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				実務事前実習		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				医療薬学B		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)					実務実習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。(知識・態度)			テーラーメイド薬物治療学	実務事前実習		
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)						
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				がん化学療法学		
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）					実務実習	
11) 報告に必要な要素（SWIH）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）						
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）						
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）						
<b>〔4〕チーム医療への参画</b> [A (4) 参照]						
<b>【①医療機関におけるチーム医療】</b>						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。		医療の担い手としての このころ構えB	医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A 医療薬学B		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				医療薬学A		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）					実務実習	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）						
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）						
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）						
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）						
<b>【②地域におけるチーム医療】</b>						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。			医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）						
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					実務実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）						
<b>〔5〕地域の保健・医療・福祉への参画</b> [B (4) 参照]						
<b>【①在宅（訪問）医療・介護への参画】</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。			医療の担い手としての このころ構えC	医療薬学A		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					実務実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						
<b>【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】</b>						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				実務事前実習 医療薬学A		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				実務事前実習		



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)						
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					実務実習	
<b>【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】</b> [E2(9)参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)					実務事前実習	
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)						
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)						
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)						
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)					実務実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などにに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)						
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)						
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)						
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)						
<b>【④災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。			医療の担い手としての このころ構えC			
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)						
<b>G 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						総合薬学研究
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)						
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)						
<b>(2) 研究に必要な法規範と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				臨床統計開発論		総合薬学研究
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲						
<b>(3) 研究の実践</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)						総合薬学研究
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>		360	360	360	360	360	360
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	A	374	377	366	407	373	369
在籍学生数 <sup>3)</sup>	B	401	393	345	395	348	382
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者 C	27	51	35	41	48	87
	休学による者 D	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	F	374	342	310	354	300	295
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	F/A	1.00	0.91	0.85	0.87	0.80	0.80
過年度在籍率 <sup>7)</sup>	(C+D)/B	0.07	0.13	0.10	0.10	0.14	0.23

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。  
 ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	396	427	388	391	401
	休学者数 <sup>2)</sup>	4	3	3	1	7
	退学者数 <sup>2)</sup>	15	19	13	11	12
	留年者数 <sup>2)</sup>	16	19	11	26	23
	進級率 <sup>3)</sup>	0.91	0.90	0.93	0.90	0.90
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	393	402	431	385	393
	休学者数 <sup>2)</sup>	2	4	2	1	4
	退学者数 <sup>2)</sup>	9	8	17	9	10
	留年者数 <sup>2)</sup>	39	41	22	38	35
	進級率 <sup>3)</sup>	0.87	0.87	0.90	0.88	0.88
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	361	366	360	399	345
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	3	3	1	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	4	3	5	2	4
	留年者数 <sup>2)</sup>	23	8	6	7	4
	進級率 <sup>3)</sup>	0.93	0.96	0.96	0.97	0.97
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	359	339	361	355	395
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	1	3	1	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	4	0	1	1	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	5	8	5	5	2
	進級率 <sup>3)</sup>	0.97	0.97	0.98	0.98	0.99
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	347	351	330	354	348
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	2	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	0	1	1	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	0
	進級率 <sup>3)</sup>	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00

[注] 様式4の印刷体では、このページの注は、印刷範囲にいれないでください。

- 1) 在籍者数(前年度の“編入生”、“再入学者”、“転入学者”を含む)は、評価対象年度初(4月1日)において1年次から5年次に在籍していた学生数。ただし、年度途中で、編入、再入学、転入学した学生数は、この資料の対象外とします。なお、「年度初の在籍者を確定する基準日」が4月1日でない場合、大学の基準日におけるデータを記入してください。また、留年者数には、復学したが進級できなかった者の数も含めてください。
- 2) 休学者数、退学者数(転学者数、除籍者数を含む)、留年者数は、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数。  
また、同一学生に複数の事象が発生した場合は、最後の事象に基づき算入してください。  
ただし、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は“休学”には算入しないでください。
- 3) 進級率は、次式で計算した結果を小数点以下第2位まで(%表示でなく、1.00のように)記入してください。  

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup> A		365	376	374	352	380
学士課程修了(卒業)者数 <sup>1)</sup> B		335	352	349	318	350
卒業率 <sup>2)</sup> B/A		0.92	0.94	0.93	0.90	0.92
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年 C	287	288	294	275	288
	7年	27	43	38	29	43
	8年	14	12	11	9	14
	9年以上	7	9	6	5	5
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup> D		366	363	378	371	369
ストレート卒業率 <sup>5)</sup> C/D		0.78	0.79	0.78	0.74	0.78

- 1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業生数」(B)にも含みません。  
なお、卒業生数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入生を除いた卒業生数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入生を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員	A	360	360	360	360	360	360	
実入学者数 <sup>1)</sup>	B	369	372	407	365	377	374	377
入学定員充足率 <sup>2)</sup>	B/A	1.03	1.03	1.13	1.01	1.05	1.04	1.05
編入学定員		0	0	0	0	0	0	
編入学者数 <sup>3)</sup>	C+D+E	0	0	0	0	0	0	
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C	0	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種別別)

学部	学科名	入試の種類		2017年度入試	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(2016年度実施)	(2017年度実施)	(2018年度実施)	(2019年度実施)	(2020年度実施)	(2021年度実施)	
薬学部	薬学科	一般選抜 B方式 (一般入試)	受験者数	1,168	1,162	1,102	914	824	859	105.46%
			合格者数	469	491	447	421	494	429	
			入学者数(A)	206	235	174	173	178	161	
			募集定員数(B)	180	180	180	180	180	180	
			A/B*100(%)	114.44%	130.56%	96.67%	96.11%	98.89%	89.44%	
		一般選抜 A方式 (大学入学共通 テスト利用入 試)	受験者数	891	883	967	776	682	780	
			合格者数	362	372	400	379	397	414	
			入学者数(A)	31	40	59	69	60	73	
			募集定員数(B)	45	45	45	45	45	45	
			A/B*100(%)	68.89%	88.89%	131.11%	153.33%	133.33%	162.22%	
		一般選抜 C方式 (大学入学共通 テスト利用入 試)	受験者数	37	27	16	9	29	17	
			合格者数	18	11	7	4	14	8	
			入学者数(A)	1	0	0	1	5	3	
			募集定員数(B)	5	5	5	5	5	5	
			A/B*100(%)	20.00%	0.00%	0.00%	20.00%	100.00%	60.00%	
		学校推薦型選抜 指定校制 (指定校推薦)	受験者数	54	52	47	50	48	46	
			合格者数	54	52	47	50	48	46	
			入学者数(A)	54	52	47	50	48	46	
			募集定員数(B)	50	50	50	50	50	50	
			A/B*100(%)	108.0%	104.0%	94.0%	100.0%	96.0%	92.0%	
		学校推薦型選抜 一般公募制 (公募推薦入 試)	受験者数	306	290	295	292	232	236	
			合格者数	81	80	86	84	83	100	
			入学者数(A)	81	80	86	84	83	100	
			募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80	
			A/B*100(%)	101.25%	100.00%	107.50%	105.00%	103.75%	125.00%	
		学 科 計	受験者数	2,456	2,414	2,427	2,041	1,815	1,938	
			合格者数	984	1,006	987	938	1,036	997	
			入学者数(A)	372	407	365	377	374	383	
募集定員数(B)	360		360	360	360	360	360			
A/B*100(%)	103.33%		113.06%	101.39%	104.72%	103.89%	106.39%			

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により5月1日(評価対象年度に実施した入試のデータは調書提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
39名	20名	11名	28名	98名	44名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
11名	0名	3名	0名	14名	8名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1.以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
4名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
1名	0名	0名	名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 <sup>1)</sup>	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
59名	0名	0名	59名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	18名	1名	0名	1名	20名	20.41%
50代	15名	5名	5名	1名	26名	26.53%
40代	6名	12名	6名	8名	32名	32.65%
30代	0名	2名	0名	18名	20名	20.41%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	39名	20名	11名	28名	98名	100.0%

専任教員の定年年齢:( 65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	35名	16名	9名	18名	78名	79.59%
女性	4名	4名	2名	10名	20名	20.41%



(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)院	25.00	0.83	
							解剖学・生理学実習◎	6.43	0.21	
							生命分子科学特論1院	3.00	0.10	
							生理学A	16.00	0.53	
							生理学B	15.00	0.50	
							薬理学実習◎	9.11	0.30	
							授業担当時間の合計		74.54	2.48
							薬学科	教授		
演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)院	20.00	0.67								
基礎演習	10.50	0.35								
基礎化学	18.00	0.60								
生体分析化学	18.00	0.60								
投与設計薬学特論2院	1.50	0.05								
日本薬局方	9.00	0.30								
分析化学	42.00	1.40								
分析化学実習◎	24.00	0.80								
授業担当時間の合計		146.50	4.88							
薬学科	助教									
							解剖学・生理学実習◎	6.43	0.21	
							病態薬物治療学B	3.00	0.10	
							薬理学C	6.00	0.20	
							薬理学実習◎	9.11	0.30	
							授業担当時間の合計		44.54	1.48
薬学科	講師						PK-PD解析概論	2.00	0.07	
							テーラーメイド薬物治療学	6.00	0.20	
							基礎演習	10.50	0.35	
							分子・生体モデリングと情報処理◎	2.57	0.09	
							薬物動態学	12.00	0.40	
							薬物動態学実習◎	24.00	0.80	
							授業担当時間の合計		57.07	1.90
薬学科	教授						PK-PD解析概論	3.00	0.10	
							テーラーメイド薬物治療学	6.00	0.20	
							基礎演習	10.50	0.35	
							投与設計薬学特論2院	1.50	0.05	
							分子・生体モデリングと情報処理◎	2.57	0.09	
							薬物動態学	27.00	0.90	
							薬物動態学実習◎	24.00	0.80	
							授業担当時間の合計		74.57	2.49

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授						医薬品レギュラトリーサイエンス概論		0.50	0.02
							医療の担い手としてのこころ構えC		6.00	0.20
							演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	20.00	0.67
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							基礎演習		10.50	0.35
							実践医薬開発概論		1.50	0.05
							病態薬物治療学B		21.00	0.70
							分子病態学概論B		3.00	0.10
							薬理学C		18.00	0.60
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授						基礎演習		21.00	0.70
							放射薬学		21.00	0.70
授業担当時間の合計								42.00	1.40	
薬学科	助教						天然医薬品学実習	◎	72.00	2.40
							薬理学実習	◎	48.00	1.60
授業担当時間の合計								120.00	4.00	
薬学科	助教						PK-PD解析概論		2.00	0.07
							テーラーメイド薬物治療学		6.00	0.20
							投与設計薬学特論2	院	1.50	0.05
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09
							薬物動態学		3.00	0.10
							薬物動態学実習	◎	24.00	0.80
授業担当時間の合計								39.07	1.30	
薬学科	講師						基礎演習		21.00	0.70
							生命科学		9.00	0.30
							薬学演習		12.00	0.40
授業担当時間の合計								42.00	1.40	
薬学科	助教						感染制御概論		0.75	0.03
							感染制御学特論	院	3.00	0.10
							生命科学		6.00	0.20
							微生物学・免疫学実習	◎	31.50	1.05
授業担当時間の合計								41.25	1.38	
薬学科	講師						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	37.50	1.25
							基礎演習		10.50	0.35
							研究倫理特論	院	0.50	0.02
							細胞生物学		9.00	0.30
							生命科学探究概論		1.50	0.05
							生命分子科学特論1	院	1.50	0.05
							微生物学・免疫学実習	◎	31.50	1.05
							免疫学		6.00	0.20
授業担当時間の合計								98.00	3.27	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>						
薬学科	講師						英語1A	42.00	1.40						
							英語1B	42.00	1.40						
							英語2B	21.00	0.70						
							英語2D	21.00	0.70						
							基礎演習	21.00	0.70						
							京都学	1.50	0.05						
							文化論B	21.00	0.70						
							歴史A	21.00	0.70						
							授業担当時間の合計							190.50	6.35
							薬学科	助教						創薬科学特論2	院
分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09												
薬品合成化学A		4.00	0.13												
薬品合成化学B		12.00	0.40												
有機化学実習	◎	18.00	0.60												
授業担当時間の合計														38.07	1.27
薬学科	講師						ドイツ語2A		21.00	0.70					
							ドイツ語2B		21.00	0.70					
							ドイツ語と文化A		21.00	0.70					
							ドイツ語と文化B		21.00	0.70					
							外国文学A		21.00	0.70					
							基礎演習		21.00	0.70					
							歴史B		21.00	0.70					
							授業担当時間の合計							147.00	4.90
薬学科	助教						薬学演習		15.00	0.50					
授業担当時間の合計							15.00	0.50							
薬学科	教授						実務実習	◎	30.00	1.00					
							臨床情報学		24.00	0.80					
							授業担当時間の合計							54.00	1.80
薬学科	助教						栄養化学実習	◎	24.00	0.80					
							物理化学実習	◎	54.00	1.80					
							分析化学実習	◎	48.00	1.60					
授業担当時間の合計							126.00	4.20							
薬学科	助教						基礎演習		7.00	0.23					
							天然医薬品学実習	◎	36.00	1.20					
授業担当時間の合計							43.00	1.43							
薬学科	教授						基礎演習		10.50	0.35					
							創薬科学特論1	院	3.00	0.10					
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09					
							有機化学A		27.00	0.90					
							有機化学D		27.00	0.90					
							有機化学実習	◎	18.00	0.60					
授業担当時間の合計							88.07	2.94							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	25.00	0.83
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							生理学A		7.00	0.23
							生理学B		9.00	0.30
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計			
薬学科	学長						医療の担い手としてのこころ構えA		7.50	0.25
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						生化学A		9.00	0.30
							生化学B		6.00	0.20
							生化学実習	◎	25.20	0.84
							生命科学探究概論		1.50	0.05
							生命分子科学特論1	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							基礎演習		21.00	0.70
							生命科学探究概論		1.50	0.05
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							薬学英語特論	院	6.00	0.20
							薬理学B		18.00	0.60
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授						英語1A		84.00	2.80
							英語1B		84.00	2.80
							英語2A		84.00	2.80
							外国文学B		21.00	0.70
							基礎演習		21.00	0.70
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師(実務)						医療の担い手としてのこころ構えB		10.00	0.33
							医療薬学A		6.00	0.20
							医療薬学B		9.75	0.33
							実務事前実習	◎	4.00	0.13
							地域医療連携概論		3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						薬学英語2		84.00	2.80
							薬学英語3A		42.00	1.40
							薬学英語3B		42.00	1.40
							薬学英語4A		42.00	1.40
							薬学英語4B		42.00	1.40
							薬学英語特論	院	6.00	0.20
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>							
薬学科	教授						DDS概論		4.50	0.15						
							基礎演習		21.00	0.70						
							基礎化学		6.00	0.20						
							投与設計薬学特論2	院	2.25	0.08						
							物理化学A		39.00	1.30						
							物理化学B		36.00	1.20						
							物理化学実習	◎	27.75	0.93						
							授業担当時間の合計								136.50	4.55
薬学科	教授						薬学演習		18.00	0.60						
授業担当時間の合計								18.00	0.60							
薬学科	准教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	25.00	0.83						
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21						
							基礎演習		21.00	0.70						
							生命科学探究概論		1.50	0.05						
							生命分子科学特論1	院	1.50	0.05						
							生理学A		19.00	0.63						
							生理学B		18.00	0.60						
							薬理学実習	◎	9.11	0.30						
							授業担当時間の合計								101.54	3.38
							薬学科	准教授						フランス語2A		21.00
フランス語2B		21.00	0.70													
フランス語と文化A		21.00	0.70													
フランス語と文化B		21.00	0.70													
医療の担い手としてのこころ構えA		12.00	0.40													
科学史		21.00	0.70													
基礎演習		21.00	0.70													
人間学		21.00	0.70													
哲学倫理学		21.00	0.70													
文化論A		21.00	0.70													
授業担当時間の合計														201.00	6.70	
薬学科	教授													演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	5.63
							基礎演習		10.50	0.35						
							創薬科学特論1	院	1.50	0.05						
							創薬科学特論2	院	1.50	0.05						
							日本薬局方		6.00	0.20						
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09						
							薬品合成化学A		4.00	0.13						
							薬品合成化学B		3.00	0.10						
							有機化学B		42.00	1.40						
							有機化学C		27.00	0.90						
							有機化学実習	◎	18.00	0.60						
							授業担当時間の合計								121.70	4.06

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授						DDS概論		4.50	0.15
							基礎演習		10.50	0.35
							投与設計薬学特論2	院	1.50	0.05
							薬剤学A		42.00	1.40
							薬剤学実習	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		82.50	2.75
							薬学科	教授		
基礎演習		21.00	0.70							
生化学実習	◎	25.20	0.84							
病態薬物治療学A		27.00	0.90							
病態薬物治療学C		24.00	0.80							
分子病態学概論A		1.50	0.05							
分子病態学特論2	院	1.50	0.05							
授業担当時間の合計		160.20	5.34							
薬学科	准教授									
							基礎演習		10.50	0.35
							投与設計薬学特論2	院	1.50	0.05
							日本薬局方		4.50	0.15
							薬剤学B		42.00	1.40
							薬剤学実習	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		84.00	2.80
薬学科	准教授						解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							基礎演習		10.50	0.35
							病態診断学A		12.00	0.40
							病態診断学B		36.00	1.20
							分子病態学概論A		1.50	0.05
							分子病態学特論2	院	1.50	0.05
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
授業担当時間の合計		77.04	2.57							
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	60.00	2.00
							感染症学		27.00	0.90
							感染症治療学		6.00	0.20
							感染制御概論		0.75	0.03
							感染制御学特論	院	3.00	0.10
							基礎演習		21.00	0.70
							生命科学		9.00	0.30
							生命科学探究概論		1.50	0.05
							微生物学・免疫学実習	◎	31.50	1.05
							授業担当時間の合計		159.75	5.33

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>							
薬学科	准教授						基礎演習		10.50	0.35						
							創薬科学特論1	院	1.50	0.05						
							創薬科学特論2	院	1.50	0.05						
							日本薬局方		6.00	0.20						
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09						
							薬品合成化学A		22.00	0.73						
							薬品合成化学B		18.00	0.60						
							有機化学実習	◎	18.00	0.60						
							授業担当時間の合計								80.07	2.67
							薬学科	准教授						基礎演習		10.50
創薬科学特論2	院	1.50	0.05													
分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09													
分子薬品化学概論		6.00	0.20													
有機化学D		15.00	0.50													
有機化学実習	◎	18.00	0.60													
授業担当時間の合計														53.57	1.79	
薬学科	准教授						基礎演習		10.50	0.35						
							創薬科学特論2	院	1.50	0.05						
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09						
							有機化学A		15.00	0.50						
							有機化学実習	◎	18.00	0.60						
授業担当時間の合計								47.57	1.59							
薬学科	講師 (実務)						医薬品評価科学特論	院	3.25	0.11						
							医療の担い手としてのこころ構えB		10.00	0.33						
							医療薬学A		9.00	0.30						
							医療薬学B		9.75	0.33						
							緩和医療概論		4.50	0.15						
							実務事前実習	◎	4.00	0.13						
							先端臨床薬学概論		1.50	0.05						
							授業担当時間の合計								42.00	1.40
薬学科	准教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	20.00	0.67						
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21						
							基礎演習		10.50	0.35						
							病態薬物治療学B		18.00	0.60						
							分子病態学概論B		1.50	0.05						
							分子病態学特論2	院	3.00	0.10						
							薬理学C		18.00	0.60						
							薬理学実習	◎	9.11	0.30						
							授業担当時間の合計								86.54	2.88

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教						公衆衛生学A		12.00	0.40
							公衆衛生学B		9.00	0.30
							公衆衛生学実習	◎	27.75	0.93
							病因病態分析学特論	院	1.50	0.05
							分子病態学概論B		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		51.75	1.73
薬学科	教授						基礎演習		21.00	0.70
							基礎数学A		42.00	1.40
							基礎数学B		42.00	1.40
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09
							薬学統計解析学		42.00	1.40
							授業担当時間の合計		149.57	4.99
薬学科	助教						日本薬局方		4.50	0.15
							薬剤学実習	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		28.50	0.95
薬学科	助教						栄養化学		6.00	0.20
							栄養化学実習	◎	24.00	0.80
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		31.50	1.05
薬学科	教授(実務)						テーラーメイド薬物治療学		13.50	0.45
							演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	60.00	2.00
							先端臨床薬学概論		6.00	0.20
							調剤学		30.00	1.00
							臨床薬学特論	院	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							薬理学B		6.00	0.20
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計		53.04	1.77
薬学科	准教授						解剖学・生理学実習	◎	3.00	0.10
							基礎演習		21.00	0.70
							授業担当時間の合計		24.00	0.80
薬学科	准教授						基礎演習		21.00	0.70
							生化学実習	◎	25.20	0.84
							病態薬物治療学A		15.00	0.50
							病態薬物治療学C		18.00	0.60
							分子病態学概論A		3.00	0.10
							分子病態学特論2	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		83.70	2.79



学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	講師						基礎演習		10.50	0.35
							情報科学		21.00	0.70
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09
							臨床統計開発論		0.75	0.03
							授業担当時間の合計		34.82	1.16
薬学科	助教						DDS概論		1.50	0.05
							基礎化学		12.00	0.40
							投与設計薬学特論2	院	0.75	0.03
							物理化学A		3.00	0.10
							物理化学B		6.00	0.20
							物理化学実習	◎	27.75	0.93
							授業担当時間の合計		51.00	1.70
薬学科	教授(実務)						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	90.00	3.00
							感染症治療学		30.00	1.00
							感染制御概論		3.00	0.10
							感染制御学特論	院	3.00	0.10
							実務事前実習	◎	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		129.00	4.30
薬学科	教授						医薬品化学A		42.00	1.40
							医薬品化学B		42.00	1.40
							基礎演習		10.50	0.35
							研究倫理特論	院	0.50	0.02
							創薬科学特論1	院	3.00	0.10
							創薬科学特論2	院	1.50	0.05
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09
							分子薬品化学概論		6.00	0.20
							有機化学実習	◎	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		126.07	4.20
薬学科	助教						スポーツ療法		10.50	0.35
							健康科学		19.50	0.65
							体育実技	◎	84.00	2.80
							授業担当時間の合計		114.00	3.80
薬学科	助教						医薬品評価科学特論	院	4.00	0.13
							臨床情報学		1.50	0.05
							臨床統計開発論		2.25	0.08
							授業担当時間の合計		7.75	0.26

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>							
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00						
							基礎演習		21.00	0.70						
							生化学A		24.00	0.80						
							生化学B		21.00	0.70						
							生化学実習	◎	25.20	0.84						
							生命科学探究概論		1.50	0.05						
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計								124.20	4.14
							薬学科	准教授						漢方医療薬学		12.00
基礎演習		7.00	0.23													
創薬科学特論1	院	3.00	0.10													
創薬科学特論2	院	1.50	0.05													
天然医薬品学A		42.00	1.40													
天然医薬品学B		42.00	1.40													
天然医薬品学実習	◎	36.00	1.20													
日本薬局方		3.00	0.10													
薬品合成化学A		12.00	0.40													
授業担当時間の合計														158.50	5.28	
薬学科	講師 (実務)						がん化学療法学		6.00	0.20						
							医療薬学A		6.00	0.20						
							医療薬学B		6.75	0.23						
							緩和医療概論		0.75	0.03						
							実務事前実習	◎	4.00	0.13						
							臨床腫瘍学概論		4.50	0.15						
							臨床薬学特論	院	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計								29.50	0.98
薬学科	准教授						がん化学療法学		30.00	1.00						
							演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00						
							解剖学		21.00	0.70						
							基礎演習		21.00	0.70						
							基礎科学実習	◎	27.75	0.93						
							腫瘍細胞生物学		30.00	1.00						
							生命科学探究概論		1.50	0.05						
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05						
							臨床腫瘍学概論		7.50	0.25						
授業担当時間の合計								170.25	5.68							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授						解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							基礎演習		10.50	0.35
							病態診断学A		27.00	0.90
							病態診断学B		6.00	0.20
							分子病態学概論A		3.00	0.10
							分子病態学特論2	院	3.00	0.10
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						薬学英語2		84.00	2.80
							薬学英語3A		42.00	1.40
							薬学英語3B		42.00	1.40
							薬学英語4A		42.00	1.40
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						栄養化学		24.00	0.80
							栄養化学実習	◎	24.00	0.80
							栄養管理概論		6.00	0.20
							基礎演習		10.50	0.35
							生命科学		12.00	0.40
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授						スポーツ療法		10.50	0.35
							基礎演習		21.00	0.70
							健康科学		22.50	0.75
							体育実技	◎	84.00	2.80
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21
							病態診断学A		3.00	0.10
							薬理学実習	◎	9.11	0.30
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授						実務実習	◎	34.50	1.15
							臨床情報学		16.50	0.55
							授業担当時間の合計			
薬学科	講師						テーラーメイド薬物治療学		10.50	0.35
							研究倫理特論	院	0.50	0.02
							先端臨床薬学概論		3.00	0.10
							調剤学		12.00	0.40
							臨床薬学特論	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>								
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00							
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21							
							基礎演習		10.50	0.35							
							研究倫理特論	院	3.50	0.12							
							病因病態分析学特論	院	1.50	0.05							
							分子病態学概論B		3.00	0.10							
							分子病態学特論2	院	1.50	0.05							
							免疫学		27.00	0.90							
							薬理学A		33.00	1.10							
							薬理学実習	◎	9.11	0.30							
							授業担当時間の合計								125.54	4.18	
							薬学科	教授						基礎演習		28.00	0.93
														公衆衛生学A		30.00	1.00
公衆衛生学B		33.00	1.10														
公衆衛生学実習	◎	27.75	0.93														
病因病態分析学特論	院	3.00	0.10														
分子病態学概論B		1.50	0.05														
授業担当時間の合計														123.25	4.11		
薬学科	准教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00							
							解剖学・生理学実習	◎	6.43	0.21							
							基礎演習		10.50	0.35							
							病因病態分析学特論	院	1.50	0.05							
							分子病態学概論B		1.50	0.05							
							薬学演習		6.00	0.20							
							薬理学A		9.00	0.30							
							薬理学B		18.00	0.60							
							薬理学実習	◎	9.11	0.30							
							授業担当時間の合計								92.04	3.07	
薬学科	教授						基礎演習		10.50	0.35							
							情報科学		21.00	0.70							
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09							
							薬理学実習	◎	36.00	1.20							
							臨床統計開発論		0.75	0.03							
							授業担当時間の合計								70.82	2.36	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>								
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	37.50	1.25							
							感染症学		15.00	0.50							
							感染症治療学		6.00	0.20							
							感染制御学特論	院	3.00	0.10							
							基礎演習		10.50	0.35							
							細胞生物学		33.00	1.10							
							生命科学探究概論		1.50	0.05							
							生命分子科学特論1	院	1.50	0.05							
							微生物学・免疫学実習	◎	31.50	1.05							
							免疫学		9.00	0.30							
							授業担当時間の合計								148.50	4.95	
							薬学科	助教						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	20.00	0.67
														分析化学実習	◎	24.00	0.80
														授業担当時間の合計			
薬学科	教授(実務)						医療の担い手としてのこころ構えB		1.00	0.03							
							医療薬学A		15.00	0.50							
							医療薬学B		9.75	0.33							
							実務事前実習	◎	7.00	0.23							
							地域医療学A		3.00	0.10							
							地域医療学B		3.00	0.10							
							地域医療連携概論		6.00	0.20							
							臨床薬学特論	院	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計								46.25	1.54	
							薬学科	助教						がん化学療法学		6.00	0.20
演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00														
解剖学		6.00	0.20														
基礎科学実習	◎	27.75	0.93														
腫瘍細胞生物学		12.00	0.40														
生命分子科学特論1	院	1.50	0.05														
授業担当時間の合計														83.25	2.78		
薬学科	助教						創薬科学特論2	院	1.50	0.05							
							分子・生体モデリングと情報処理	◎	2.57	0.09							
							有機化学C		15.00	0.50							
							有機化学実習	◎	18.00	0.60							
							授業担当時間の合計								37.07	1.24	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>								
薬学科	教授						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	15.00	0.50							
							基礎演習		21.00	0.70							
							基礎化学		6.00	0.20							
							機器分析学A		42.00	1.40							
							機器分析学B		42.00	1.40							
							機器分析学実習	◎	27.75	0.93							
							研究倫理特論	院	3.50	0.12							
							日本薬局方		9.00	0.30							
							病因病態分析学特論	院	4.50	0.15							
							分子病態学概論A		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計								173.75	5.79	
							薬学科	講師						基礎演習		21.00	0.70
														薬品合成化学B		9.00	0.30
授業担当時間の合計														30.00	1.00		
薬学科	助教						解剖学・生理学実習	◎	90.00	3.00							
							薬理学実習	◎	72.00	2.40							
							授業担当時間の合計								162.00	5.40	
薬学科	准教授						PK - PD解析概論		1.50	0.05							
							演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	20.00	0.67							
							基礎演習		10.50	0.35							
							生体分析化学		24.00	0.80							
							投与設計薬学特論2	院	1.50	0.05							
							分析化学実習	◎	24.00	0.80							
							放射薬学		21.00	0.70							
							授業担当時間の合計								102.50	3.42	
薬学科	准教授						天然医薬品学実習	◎	72.00	2.40							
							物理化学実習	◎	30.00	1.00							
							分析化学実習	◎	24.00	0.80							
授業担当時間の合計								126.00	4.20								
薬学科	教授						医療と社会		21.00	0.70							
							医療の担い手としてのこころ構えA		9.00	0.30							
							英語2C		21.00	0.70							
							英語2E		21.00	0.70							
							基礎演習		21.00	0.70							
							研究倫理特論	院	3.50	0.12							
							現代社会		21.00	0.70							
							国際問題		21.00	0.70							
							法学A		21.00	0.70							
							法学B		21.00	0.70							
							授業担当時間の合計								180.50	6.02	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	教授 (実務)						医薬品レギュラトリーサイエンス概論		0.50	0.02
							医薬品評価科学特論	院	4.75	0.16
							医療の担い手としてのこころ構えA		1.50	0.05
							緩和医療概論		0.75	0.03
							実践医薬開発概論		1.50	0.05
							先端臨床薬学概論		1.50	0.05
							臨床統計開発論		38.25	1.28
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						基礎演習		21.00	0.70
							基礎物理学A		42.00	1.40
							基礎物理学B		42.00	1.40
							授業担当時間の合計			
薬学科	教授						コミュニケーション論		21.00	0.70
							英語1A		84.00	2.80
							英語1B		84.00	2.80
							英語2A		84.00	2.80
							基礎演習		21.00	0.70
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						演習(薬学研究演習・薬科学研究演習・演習)	院	30.00	1.00
							生化学A		9.00	0.30
							生化学B		15.00	0.50
							生化学実習	◎	25.20	0.84
							生命分子科学特論1	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授						栄養化学		12.00	0.40
							栄養化学実習	◎	24.00	0.80
							基礎演習		10.50	0.35
							生命科学		6.00	0.20
							生命分子科学特論2	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						栄養化学実習	◎	72.00	2.40
							公衆衛生学実習	◎	54.00	1.80
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						公衆衛生学実習	◎	30.00	1.00
							物理化学実習	◎	24.00	0.80
							分析化学実習	◎	72.00	2.40
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						なし		0.00	0.00
							授業担当時間の合計			
薬学科	助教						なし		0.00	0.00
							授業担当時間の合計			

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当り授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	36.00	1.20
							授業担当時間の合計		36.00	1.20
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		24.00	0.80
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	19.50	0.65
							授業担当時間の合計		19.50	0.65
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		24.00	0.80
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	39.00	1.30
							授業担当時間の合計		39.00	1.30
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	58.50	1.95
							授業担当時間の合計		58.50	1.95
薬学科	特命教授 (実務)						実務事前実習	◎	31.50	1.05
							授業担当時間の合計		31.50	1.05

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、基礎資料7(専任教員の教育担当状況(例示))に従って記入してください)

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼担学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼担学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。  
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。  
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。  
 ※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。  
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。



(基礎資料7) 教員の教育担当状況(続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
薬学科	助手						栄養化学実習 ◎	48.00	1.60
							解剖学・生理学実習 ◎	63.00	2.10
							公衆衛生学実習 ◎	24.00	0.80
薬学科	助手						実務事前実習 ◎	4.00	0.13
薬学科	助手						機器分析学実習 ◎	27.75	0.93
薬学科	助手						解剖学・生理学実習 ◎	6.43	0.21
							薬理学実習 ◎	9.11	0.30

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き 例示))に従って記入してください)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
〇〇薬科学科									
〇〇薬科学科									

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7(続き 例示))に従って記入してください)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

3年生の在籍学生数	345名
4年生の在籍学生数	395名
5年生の在籍学生数	348名
6年生の在籍学生数	382名

	配属講座など	指導教員数	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	卒業研究を実施する研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
			配属学生数	配属学生数	配属学生数	配属学生数		
1	薬化学	3	1	19	12	5	37	290.5
2	薬品製造学	3		17	17	21	55	356.6
3	薬品化学	2		14	9	9	32	293.9
4	生薬学	1		16	16	18	50	284.4
5	薬品分析学	2		11	11	14	36	280.7
6	代謝分析学	3		21	19	19	59	293.4
7	薬品物理化学	2	1	21	13	11	46	279.4
8	衛生化学	3	1	16	2	13	32	291.8
9	公衆衛生学	2	1	14	12	18	45	327.2
10	微生物・感染制御学	2		5	18	14	37	290.2
11	細胞生物学	2		14	9	15	38	434.2
12	生化学	3	1	4	6	5	16	365.1
13	病態生理学	3		2	18	14	34	293.3
14	病態生化学	3		14	18	21	53	280.7
15	薬物治療学	3		21	14	14	49	290.3
16	臨床薬理学	3	1	17	20	27	65	408.9
17	薬理学	3	1	19	5	10	35	279.4
18	臨床腫瘍学	2		12	12	18	42	278.8
19	薬剤学	3		18	20	22	60	278.8
20	薬物動態学	3		22	17	17	56	453.7
21	臨床薬学	2		19	21	19	59	291.7
22	臨床薬剤疫学	2		13	6	5	24	138.1
23	統合薬科学系	2		14	9	6	29	183.9
24	健康科学	2		14	5	9	28	150.5
25	臨床薬学教育研究センター	9	1	26	26	29	82	234.3
26	薬用植物園	2		4	4	3	11	100.5
27	放射性同位元素研究センター	2		5	5	3	13	44.8
28	共同利用機器センター	3		3	4	3	10	76.3
合 計		75	8	395	348	382	1133	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。  
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名	職名 学長	氏名 後藤直正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年9月  2021年6月	医療人としての心構えA: オンデマンド配信による3コマ担当  Lehmannプログラム「リーダ論①」: 生涯教育の一環としてのプログラムでタイトルのことを話した
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年6月16日	『臨床薬学テキストシリーズ 血液・造血器/感染症/悪性腫瘍』(共著) 第2章感染症 A 総論 1. 修得すべき知識の概要
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(著書) なし			
(論文) Extracellular Signals of a Human Epithelial Colorectal Adenocarcinoma (Caco-2) Cell Line Facilitate the Penetration of Pseudomonas aeruginosa PA01 Strain through the Mucin Layer.	共著	2017年	Front Cell Infect Microbiol. 21;7:415.
(論文) Role of pvdE Pyoverdine Synthesis in Pseudomonas aeruginosa Keratitis.	共著	2018年	Cornea. 37, S99-S105.
(論文) Comprehensive analysis of resistance-nodulation-cell division superfamily (RND) efflux pumps from Serratia marcescens, Db10.	共著	2019年	Sci. Rep. 19: 4854.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年6月 - 現在	日本私立薬科大学協会副会長		
2019年6月 - 現在	全国薬科大学長・薬学部長会議会長		
2017年6月 - 現在	日本私立薬科大学協会6年制ガイド編集委員		
2017年6月 - 現在	薬学教育協議会理事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬化学分野	職名 教授	氏名 古田巧
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年度～現在	有機化学A	ポイントを明瞭に示した資料の作成、明快な板書を心がけた。コロナ禍におけるオンデマンド講義では、ペンタブレットを活用し対面授業と変わらない詳細な解説を試みた。また、重要事項を繰り返し述べる工夫も実施した。
	2018年度～現在	有機化学D	ポイントを明瞭に示した資料の作成、明快な板書を心がけた。コロナ禍におけるオンデマンド講義では、ペンタブレットを活用し対面授業と変わらない詳細な解説を試みた。また、重要事項を繰り返し述べる工夫も実施した。
	2018年度～現在	アドバンスト薬学	ポイントを明瞭に示した資料の作成、有機化学関連薬剤師国家試験過去問集の作成など、薬剤師国家試験を見据え焦点を絞った講義を心がけた。
	2020年度	分子薬品化学概論	コロナ禍におけるオンデマンド講義となったが、ペンタブレットを活用し、有機反応機構の詳細な解説を試みた。ポイントを明瞭に示した資料の作成も行った。
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度 2019年度 2020年度 2021年度	なし なし なし なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年度 2019年度 2020年度 2020年度	なし なし なし なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2018年度 2019年度 2020年度	なし なし なし	日本薬学会第3回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップに参加

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) <i>Conformational control in dirhodium(II) paddlewheel catalysts supported by chalcogen-bonding interactions for stereoselective intramolecular C-H insertion reactions</i>	共著	2021年	<i>ACS Catalysis vol. 11 No. 2</i>
(論文) <i>Synthesis of axially chiral binaphthothiophene delta-amino acid derivatives bearing chalcogen bonds.</i>	共著	2020年	<i>Heterocycles vol. 101 No. 1</i>
(論文) <i>Synthesis and structural properties of axially chiral binaphthothiophene dicarboxylic acid.</i>	共著	2018年	<i>Chem. Pharm. Bull. vol. 66 No. 12</i>
(論文) ビアリアル型人エミノ酸の創製を起点とする分子認識型触媒の開発	単著	2018年	有機合成化学協会誌（第10巻第2号）
(著書) <i>Biaryl Amino Acids and Their Surrogates: A Unique Class of Unnatural Amino Acid.</i>	単著	2018年	<i>Springer Nature Singapore Pte. Ltd</i>
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ビアリアル型人エミノ酸の創製を起点とする触媒開発		2021年8月	第41回有機合成若手セミナー
(演題名) カルコゲン元素を含む軸性不斉ジカルボン酸の合成とロジウム二核錯体への展開		2021年5月	第19回次世代を担う有機化学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～2019年3月	日本薬学会ファルマシア委員		
2019年4月～現在	日本薬学会ファルマシアアドバイザー		
2019年4月～現在	日本薬学会 化学系薬学部会役員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬化学分野	職名 准教授	氏名 小林祐輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2020年度～現在	有機化学実習	
	2020年度～現在	有機化学A	指定教科書以外の教科書に記載されている重要事項も講義資料に盛り込んで、学生の学習意欲がでるように努めた。
	2020年度	分子薬品化学概論	キラリティーについて最新の動向も含めて紹介した。
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年度 2021年度	なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年度 2021年度	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2020年度 2021年度	なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Conformational control in dirhodium(II) paddlewheel catalysts supported by chalcogen-bonding interactions for stereoselective intramolecular C-H insertion reactions</i>	共著	2021年	<i>ACS Catalysis vol. 11 No. 2</i>
(論文) <i>Azolium/hydroquinone organo-radical co-catalysis: Aerobic C-C-bond cleavage in ketones</i>	共著	2021年	<i>Chemistry - A European Journal Vol. 27 No 8</i>
(論文) <i>Reactions Catalyzed by 2-Halogenated Azolium Salts: From Halogen-Bond Donors to Brønsted-Acidic Salts</i>	共著	2020年	<i>Synlett vol. 31 No. 8</i>
(論文) <i>Photo-Irradiation-Promoted Aminoetherification of Glycals with N-Acyliminoiodinane and Alcohols</i>	共著	2020年	<i>Heterocycles vol. 101 No. 2</i>
(論文) <i>Direct Addition of Amides to Glycals Enabled by Solvation-Insusceptible 2-Haloazolium Salt Catalysis</i>	共著	2019年	<i>Angewandte Chemie International Edition vol. 58 No. 40</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) <i>カルコゲン元素を含む軸性不斉ジカルボン酸の合成とロジウム二核錯体への展開</i>		2021年5月	第19回次世代を担う有機化学シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2020年3月	日本薬学会第140年会 一般シンポジウム オーガナイザー
2020年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会 座長
2021年3月	日本薬学会第141年会 座長

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬化学分野	職名 助教	氏名 浜田翔平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年度～現在	有機化学実習	
	2019年度～現在	有機化学C	教科書の要点をまとめたプリントを作成し、学生が理解しやすくなるよう努めた。
	2020年度	分子薬品化学概論	自身の経験を踏まえて、製薬企業での創薬研究を紹介した。
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年度	理系薬学版アカデミックスキル (京都薬科大学)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018～2020年度 2021年度	なし なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2018～2020年度 2021年度	なし なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(論文) <i>Conformational control in dirhodium(II) paddlewheel catalysts supported by chalcogen-bonding interactions for stereoselective intramolecular C-H insertion reactions</i>	共著	2021年	<i>ACS Catalysis vol. 11 No. 2</i>
(論文) <i>Chemoselective oxidation of p-methoxybenzyl ethers by an electronically tuned nitroxyl radical catalyst.</i>	共著	2020年	<i>Organic Letters vol. 22 No. 14</i>
(論文) <i>Axial chirality in biaryl N, N-dialkylaminopyridine derivatives bearing an internal carboxy group.</i>	共著	2020年	<i>Chirality vol. 32 No. 5</i>
(論文) <i>Synthesis of axially chiral binaphthothiophene delta-amino acid derivatives bearing chalcogen bonds.</i>	共著	2020年	<i>Heterocycles vol. 101 No. 1</i>
(論文) <i>Simple and rapid p-methoxybenzylation of hydroxy and amide groups at room temperature by NaOt-Bu and DMSO</i>	共著	2019年	<i>Tetrahedron Letters vol. 60 No. 48</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カルコゲン元素を含む軸性不斉ジカルボン酸の合成とロジウム二核錯体への展開		2021年5月	第19回次世代を担う有機化学シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年11月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム世話人

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品製造学分野	職名 教授	氏名 山下 正行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017~2021年度	有機化学B(1年次、10月~3月)、有機化学C(2年次、4月~9月)の講義において、薬学の基礎として有機化合物の構造・性質・反応を理解できるようにした。分子模型、反応の動画をを用い視覚的に見られるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Convergent synthesis of stereoisomers of THF ring moiety of acetogenin thiophene analogue and their antiproliferative activities against human cancer cell lines	共著	2017年4月	Tetrahedron, vol. 73, No. 17
Novel and practical asymmetric synthesis of $\beta$ 2,3-amino esters using asymmetric Michael addition of chiral amine	共著	2017年4月	Tetrahedron, vol. 73, No. 15
Facile preparation of 2-oxo-2H-1-pyran-3-carboxylates with the electron-withdrawing group at the 5-position	共著	2020年3月	Heterocycles, vol. 100, No. 3
[2+2]photocycloaddition of 5,6-substituted 2-Oxo-2H-pyran-3-carboxylates with Alkenes	共著	2021年2月	Heterocycles, vol. 102, No. 2
Reaction of 3-Oxa-2-oxobicyclo[4.2.0]oct-4-ene-1-carboxylate with Dimethylsulfoxonium Methylide	共著	2021年4月	Chem. Pharm. Bull., vol. 69, No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
$\alpha$ -ピロン体から合成されるシクロブタン体と硫黄イリドとの反応		2019年10月	第69回日本薬学会関西支部大会
3-Oxa-2-oxobicyclo[4.2.0]oct-4-ene-1-carboxylateと硫黄イリドの反応		2020年3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
~現在	薬剤師国家試験問題検討委員「物理・化学・生物」部会委員		
~現在	有機化学系教科担当会議委員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品製造学分野	職名 准教授	氏名 小島直人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年度～現在	担当する薬品合成化学Aにおいて、SGD形式を取り入れ、受講生が相互に教え合うことによる理解度の向上を図った。また、直後に解説を行うことにより、理解度のさらなる向上を試みた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年度～現在 2020年度～現在	有機化学実習における概要説明および実験操作の説明に関する動画の作成 3Dプリンタによる有機化合物の三次元モデルの作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Convergent synthesis of stereoisomers of THF ring moiety of acetogenin thiophene analogue and their antiproliferative activities against human cancer cell lines	共著	2017年4月	Tetrahedron Vol.73 No.17
Mosquito larvicidal and antifungal isoquinoline alkaloids from Papaveraceae	共著	2019年4月	Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology Vol.30 No.2
Synthesis and cancer cell growth inhibition effects of acetogenin analogs bearing ethylene glycol units for enhancing the water solubility	共著	2020年3月	Tetrahedron Vol.76 No.13
Syntheses of C2'-Fluorinated Analogs of Solamin	共著	2020年7月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol.68 No.7
新規なAMP活性化プロテインキナーゼ活性化剤	共著	2021年6月	特願2021-094481
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Synthesis and Antitumor Activity of Acetogenin Derivative with N-Methylpyrazole Connected by Sulfonamide		2018年11月	IKC0C-14
Convergent Synthesis and Growth Inhibitory Activity Evaluation of Stereoisomers around THF Ring of Acetogenin Thiophene Analogues		2019年9月	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年12月～現在	大阪府立大手前高等学校 集中セミナー 講師(3時間/年1回)		
2014年2月～現在	有機合成化学協会 関西支部幹事		
2019年4月～2021年3月	日本薬学会 代議員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品製造学分野	職名 助教	氏名 岩崎 宏樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		17年度から21年度	丸暗記の勉強ではなく理解して新しい事象も解決できる能力を養える教育を目指している。そのために、電子の動きを重点的に説明している。重要ポイントをつかみやすいよう、プリントを作成し、講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		17年度から21年度 21年度	講義参考資料（配布プリント） 3Dプリンターを使用した3D分子模型
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Facile preparation of 2-oxo-2H-1-pyran-3-carboxylates with the electron-withdrawing group at the 5-position.	共著	2020年3月	Heterocycles, 2020, 100, 429-439.
Synthesis and cancer cell growth inhibition effects of acetogenin analogs bearing ethylene glycol units for enhancing the water solubility	共著	2020年3月	Tetrahedron, 2020, 76, 131058.
Application of a novel chromophoric reagent, 2,2'-binaphthyl-3,3'-dicarbonyl cyanide, to the absolute configuration determination of chiral secondary alcohols.	共著	2020年6月	Tetrahedron Lett. 2020, 61, 151984.
Syntheses of C2'-fluorinated analogs of solamin	共著	2020年7月	Chem. Pharm. Bull. 2020, 68, 675-678.
Strong binding affinity of D-allulose and allulosides to boronic acids and the structural characterization of their sugar-boronate complexes	共著	2021年5月	Chemistry Letters, advanced publication on the web May 20, 2021
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
イソキノリンN-オキシドを反応中間体とするイソキノリンのone-pot合成反応の開発		2021年3月	日本薬学会第141年会
超原子価ヨウ素反応剤と求核剤を用いる $\beta,\gamma$ -置換 $\gamma$ -ブチロラクトン誘導体合成法の開発		2021年3月	日本薬学会第141年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2006年から現在	日本薬学会会員
～現在	有機合成化学協会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品化学	職名 教授	氏名 大石 真也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2020年4月～  2020年5月～  2020年6月～	オンラインアンケート形式によりオンライン講義のフィードバックを受ける仕組みを確立した  TedやTed-edの動画サイトの活用により、医薬化学や生命科学に関する幅広い知識を身近に感じる機会を増やすための試みを行った  オンライン講義と併用して匿名で質問を受け付けることを可能にする講義ごとの掲示板を構築した	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2020年10月	オンライン講義に用いるツールなどに関して情報共有するためのTeamsのサイトを立ち上げた	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(論文) Total synthesis and stereochemical revision of stereocalpin A: mirror-image approach for stereochemical assignments of the peptide-polyketide macrocycle	共著	2018年3月	J. Org. Chem. vol. 83, No. 6
(論文) Structure-activity relationship study of cyclic pentapeptide ligands for atypical chemokine receptor 3 (ACKR3)	共著	2018年4月	J. Med. Chem. vol. 61, No. 8
(論文) Development of mirror-image screening systems for XIAP BIR3 domain inhibitors	共著	2019年5月	Bioconjug. Chem. vol. 30, No. 5
(論文) Synthesis of triazolo- and oxadiazolo-piperazines by gold(I)-catalyzed domino cyclization: application to the design of a MAP kinase inhibitor	共著	2019年1月	Org. Lett. Vol. 21, No. 2
(論文) Coibamide A targets Sec61 to prevent biogenesis of secretory and membrane proteins	共著	2020年8月	ACS Chem. Biol. vol. 15, No. 8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
鏡像タンパク質を活用した創薬研究		2021年11月	第94回日本生化学会大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～2019年3月	日本薬学会 国際創薬シンポジウム準備委員会委員
2017年4月～2020年3月	日本ペプチド学会 ペプチドニュースレター編集委員
2017年4月～現在	日本ペプチド学会 評議員
2018年4月～2018年12月	10th International Peptide Symposium: Local Organizing Committee Member
2019年1月～現在	Bioconjugate Chemistry (American Chemical Society) Editorial Advisory Board
2019年4月～2019年12月	第37回メディシナルケミストリーシンポジウム実行委員
2021年4月～現在	日本薬学会学術誌編集委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬品化学
職名	准教授	氏名	小林 数也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017, 2018, 2021年度  2017年度～現在  2018年度  2018年度～現在  2019年度～現在  2020年度～現在	分子薬品化学概論：最新のトピックを取り入れることで学びへの好奇心を刺激できるよう心がけた。  アドバンスト薬学：スライド内の情報が過多にならないよう注意した。授業の最後に練習問題を解かせ、理解度の確認を行った。  薬学総合演習：グループ討論を取り入れ、協同的な学びの実践を試みた。  基礎演習：SGDを行い共同的な学びを実践した。発表機会を多く設け、スライド作成等の練習を行わせた。  有機化学D：授業評価の意見を参考に、話すスピードや板書の量が適切になるよう気を付けた。授業の最後に課題を課し、講義内容の復習と定着を図った。  創薬科学特論II：SARS-CoV-2を題材にすることで、最新情報の収集を経験させた。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年度	学内向け教材「理系薬学版アカデミック・スキル」
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effects of Replacement and Addition of an Amino Acid Contained in a Cyclic Peptide Corresponding to a $\beta$ -hairpin Loop Sequence of Human EGF Receptor	共著	2017年	J. Pept. Sci. 23, 581-586
(論文) Use of a compact tripodal tris(bipyridine) ligand to stabilize a single-metal-centered chirality: stereoselective coordination of iron(II) and ruthenium(II) on a semirigid hexapeptide macrocycle.	共著	2018年	Inorg. Chem. 2018, 57, 5475-5485.
(論文) Evaluation of a non-prime site substituent and warheads combined with a decahydroisoquinolin scaffold as a SARS 3CL protease inhibitor.	共著	2019年	Bioorg. Med. Chem. 2019, 27, 425-435.
(論文) Convergent Synthesis of trans-2,6-Disubstituted Piperidine Alkaloid, (-)-iso-6-Spectraline by Palladium-Catalyzed Cyclization.	共著	2019年	Chem. Pharm. Bull. (Tokyo), 2019, 67, 253-257.
(論文) Evaluation of an octahydroisochromene scaffold used as a novel SARS 3CL protease inhibitor.	共著	2020年	Bioorg. Med. Chem. 2020, 28, 115273.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2008年～現在	日本薬学会・会員（会員番号：0800134）	
2008年～現在	日本ペプチド学会・会員（会員番号：112004）	
2013年～現在	日本癌学会・会員（会員番号：048411）	
2016年～現在	American Chemical Society・会員（会員番号：31133509）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 中村 誠宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年4月～ 2017年3月まで	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 前期授業評価8.8点/10.0点 後期授業評価9.1点/10.0点 2) 3年次天然医薬品学実習を担当	
	2017年4月～ 2018年3月まで	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 前期授業評価8.7点/10.0点 後期授業評価9.0点/10.0点 2) 3年次天然医薬品学実習を担当	
	2018年4月～ 2019年3月まで	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 前期授業評価8.9点/10.0点 2) 3年次天然医薬品学実習を担当	
	2019年4月～ 2020年3月まで	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 前期授業評価9.0点/10.0点 後期授業評価9.3点/10.0点 2) 3年次天然医薬品学実習を担当	
	2020年4月～ 2021年3月まで	1) 3年次科目天然医薬品学AおよびBの一部を担当 前期授業評価9.39点/10.0点 後期授業評価9.35点/10.0点 2) 3年次天然医薬品学実習を担当  得られた知識が医療現場や社会で活用できるよう講義を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2016年11月11日	高等学校模擬授業 [京都府立洛北高等学校]	
	2017年6月23日	高等学校模擬授業 [京都府立洛北高等学校]	
	2017年12月23日	薬学共用試験OSCE評価者 (同志社女子大学)	
	2018年6月29日	高等学校模擬授業 [京都府立洛北高等学校]	
	2018年10月26日	高等学校模擬授業 [東山高等学校]	
	2019年6月21日	高等学校模擬授業 [京都府立洛西高等学校]	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）スパイス・ハーブの機能と応用（第3章単子葉植物 ヒガンバナ科（ネギ））	共著	2020年10月	シーエムシー出版（森川敏生監修），pp. 77-84（2020）
（論文）One-pot enantioselective synthesis of (S)-spirobrassinin and non-natural (S)-methylspirobrassinin from amino acids using a turnip enzyme	共著	2021年2月	<i>Journal of Natural Medicines</i> , vol 75, 308-318 (2021).
（論文）Structures of cyclic organosulfur compounds from garlic ( <i>Allium sativum</i> L.) leaves	共著	2020年4月	<i>Frontiers in Chemistry</i> , vol 8, Pages00282 (2020).
（論文）Rare sulfur-containing compounds, kujounins A1 and A2 and allium sulfoxide A1, from <i>Allium fistulosum</i> 'Kujou'.	共著	2018年1月	<i>Organic Letters</i> , vol 20, 28-31 (2018).
（論文）Oxazonigelladine and dolabellane-type diterpene constituents from <i>Nigella damascena</i> seeds.	共著	2017年12月	<i>Tetrahedron</i> , vol 73, 7054-7060 (2017).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Half natural sulfur-containing compounds derived from medicinal plants		2020年12月	1st AASP Young Scientist Conference
（演題名） <i>Nigella</i> 属植物クロタネソウに含まれるアルカロイド成分の探索とそれらの抗 HSV-1 活性		2019年9月	第61回 天然有機化合物討論会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～2021年3月	日本薬学会 学術誌編集委員		
2021年4月～現在	日本生薬学会 関西支部委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 薬品分析学分野	職名 教授	氏名 武上茂彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2017年～現在  2020年～現在	主に機器分析学AB、日本薬局方において、配布冊子のページごとに上にスライド、下にメモ欄を設けている。授業評価ではメモ欄が学生から好評されている。  主に機器分析学AB、日本薬局方において、知識の定着のため、manabaで講義の復習小テストを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月30日 2021年3月30日	京薬生のためのアカデミック・スキル 理系薬学版アカデミック・スキル
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年9月	小学校における薬物乱用防止教育「お薬教室」を通して、京都市立音羽小学校 専門医派遣事業
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年9月26日	「読売新聞京都版」薬の知識 わかりやすく解説
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Electrochemiluminescence bioassays with a water-soluble luminol derivative can outperform fluorescence assays	共著	2018年1月	Angewandte Chemie International Edition vol.57 No.2
(論文) Thermal behavior of <sup>19</sup> F nuclear magnetic resonance signal of <sup>19</sup> F-containing compound in lipid nano-emulsion for potential tumor diagnosis	共著	2018年8月	AAPS PharmSciTech. vol.19 No.6
(論文) Combination of <sup>1</sup> H nuclear magnetic resonance spectroscopy and principal component analysis to evaluate the lipid fluidity of flutamide-encapsulated lipid nanoemulsions	共著	2018年8月	Analytical Bioanalytical Chemistry vol.410 No.20
(論文) Effects of mono- and dialkylglucosides on the characterisation and blood circulation of lipid nanoemulsions	共著	2019年10月	Journal of Microencapsulation vol.36 No.8
(論文) Application of molecularly imprinted polymer-modified potentiometric sensor for quantitative determination of histamine in serum	共著	2020年12月	Analytical Sciences vol.36 No.12

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）メラミン検出のためのポリジアセチレンリポソーム型イクオリン生物発光デバイスの開発に関する基礎的検討	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
（演題名）疎水性イオン液体含有コルチゾールインプリントゲルの調製およびコルチゾール結合量の測定	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
（演題名） $\gamma$ -グルタミルトランスフェラーゼ検出のためのポリジアセチレンリポソーム型イクオリン生物発光デバイスへのグルタチオンの修飾の検討	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年11月～2019年11月	山科区薬物乱用防止指導員協議会主催 薬物乱用防止街頭啓発（年1回、1日）	
2017年10月～2021年2月	京都市立安朱小学校 薬物乱用防止教室（年1回、1日、3年生と6年生）	
2020年11月	京都市立音羽小学校 薬物乱用防止教室（年1回、1日、6年生）	
2021/5/1～現在	日本薬学会関西支部委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品分析学分野	職名 助手	氏名 小西 敦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度～現在	担当科目：機器分析学実習（2年次生） 工夫：結果から考えた考察を教員に説明する口頭試問を設けた。考える力、伝える力を育むことを目的としており、学生がより前向きに実習に取り組む姿が見られた。また、学生からは、実験内容の意義が理解できたという意見があった。	
	2018年度、2020年度	担当科目：薬学総合演習Ⅰ部（4年次生） 工夫：課題に対し、グループで討論し、最後に発表をする授業形式である。討論をおこなうグループの人数は最大でも3人と少人数とすることで、各学生が積極的に討論に参加できるようにした。また、取り組んだ課題に関連した国家試験の問題を紹介した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) A molecularly imprinted polymer-modified potentiometric sensor for the detection of glutathione	共著	2019年10月	<i>Analytical Sciences</i> 巻：35 号：10
(論文) Construction and studies of histamine potentiometric sensors based on molecularly imprinted polymer	共著	2020年8月	<i>Current Analytical Chemistry</i> 巻：16 号：6
(論文) Application of molecularly imprinted polymer-modified potentiometric sensor for quantitative determination of histamine in serum	共著	2020年12月	<i>Analytical Sciences</i> 巻：36 号：12

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）メラミン検出のためのポリジアセチレンリポソーム型イクオリン生物発光デバイスの開発に関する基礎的検討	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
（演題名）疎水性イオン液体含有コルチゾールインプリントゲルの調製およびコルチゾール結合量の測定	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
（演題名） $\gamma$ -グルタミルトランスフェラーゼ検出のためのポリジアセチレンリポソーム型イクオリン生物発光デバイスへのグルタチオンの修飾の検討	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年8月	京都薬科大学オープンキャンパス 体験実習「発光現象を体験しよう！」実施	
2018年8月	京都薬科大学オープンキャンパス 体験実習「光のサイエンス」実施	
2019年8月	京都薬科大学オープンキャンパス 体験実習「光のサイエンス」実施	
加入学会	日本薬学会, 日本分析化学会, イオン液体研究会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 代謝分析学分野	職名 教授	氏名 安井裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 自主的な学修習慣の促しと反転授業の一環を目的として、毎回の講義に関するレポート作成を課題（その日の講義内容の重要項目に関する簡単な記述式の課題を掲示）として取り組ませた。双方向的な授業とするため、翌週には課題についての解説と提出レポートへのフィードバックを実施した。	2019年4月から	担当科目である1年次生の基礎化学及び分析化学、2年次生の生体分析化学で実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 コンパス 分析化学 改訂第2版 科学者の研究倫理—化学・ライフサイエンスを中心に— 臨床分析学のサブノート 第2版	2017年1月 2018年6月 2018年8月	薬学6年制教育における分析化学の学修エッセンスを纏めた教科書（共著）である。 大学での研究活動を開始するに当たり、最初に心得ておくべき内容を編纂した研究倫理・研究公正に関する教科書（共著）である。 薬学6年制教育における臨床分析学の学修エッセンスを纏めた教科書（共著）である。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 アカデミアにおける研究公正への取り組み 実験実習における能動的学修推進への取り組み—分析化学実習に導入した「ピアレビューによる実技確認（検定）」の効果について— 実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認（検定）について— 社会とアカデミアの関係を基盤とした研究活動と研究室運営 社会との関係を基盤とした研究活動・研究室運営	2017年3月 2017年9月 2019年8月 2019年8月 2020年1月	日本薬学会第137年会の一般シンポジウムで、大学における研究公正活動の諸相について教育的講演を行った。 第2回日本薬学教育学会大会で、学生の能動的学習促進に関するポスター発表を行った。 第4回日本薬学教育学会大会で、学生の実技技能向上を目指したルーブリックに関するポスター発表を行った。 第6回衛生薬学・環境トキシコロジー 若手研究者の会で、大学での研究室活動を通じた高等教育の方法と実践について実例を挙げて講演した。 滋賀県立大学環境科学研究科の通年科目である環境研究倫理特論にて、非常勤講師として大学における研究公正活動の実際及び研究室活動における研究公正の実践例を挙げて講演し、大学院生との討論を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) <i>Metallomics—Recent Analytical Techniques and Applications—</i>	共著	2017年1月	Springer Japan KK
(論文) <i>Anti-diabetic effect of organo-chalcogen (sulfur and selenium) zinc complexes with hydroxypyrene derivatives on leptin-deficient type 2 diabetes model ob/ob mice.</i>	共著	2017年11月	<i>International Journal of Molecular Science</i> , 2017, 18, E2647.
(論文) <i>Investigating the target organs of novel anti-diabetic zinc complexes with organoselenium ligands.</i>	共著	2018年3月	<i>Journal of Inorganic Biochemistry</i> , 2018, 185, 103-112.
(論文) <i>Predicting organ carotenoids levels from analysis of plasma could lead to errors: A study in cynomolgus monkeys.</i>	共著	2019年2月	<i>Nutrition Research</i> , 2019, 61, 95-101.

(論文) <i>Analysis of the predictive factors for a critical illness of COVID-19 during treatment — relationship between serum zinc level and critical illness of COVID-19—</i>	共著	2020年9月	<i>International Journal of Infectious Disease, 2020, 100, 230–236.</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 血清亜鉛値とCOVID-19重症化との関連分析		2021年2月	第21回 日本亜鉛栄養治療研究会学術集会
(演題名) 低亜鉛血症とCOVID-19重症化及び死亡例との関連分析		2021年9月	日本亜鉛栄養治療研究会 中四国支部学術集会
(演題名) 亜鉛はいかにしてCOVID-19重症化に関与しうるのか?		2021年9月	日本臨床栄養代謝学会 近畿支部
(演題名) 血清亜鉛値はCOVID-19の重症化を判別予測できる臨床検査値である		2021年10月	第53回 日本医療検査科学学会
(演題名) COVID-19の重症化患者を判別予測する因子の解析—血清亜鉛値とCOVID-19重症化の関連を中心として—		2021年11月	第61回 日本臨床化学学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013年2月～2023年1月	日本薬学会物理系薬学部会 庶務幹事		
2014年5月～2022年4月	日本酸化ストレス学会 評議員		
2014年5月～2022年4月	日本TDM学会 評議員		
2020年8月～2023年7月	日本微量元素学会 評議員		
2019年10月～2022年5月	特定非営利活動法人さんぴいす 監事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 代謝分析学分野	職名 准教授	氏名 木村寛之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年4月から	担当科目である、2年次生の生体分析化学、3年次生の放射薬学で実践した。
双方向型講義を目指し、毎回講義の後にレポート形式の課題を出し、コメントを付けて返却することを実践した。そのことにより、学生の理解度の確認や、学生が疑問に思っていることを把握することができた。			
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年9月7日	薬学領域における放射化学の基礎と臨床に関する教科書である。
臨床放射薬学 初版 京都廣川書店			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2017年9月2日	第2回日本薬学教育学会大会で、放射性医薬品に関する薬学生の意識調査と99mTc製剤の取り扱いに関するデモ実習についてポスター発表を行った。 第2回日本薬学教育学会大会で、担当する分析化学実習で実践した実技検定に関するポスター発表を行った。 第4回日本薬学教育学会大会で、担当する分析化学実習で実践した実技検定に関するポスター発表を行った。
放射性医薬品に関する薬学生の意識調査とデモ実習への取り組み 実験実習における能動的学修推進への取り組み—分析化学実習に導入した「ピアレビューによる実技確認（検定）」の効果について—		2017年9月	
実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認（検定）について—		2018年8月	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
「なし」			(FDを含む)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) <i>Handbook of In Vivo Chemistry in Mice, 2 Vols.: From Lab to Living System</i>	共著	2020年2月	Wiley-VCH, Weinheim, 2020, 151-208.
(論文) <i><sup>18</sup>F-Labeled 4-(anilino)pyrido[3,4-d]pyrimidine as an effective imaging probe targeting L858R-mutant epidermal growth factor receptor.</i>	共著	2017年5月	ACS Medicinal Chemistry Letters, 8 (4), 418-422
(論文) <i>Initial clinical evaluation of PET/CT with <sup>18</sup>F-FSU-880 targeting prostate-specific membrane antigen.</i>	共著	2019年1月	Cancer Science, 110 (2):742-750
(論文) <i>Synthesis of <sup>18</sup>F-labeled streptozotocin derivatives and an in-vivo kinetics study using positron emission tomography.</i>	共著	2020年9月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 30, 127400
(論文) <i>Copper-mediated radioiodination reaction through aryl boronic acid or ester precursor and its application to direct radiolabeling of a cyclic peptide.</i>	共著	2021年5月	Journal of Labelled Compounds and Radiopharmaceuticals, 64(8) 336 - 345

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) <i>Synthesis of 18F-labeled streptozotocin derivatives and in vivo kinetics using positron emission tomography.</i>	2021年6月	2021 CSPS/PSJ/CC-CRS SYMPOSIUM (Canada)
(演題名) 新しいトレーサー開発と標識法について	2021年8月	PETサマーセミナー2021
(演題名) 18F標識法について	2021年9月	第10回フッ素化学若手の会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年4月～現在	日本アイソトープ協会 第2期理工・ライフサイエンス部会 RI利用推進専門委員会	
	加入学会名：日本薬学会，医薬化学部会，日本分析化学会，日本化学会，日本分子イメージング学会，日本フッ素化学会，日本ペプチド学会，日本核医学会，放射性薬品科学研究会，放射性医薬品・画像診断薬研究会，小動物インビボイメージング研究会，日本薬物動態学会，日本薬学教育学会，Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging（米国核医学会），Society of Radiopharmaceutical Sciences	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 代謝分析学分野	職名 助教	氏名 内藤行喜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 動画配信での講義であったため、学生に伝えたいこと、各回の講義で学んでもらいたい内容を、視覚的にも理解し易いように出来るだけシンプルなスライド・動画を作成しました。「動画を長時間見続けることがしんどい」、「見返したい部分が探しにくい」など、学生への負担が減るように、動画は分割してアップロードするようにしました。		2020年4月	担当した2年次生の薬学英语で実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 実験実習における能動的学修推進への取り組み—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)の効果について— 実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)について—		2017年9月  2019年8月	第2回日本薬学教育学会大会で、学生の能動的学習促進に関するポスター発表を行った。  第4回日本薬学教育学会大会で、学生の技能向上を目指したルーブリックに関するポスター発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Anti-hyperglycemic effect of long-term bis(hinokitiolato)zinc complex ([Zn(hkt)2] ingestion on insulin resistance and pancreatic islet cells protection in type 2 diabetic KK-Ay mice.</i>	共著	2017年3月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 2017, 40, 318-326.
(論文) <i>Beneficial effect of bis(hinokitiolato)Zn complex on high-fat diet-induced lipid accumulation in mouse liver and kidney.</i>	共著	2017年6月	<i>In vivo</i> , 2017, 31, 1145-1151.
(論文) <i>In vivo effect of bis(maltolato)zinc(II) complex on Akt phosphorylation in adipose tissue of mice.</i>	共著	2019年2月	<i>Biol. Trace Elem. Res.</i> , 2019, 192, 206-213.
(論文) <i>Effects of exercise on biological trace element concentrations and selenoprotein P expression in rats with fructose-induced glucose intolerance</i>	共著	2020年3月	<i>J Clin Biochem Nutr.</i> , 2020, 66, 124-131.
(論文) <i>Bright and dark sides of exercise effects on biological responses such as energy metabolism and renal function in rats with renal failure and fructose-induced glucose intolerance</i>	共著	2020年5月	<i>J Clin Biochem Nutr.</i> , 2020, 66, 198-205.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) 糖尿病の予防および治療を目指した亜鉛錯体の作用機序の解明	2021年9月	PPF2020/2021 第18回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年～現在	日本薬学会会員	
2016年～2020年	日本薬学教育学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名 薬品物理化学	職名：教授	氏名：斎藤博幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 ベーシック薬学教科書シリーズ3 物理化学 第2版 パートナー薬剤学 改訂第3版		2018年3月1日 2017年3月30日	第18章 輸送過程 ~ 第20章 アレニウスの式と反応速度理論を執筆・改訂 第3章 製剤の性質 4. 界面化学を共同執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Immunochemical Approach for Monitoring of Structural Transition of ApoA-I upon HDL Formation Using Novel Monoclonal Antibodies	共著	2017年6月	Springer Nature, Sci. Rep. 7(1)
(論文) A novel amphipathic cell-penetrating peptide based on the N-terminal glycosaminoglycan binding region of human apolipoprotein E	共著	2019年3月	Elsevier, BBA - Biomembranes 1861 (3)
(論文) Mechanisms of Aggregation and Fibril Formation of the Amyloidogenic N-terminal Fragment of Apolipoprotein A-I	共著	2019年9月	ASBMB, J. Biol. Chem. 294 (36)
(論文) Sulfated Glycosaminoglycans Mediate Prion-like Behavior of p53 Aggregates	共著	2020年12月	National Academy of Sciences, PNAS 117(52)
(論文) 脂質膜環境におけるアポリポタンパク質の凝集・アミロイド線維化機構	共著	2021年1月	日本膜学会、膜 (Membrane) 46巻1号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
$\alpha$ シヌクレインの $\beta$ 構造転移・線維化に対するホスファチジルセリンの影響		2021年6月	日本膜学会第43年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年5月～現在	日本膜学会誌「膜」編集委員		
2012年5月～現在	日本膜学会理事		
2017年5月～2019年5月	日本膜学会副会長		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬品物理化学分野	職名 助教	氏名 扇田隆司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年度～現在	基礎化学講義：化学用語などの基本事項から丁寧に説明した。
		2017年度	物理化学A講義：要点をまとめた講義資料を配布した。スライドや板書で図を示すことで、現象をイメージしやすいようにした。
		2017年度～2021年度	物理化学B講義：要点をまとめた講義資料を配布した。スライドや板書で図を示すことで、現象をイメージしやすいようにした。
		2017年度～2021年度	物理化学実習：実験データを実習時間中にまとめてもらい、前年度の講義を振り返りつつ結果を解説した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年度	ベーシック薬学教科書シリーズ3 物理化学 (第2版) 11章 電解質溶液と電気化学
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Novel conformation-selective monoclonal antibodies against apoA-I amyloid fibrils.	共著	2021年3月	FEBS J. 2020, 288(5)
Sulfated glycosaminoglycans mediate prion-like behavior of p53 aggregates	共著	2020年12月	PNAS. 2020, 117(52)
Enhancement of direct membrane penetration of arginine-rich peptides by polyproline II helix structure	共著	2020年10月	BBA-Biomembranes. 2020, 1862(10)
Mechanisms of aggregation and fibril formation of the amyloidogenic N-terminal fragment of apolipoprotein A-I	共著	2019年7月	J. Biol. Chem. 2019, 294(36)
A novel amphipathic cell-penetrating peptide based on the N-terminal glycosaminoglycan binding region of human apolipoprotein E	共著	2019年3月	BBA-Biomembranes. 2019, 1861(3)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
$\alpha$ シヌクレインの $\beta$ 構造転移・線維化に対するホスファチジルセリンの影響		2021年6月	日本膜学会第43年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年度～現在	日本薬学会会員		
2017年度～現在	日本生物物理学会会員		
2017年度～現在	日本生化学会会員		
2017年度～現在	日本膜学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 衛生化学分野	職名 教授	氏名 長澤 一樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			生命科学(1年次)、栄養化学(2年次)及び栄養管理概論(6年次)の講義において、臨床現場での経験を活かして現場で求められる統合的知識の必要性を認識させるように、またその学修到達度を適切に評価できるように工夫した。 授業評価は全科目平均で7.9であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月10日 2016年2月15日	薬学領域のための食品衛生化学第3版(編・著) スタンダード薬学シリーズII 5衛生薬学-健康と環境(著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Elevation of the blood glucose level is involved in an increase in expression of sweet taste receptors in taste buds of rat circumvallate papillae.	共著	2020年3月	<i>Nutrients</i> , 12, 990
Intracellular labile zinc is a determinant of vulnerability of cultured astrocytes to oxidative stress.	共著	2019年8月	<i>Neurosci. Lett.</i> 707, 134315
Ergothioneine ameliorates oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in rats.	共著	2018年8月	<i>Life Sci.</i> 207, 516
Oxidative stress-induced increase of intracellular zinc in astrocytes decreases their functional expression of P2X7 receptors and engulfing activity.	共著	2017年12月	<i>Metallomics</i> , 9, 1839
Expression level of P2X7 receptor is a determinant of ATP-induced death of mouse cultured neurons.	共著	2016年4月	<i>Neuroscience</i> , 319, 35
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PEG修飾リポソーム製剤化oxaliplatin投与ラットにおいて甘味感受性の低下を誘発するその舌組織への蓄積に対する口腔冷却の影響		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
OxaliplatinのPEG修飾リポソーム化はその舌における蓄積を増大し、甘味感受性の低下を増悪する		2021年9月	日本味と匂学会第55回大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2010年4月～現在	日本味と匂学会評議員
1988年4月～現在	日本薬学会会員
1990年4月～現在	日本医療薬学会会員
2000年4月～現在	日本神経化学学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	衛生化学分野
職名	准教授	氏名	高山 健太郎
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		生命科学(1年次)、栄養化学(2年次)の講義において、薬学の基礎を前提とした理解、即ち化学構造を基盤とした応用力を醸成できるよう工夫した。授業評価は全科目平均で7.4であった。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	<i>Proposal for the binding mode of the 23-mer inhibitory peptide to myostatin</i>	共著	2021年4月
	<i>Design and synthesis of peptidic partial agonists of human neuromedin U receptor 1 with enhanced serum stability</i>	共著	2020年9月
	<i>A chemically stable peptide agonist to neuromedin U receptor type 2</i>	共著	2020年5月
	<i>Chain-shortened myostatin inhibitory peptides improve grip strength in mice</i>	共著	2019年5月
	<i>Discovery of a human neuromedin U receptor 1-selective hexapeptide agonist with enhanced serum stability</i>	共著	2017年9月
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	サルコペニア治療を目指したイオンフォレシスによる非侵襲的なペプチドの骨格筋送達	2021年5月	日本薬学会第36年会
	標的選択的光酸化を用いたマイオスタチンの効率的阻害	2021年6月	日本ケミカルバイオロジー学会第15年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年4月～現在	日本ペプチド学会会員		
2008年2月～現在	日本薬学会会員		
2016年4月～現在	日本内分泌学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 衛生化学分野	職名 助教	氏名 森戸 克弥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			栄養化学実習(3年次)において、各実験の原理やそれぞれの操作の理由について考えさせ、単なる作業にならないよう工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Mass spectrometric analysis of sphingomyelin with N- $\alpha$ -hydroxy fatty acyl residue in mouse tissues.	共著	2021年3月	<i>Lipids</i> , 56, 181-188
ペルオキシソームにおける脂肪酸酸化の役割	共著	2020年10月	<i>生化学</i> , 92, 632-639
Isolation of glycosylinositol phosphoceramide and phytoceramide 1-phosphate in plants and their chemical stabilities.	共著	2020年9月	<i>J. Chromatogr. B</i> , 1152, 122213.
Intracellular Ca <sup>2+</sup> -dependent formation of N-acyl-phosphatidylethanolamines by human cytosolic phospholipase A <sub>2</sub> $\epsilon$ .	共著	2019年12月	<i>Biochim. Biophys. Acta</i> , 1864, 158515.
Gut microbial metabolites of linoleic acid are metabolized by accelerated peroxisomal $\beta$ -oxidation in mammalian cells.	共著	2019年11月	<i>Biochim. Biophys. Acta</i> , 1864, 1619-1628.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PEG修飾リポソーム製剤化oxaliplatin投与ラットにおいて甘味感受性の低下を誘発するその舌組織への蓄積に対する口腔冷却の影響		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
Uptake and metabolism of very-long-chain fatty acid in animal cells		2021年6月	第63回日本脂質生化学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年11月～現在	日本生化学会会員		
2019年3月～現在	日本脂質生化学会会員		
2019年7月～現在	日本薬学会会員		



- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 公衆衛生学分野	職名 教授	氏名 渡辺徹志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月8日～ 2020年6月24日	オンデマンド配信授業であることをふまえて、受講しやすいよう教科書中の重要な箇所を画像で示すとともに、教科書で不足している箇所についてpdfファイルで配布、補足した。(8.56/10)
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年3月10日	教科書(共著 2018年2月発行)を改訂し、第3刷を発行した。
		2021年2月	参考書(共著)第3版を発行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年2月25日	学内FD勉強会参加
		2020年5月27日	学内FD勉強会参加
		2021年1月26日	学内FD講演会参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Relationship of Asian dust events with atmospheric endotoxin and protein levels in Sasebo and Kyoto, Japan, in spring</i>	共著	2019年10月	<i>Biol. Pharm. Bull. vol. 42</i>
<i>Comparative Mutagenic Activity of Atmospheric Particulate Matter from Limeira, Stockholm, and Kyoto</i>	共著	2019年3月	<i>Environmental and Molecular Mutagenesis vol. 60</i>
<i>Similar polycyclic aromatic hydrocarbon and genotoxicity profiles of atmospheric particulate matter from cities on three different continents</i>	共著	2020年6月	<i>Environmental and Molecular Mutagenesis vol. 61</i>
<i>Development of a system for the detection of the inflammatory response induced by airborne fine particulate matter in rat tracheal epithelial cells</i>	共著	2020年7月	<i>Toxicol. Rep. vol. 7</i>
<i>Association of protein and endotoxin in outdoor air with emergency department visits for children and adults with asthma in Fukuoka, Japan</i>	共著	2020年9月	<i>Biol. Pharm. Bull. vol. 43</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
九州北部における大気中のエンドトキシン、タンパク質等と喘息発作との関連性		2019年3月	日本薬学会第139年会
<i>Relationship of Atmospheric Protein, Endotoxin, and Meteorological Factors with Emergency Department Visits for Asthma in Kyoto, Japan</i>		2019年8月	第31回微生物シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	日本薬学会環境・衛生部会試験法出版委員
2019年4月～現在	薬学教育協議会衛生薬学担当教員会議幹事
2020年4月～2021年3月	大学基準協会大学評価分科会委員
2020年4月～現在	厚生労働省薬剤師試験委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
京都薬科大学	講座名	公衆衛生学分野	助教	松本崇宏
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2019年11月14日	到達目標を明確にし、要点をつかんでもらえるように工夫した。(授業評価8.52/10.00)	
		2020年10月12日	薬毒物の中毒と解毒に関して、化学構造を基に機序を説明し、理解の助けとなるように工夫した。(授業評価8.74/10.00)	
		2021年3月1日	他の教科とのつながりを理解してもらい、薬学全体を俯瞰的に把握するための助けとなるように工夫した。(授業評価8.18/10.00)	
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年6月1日	教科書等を取りまとめた講義資料・スライド	
		2020年10月1日	教科書等を取りまとめた講義資料・スライド	
		2021年4月1日	学生実習向け実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2020年2月25日	学内FD勉強会参加	
		2020年5月27日	学内FD勉強会参加	
		2021年1月26日	学内FD講演会参加	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
Chemical structures and antimutagenic effects of unusual oximes from the peels of <i>Citrus limon</i>	共著	2018年7月	Phytochem. Lett. 25, 118-121	
Structures and antimutagenic effects of onoceranoid-type triterpenoids from the leaves of <i>Lansium domesticum</i>	共著	2018年10月	J. Nat. Prod. 81, 2187-2194	
Structures of triterpenoids from the leaves of <i>Lansium domesticum</i> .	共著	2019年5月	J. Nat. Med. 73, 727-734	
Chemical structures and cytotoxic activities of the constituents isolated from <i>Hibiscus tiliaceus</i> .	共著	2020年4月	Fitoterapia, 142	
Cytotoxic activities of sesquiterpenoids from the aerial parts of <i>Petasites japonicus</i> against cancer stem cells	共著	2020年7月	J. Nat. Med., 74, 689-701	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
フキ ( <i>Petasites japonicus</i> ) 地上部含有成分の化学構造およびがん細胞毒性評価		2020年3月	日本薬学会第140年会	
<i>Lansium domesticum</i> 葉部からの抗変異原性テルペノイドの探索研究		2018年11月	日本環境変異原学会第47回大会	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
2020年4月~2021年3月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員			
2019年6月	2019年度日本環境変異原学会公開シンポジウム, 一般を対象とする専門的依頼講演			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名 微生物・感染制御学分野	職名 教授	氏名 小田真隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年4月～  2017年9月～  2018年4月～  2018年9月～  2019年5月  2019年11月  2020年4月～  2020年9月～  2021年4月～	3年生の感染症治療学の講義では、視聴覚教材、演習問題を使用し、講義が単調にならないように工夫した。  2年生の感染症学の講義では、講義内容に加えて、感染症に関する研究について話した。昨年より教科書中心の内容に変更し、学生が復習しやすいように改善した。  1年生の生命科学の講義では、視聴覚教材、演習問題を使用し、講義が単調にならないように工夫した。  3年生の微生物学実習の内容を臨床現場での菌の同定を模倣した内容に刷新した。  6年生の生命科学探究概論では、基礎的な内容から自身の研究について講義を行い、どのような観点で研究を進めているかと言うことを説明した。  6年生のアドバンスト薬学では、オリジナルの要点確認プリントを作成し、国家試験対策資料として配付した。  1年生の基礎演習において、Tamsを用いてオンラインでのグループディスカッションを行った。  2年生の感染症学では、オンデマンド配信教育であったため、視聴覚教材が使用できなかった。そこで、演習問題を多く取り入れ、講義が単調にならないように心がけた。  3年生の感染症治療学では、Teamsを用いたオンライン配信講義を行った。同時双方向型講義であったため、視聴覚教材や演習問題を使用し、講義が単調にならないように工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年3月30日	第7版 薬科微生物学	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2019年3月3日  2021年2月28日	第24回FDフォーラム (コーディネーター) 第26回FDフォーラム (コーディネーター)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
<i>Streptococcus pyogenes phospholipase A2 induces the expression of adhesion molecules on human umbilical vein endothelial cells and aorta of mice.</i>	共著	2017年6月	<i>Frontiers in Cellular and Infection Microbiology</i>

<i>Hayashi, N., Furue, Y., Kai, D., Yamada, N., Yamamoto, H., Nakano, T., and Oda, M. Sulfated vizantin suppresses mucin layer penetration dependent on flagella motility of Pseudomonas aeruginosa PA01.</i>	共著	2018年11月	<i>PLOS ONE</i>
<i>Role of Sphingomyelinase in the Pathogenesis of Bacillus cereus Infection</i>	共著	2020年11月	<i>Biological &amp; Pharmaceutical Bulletin</i>
<i>Sulfated vizantin inhibits biofilm maturation by Streptococcus mutans.</i>	共著	2020年4月	<i>Microbiology and Immunology</i>
<i>Effects of Erythromycin on Osteoclasts and Bone Resorption via DEL-1 Induction in Mice.</i>	共著	2021年2月	<i>Antibiotics</i>
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
機能性糖脂質によるマクロファージ細胞外捕獲網の発現誘導		2017年10月	第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
AMR対策を志向した免疫賦活剤の開発研究		2018年2月	第33回日本環境感染学会総会・学術集会
人生を左右する腸内細菌		2019年11月	第52回日本漢方交流会全国学術総会・京都大会
ウエルシュ菌α毒素血症治療を目的としたガングリオシド含有リポソームの研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
リポソーム製剤を用いた感染制御戦略		2020年11月	第119回日本皮膚科学学会総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年8月～現在	Microbiology and Immunology編集員		
2019年8月	第31回微生物シンポジウム 代表世話人		
2019年4月～2020年12月	第63回日本感染症学会中日本地方会学術集会プログラム委員		
2020年9月	第14回細菌学若手コロッセウム 代表世話人		
2021年1月	日本細菌学会評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	微生物・感染制御学分野	助教	鴨志田 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2021年	京都薬科大学で4年生への総合薬学研究A 日々学生とディスカッションすることで、学生のプレゼンテーション能力の向上、問題の発見から解決に至る方法等、座学では学べないことを研究活動を通じて学べるように努めた。	
	2021年	京都薬科大学で5年生への総合薬学研究B 日々学生とディスカッションすることで、学生のプレゼンテーション能力の向上、問題の発見から解決に至る方法等、座学では学べないことを研究活動を通じて学べるように努めた。	
	2020年	京都薬科大学で1年生への生命科学の講義 アンケート総合評価 8.32 1年生への授業であるため、「なぜ学ぶのか? この学びが今後何に生きてくるのか」を伝えるように努め、今後の学びの基礎となるべく考え方を教えるように工夫した。	
	2020年	京都薬科大学で6年生への感染制御概論の講義 アンケート総合評価 7.25 6年生への授業であるため、これまでの細菌学、感染症学の復習から入り、国家試験を意識し、過去問を交えたり、最近の感染症の話題を中心に話した。	
	2019年	京都薬科大学で4年生への薬学総合演習の講義 実務実習をひかえる4年生への授業であるため、臨床を意識し、これまで学んだことが臨床のどういったところで役に立つのかを伝えるように努めた。	
	2019年	京都薬科大学で3年生への微生物学実習 実際の臨床現場で行う起炎菌同定の作業と製薬企業などで行う無菌試験や変異原性試験を模擬体験することで将来を考える際の参考にもなる実習にした。	
	2018年	帝京大学 医学部で2年生への基礎医学統合講義(免疫) 医学部の低学年への授業であるため、学年が上がって実際の病気に関して学ぶ際に役立つよう、また復習しやすいような講義、資料作りに努めた。	
	2018年	帝京大学 看護学部で1年生への微生物学講義 看護学部の1学年への授業で、微生物学、免疫学を広く教える必要があったので、極力大切なところを分かりやすく説明する事に努めた。また、穴埋め式の資料を作成し、学びやすいように工夫した。	
	2017年	帝京大学 医学部で2年生への基礎医学統合講義(免疫) 医学部の低学年への授業であるため、学年が上がって実際の病気に関して学ぶ際に役立つよう、また復習しやすいような講義、資料作りに努めた。	
	2017年	帝京大学 看護学部で1年生への微生物学講義 看護学部の1学年への授業で、微生物学、免疫学を広く教える必要があったので、極力大切なところを分かりやすく説明する事に努めた。また、穴埋め式の資料を作成し、学びやすいように工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	



4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2019年8月23日	星薬科大学で開催された FD への京都薬科大学を代表し参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Go Kamoshida*, Takuya Akaji, Norihiko Takemoto, Yusuke Suzuki, Yoshinori Sato, Daichi Kai, Taishi Hibino, Daiki Yamaguchi, Takane Kikuchi-Ueda, Satoshi Nishida, Yuka Unno, Shigeru Tansho-Nagakawa, Tsuneyuki Ubagai, Tohru Miyoshi-Akiyama, Masataka Oda and Yasuo Ono. Lipopolysaccharide-deficient <i>Acinetobacter baumannii</i> due to colistin resistance is killed by neutrophil-produced lysozyme	共著	2020年	Frontiers in Microbiology, 17, 573
(論文) Go Kamoshida*, Takane Kikuchi-Ueda, Satoshi Nishida, Shigeru Tansho-Nagakawa, Tsuneyuki Ubagai and Yasuo Ono. Pathogenic bacterium <i>Acinetobacter baumannii</i> inhibits the formation of neutrophil extracellular traps by suppressing neutrophil adhesion	共著	2018年	Frontiers in Immunology, 9, 178
(論文) Go Kamoshida*. Infection by <i>Acinetobacter baumannii</i> and host immunity: A novel bacterial transport mechanism "Bacterial immunity taxi"	単著	2017年	Japanese Journal of Chemotherapy, 65, 794-802
(論文) Go Kamoshida*, Takane Kikuchi-Ueda, Satoshi Nishida, Shigeru Tansho-Nagakawa, Hiroto Kikuchi, Tsuneyuki Ubagai and Yasuo Ono. Spontaneous formation of neutrophil extracellular traps (NETs) in serum-free culture conditions	共著	2017年	FEBS Open Bio, 7, 877-886
(論文) Go Kamoshida*, Shigeru Tansho-Nagakawa, Takane Kikuchi-Ueda, Ryuichi Nakano, Kenji Hikosaka, Satoshi Nishida, Tsuneyuki Ubagai, Shouichi Higashi and Yasuo Ono. A novel bacterial transport mechanism of <i>Acinetobacter baumannii</i> via activated human neutrophils through interleukin-8	共著	2016年	Journal of Leukocyte Biology, 100, 1405-1412
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リポ多糖を欠損したコリスチン耐性 <i>Acinetobacter baumannii</i> は好中球やβ-ラクタム系抗菌薬により容易に殺菌される ○鴨志田 剛, 小田 真隆, 斧 康雄		2020年	第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会 学会賞受賞
細菌-宿主免疫相互作用からみた <i>Acinetobacter baumannii</i> の不思議な新規病原性 ○鴨志田 剛		2020年	第94回日本感染症学会総会・学術講演会 招待講演
<i>Acinetobacter baumannii</i> の新規免疫攪乱機構 ○鴨志田 剛		2019年	第92回日本細菌学会総会 招待講演
<i>Acinetobacter baumannii</i> の新規病原因子 ○鴨志田 剛、斧 康雄		2017年	第100回日本細菌学会関東支部総会 招待講演
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年~2019年	細菌学若手コロッセウム世話人		
2016年~現在	日本細菌学会		
2016年~現在	日本感染症学会		
2016年~現在	日本生化学会		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 細胞生物学分野	職名 教授	氏名 藤室 雅弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 基礎演習（1年次） 細胞生物学（2年次・前期） 授業評価平均値:8.0 感染症学（2年次・後期） 授業評価平均値:7.5 免疫学（2年次・後期） 授業評価平均値:6.8 感染症治療学（3年次・前期） 授業評価平均値:7.9 免疫学実習（3年次・後期） 生命科学探究概論（6年次・前期） 授業評価平均値:8.1		2016年-2020年 2016年-2020年 2016年-2020年 2018年-2020年 2016年-2020年 2016年-2020年 2016年-2020年	新型コロナウイルス、RNAワクチン、ノーベル賞受賞研究（iPS細胞やオートファジなどの）、STAP細胞等の最新トピックスや時事問題を授業で取り上げ、受講学生の興味を引き出すよう心掛けた。
2 作成した教科書、教材、参考書 iPS細胞や再生医療分野の理解を深めるための人材育成事業基礎講座テキスト 第111部 「遺伝子治療とゲノム編集技術の進展」p45-67		2019年	京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト 公財・京都産業21 イノベーション推進部 新産業創出グループ 主催・編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 山梨県韮崎高校 スーパーサイエンス・ハイスクール出張講義		2016年9月、2017年10月	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）UBE1a suppresses herpes simplex virus-1 replication.	共著	2020年12月	Viruses 12, 1391
（論文）MG132 exerts anti-viral activity against HSV-1 by overcoming virus-mediated suppression of the ERK signaling pathway.	共著	2020年4月	Scientific Reports 10, 6671
（論文）Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus ORF66 is essential for late gene expression and virus production via interaction with ORF34.	共著	2020年1月	Journal of Virology 94, e01300-19
（論文）Synthesis and biological evaluation of novel imidazole nucleosides as potential anti-dengue virus agents.	共著	2019年6月	Bioorg. Med. Chem. 27, 2181-2186
（論文）KSHV episomes reveal dynamic chromatin loop formation with domain specific gene regulation.	共著	2018年1月	Nature Communications 9, 49
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
KSHV ORF7 はカプシド成熟に関与する		2020年3月	日本薬学会第140年会
B型肝炎ウイルス様粒子を用いた肝細胞特異的DDS製剤の開発		2020年3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～現在	日本薬学会・代議員		
2020年4月～現在	日本ウイルス学会・評議員		
2016年4月～現在	International Journal of Oncology誌 Editorial Board		
2018年4月～現在	科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 細胞生物学分野	職名 講師	氏名 関根 勇一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
細胞生物学講義		2020年前期	オンデマンド配信 授業評価:7.95/10
免疫学講義		2020年後期	オンデマンド配信 授業評価:8.29/10
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A proteolytic C-terminal fragment of Nogo-A (reticulon-4A) is released in exosomes and potently inhibits axon regeneration.	共著	2020年2月	J. Biol. Chem. 295:2175-2183
(論文) PlexinA2 and CRMP2 Signaling Complex is Activated by Nogo-A-Liganded NgR1 to Restrict Corticospinal Axon Sprouting after Trauma.	共著	2019年4月	J. Neurosci. 24:3204-3216
(論文) Human neuroepithelial stem cell regional specificity enables spinal cord repair through a relay circuit.	共著	2018年8月	Nat. Commun. 9:3419
(論文) Functional Genome-wide Screen Identifies Pathways Restricting Central Nervous System Axonal Regeneration.	共著	2018年7月	Cell Rep. 23:415-428
(論文) The nociceptin receptor inhibits axonal regeneration and recovery from spinal cord injury.	共著	2018年4月	Sci. Signal. 11.pii:eaa04180
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) RPH3a regulates axonal regeneration after injury in central nervous system		2021年7月	日本神経科学学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本免疫学会会員		
	日本薬学会会員		
	日本神経科学学会会員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	講座名	生化学分野	職名 教授	氏名 中山 祐治
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年5月1日	身近な話題との関連、動画による解説、各講義における小テストの実施、問題集の提示などにより、勉強の動機付け、理解の補助を行い、さらに自主的な学修を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
<i>The tumor suppressor LATS2 reduces v-Src-induced membrane blebs in a kinase activity-independent manner</i>	共著	2021年1月	FASEB J, vol. 35, e21242	
<i>ALK inhibitors-induced M phase delay contributes to the suppression of cell proliferation.</i>	共著	2020年4月	Cancers, vol. 12, 1054	
<i>EphA2 phosphorylation at Ser897 by the Cdk1/MEK/ERK/RSK pathway regulates M phase progression via maintenance of cortical rigidity.</i>	共著	2019年4月	FASEB J, vol. 33, 5334-5349	
<i>Heat shock-induced mitotic arrest requires heat shock protein 105 for the activation of spindle assembly checkpoint.</i>	共著	2019年3月	FASEB J, vol. 33, 3936-3953	
<i>The tyrosine kinase v-Src causes mitotic slippage by phosphorylating an inhibitory tyrosine residue of Cdk1.</i>	共著	2018年8月	J. Biol. Chem., vol. 293, 15524-15537	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
チロシンキナーゼ阻害剤による細胞分裂遅延を介した細胞増殖抑制		2020年10月	第79回日本癌学会学術総会	
CDK1に依存してEphA2はリン酸化され細胞分裂制御に関わる		2020年9月	第93回日本生化学会大会	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)				
2021年5月1日		日本薬学会会員		
2021年5月1日		日本生化学会会員		
2021年5月1日		日本癌学会会員		
2021年5月1日		アメリカ細胞生物学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 生化学分野	職名 助教	氏名 齊藤 洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年5月1日	教科書を活用し、予習復習に取り組みやすい授業を行った。考える授業を目的にオリジナルな課題問題を作成した。わかりやすい図、写真や動画を活用し、理解しやすい授業に取り組んだ。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>The tumor suppressor LATS2 reduces v-Src-induced membrane blebs in a kinase activity-independent manner</i>	共著	2021年1月	<i>FASEB J</i> , vol. 35, e21242
<i>The tyrosine kinase v-Src modifies cytotoxicities of anticancer drugs targeting cell division</i>	共著	2020年11月	<i>J. Cell. Mol. Med.</i> , vol. 25, 1677-1687
<i>Hsp105<math>\alpha</math> suppresses Adriamycin-induced cell death via nuclear localization signal-dependent nuclear accumulation</i>	共著	2019年6月	<i>J. Cell. Biochem.</i> , vol. 120, 17951-17962
<i>Involvement of Stat3 phosphorylation in mild heat shock-induced thermotolerance</i>	共著	2019年4月	<i>Exp. Cell Res.</i> , vol. 377, 67-74
<i>Heat shock-induced mitotic arrest requires heat shock protein 105 for the activation of spindle assembly checkpoint</i>	共著	2019年3月	<i>FASEB J</i> , vol. 33, 3936-3953
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
チロシンリン酸化プロテオミクス解析による細胞質分裂の新規制御分子の探索		2021年3月	日本薬学会 第141年会
熱ストレス強度に依存した細胞分裂の進行阻害		2020年10月	第70回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年5月1日	日本薬学会		
2021年5月1日	日本生化学会		
2021年5月1日	日本分子生物学会		
2021年5月1日	Cell Stress Society Interational		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 生化学分野	職名 助教	氏名 幸 龍三郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年5月1日	生化学A、生化学B、生命科学探求概論を担当した。基礎的な生命科学の講義を行うとともに、統合的に生命を理解し薬学的介入を行うかの解説を行った。各講義では小テストの実施などを通して、理解度を確認しながら、授業を進めた。2020年度の授業評価平均は8.29であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>The tumor suppressor LATS2 reduces v-Src-induced membrane blebs in a kinase activity-independent manner.</i>	共著	2021年1月	<i>FASEB J</i> , vol. 35, e21242
<i>The tyrosine kinase v-Src modifies cytotoxicities of anticancer drugs targeting cell division.</i>	共著	2020年11月	<i>J. Cell. Mol. Med.</i> , vol. 25, 1677-1687
<i>A long noncoding RNA regulates inflammation resolution by mouse macrophages through fatty acid oxidation activation.</i>	共著	2020年6月	<i>Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.</i> , vol. 117, 14365-14375
<i>ALK inhibitors-induced M phase delay contributes to the suppression of cell proliferation.</i>	共著	2020年4月	<i>Cancers</i> , vol. 12, 1054
<i>Desuppression of TGF-beta signaling via nuclear c-Abl-mediated tyrosine phosphorylation of TIF1gamma/TRIM33 at Tyr-524, -610, and -1048.</i>	共著	2019年1月	<i>Oncogene</i> , vol. 38, 637-655
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
チロシンリン酸化プロテオミクス解析による細胞質分裂の新規制御分子の探索		2021年3月	日本薬学会 第141年会
上皮間葉転換を司るTGF-βシグナルの過剰活性化機構の解明		2020年10月	第70回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年5月1日		日本生化学会会員	
2021年5月1日		日本薬学会会員	
2021年5月1日		日本肥満学会会員	
2021年5月1日		日本循環器学会会員	

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 教授	氏名 芦原英司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 生理学A、B (授業評価等を含む)		2017年度から現在	生理学についてのみを講義するのではなく、多くの疾患の病態生理および治療に用いる薬物の薬理作用も含め講義している。 授業評価 2017年度；生理学A:8.1、生理学B:8.0、 2018年度；生理学A:7.69、生理学B:8.19、 2019年度；生理学A:8.1、生理学B:8.0、 2020年度；生理学B:8.0、
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年6月予定  2018年12月  2018年1月	臨床薬学テキストシリーズ ⑨『血液・造血器/感染症/悪性腫瘍』第1章. 血液・造血器疾患 B. 疾患各論 6. 多発性骨髄腫. (中山書店)  パートナー 機能形態学 改訂第3版. 第6章. 消化器系. (南江堂)  ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療. 4 多発性骨髄腫 (メディカ出版)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
多発性骨髄腫 Updating. 第10巻 骨髄腫治療を理解するためのMyeloma Biology.	単著	2017年5月	医薬ジャーナル社
A novel dipeptide type inhibitor of the Wnt/ $\beta$ -catenin pathway suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells.	共著	2021年1月	Biochem Biophys Res Commun
Factors Associated with Dose Modification of Lenalidomide Plus Dexamethasone Therapy in Multiple Myeloma.	共著	2020年8月	Biol Pharm Bull.
Development of Antibody-Oligonucleotide Complexes for Targeting Exosomal MicroRNA.	共著	2020年1月	Pharmaceutics.
CG13250, a novel bromodomain inhibitor, suppresses proliferation of multiple myeloma cells in an orthotopic mouse model.	共著	2017年3月	Biochem Biophys Res Commun
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Application of BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitors as a novel therapeutic strategy for MLL-rearranged acute lymphoblastic leukemia.		2020年・6月	American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2020.
Cdk4/6 inhibitor Abemaciclib overcomes resistance to BET inhibitor in leukemic cells with MLL-AF5q31 fusion gene.		2020年・6月	American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2020.

<i>Development of exosome-capturing antibody-conjugated nucleic acid medicines targeting multiple myeloma cells.</i>	2019年・12月	The 61st Annual Meeting of the American Society of Hematology.
<i>A novel coumarin-based compound inhibits invasion and migration of murine osteosarcoma cells in vitro.</i>	2019年・7月	The 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology.
<i>Standard anticancer agents increase the cytotoxicity of human V<math>\gamma</math>9V<math>\delta</math>2T cell via upregulation of NKG2D ligands in bladder cancer cells.</i>	2019年・5月	American Urological Association's 2019 Annual Meeting.
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年4月～現在	日本血液学会代議員、日本癌学会評議員、日本がん分子標的治療学会評議員、日本骨髄腫学会代議員、日本生理学会評議員	
2017年度から現在	京都市 京都発革新的医療技術研究開発助成事業 申請書査読委員	
2020年7月から現在	Cancers誌の編集委員（Guest Editor）	
2017年4月から現在	日本血液学会IntJ Hematol論文審査員、日本癌学会Cancer Sci論文審査員、American Association of Cancer Research Cancer Res論文審査委員、European Hematology Association Haematologica 論文審査委員、日本骨髄腫学会Int J Myeloma論文審査委員、他20以上の英文雑誌審査委員	
2019年10月から現在	日本薬学会会員※（#1702342）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 准教授	氏名 細木 誠之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2019年度より	生理学の教育においては人体の構造(解剖学)を図解を用いてしっかり理解した上で、その機能としての生理学を順を追って関連付けながら理解できるような授業構成を行っている。さらには各疾患理解のための病理学、診断学、薬理作用の理解に繋がるような構成を行っている。(2020年度授業評価アンケート生理学 A7.86 生理学B7.5 生命科学探求概論 8.0)
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			第5回日本薬学教育学会ポスター発表 第6回日本薬学教育学会ポスター発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			2018年よりリカレント教育プログラム(レマンプログラム)運営委員としてプログラムの立ち上げから教育講師としての指導も行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)多職種連携を意識した「フィジカルアセスメント」講座(入門コース)の取り組みと受講者の変容	共著	2021年2月	日本薬学教育学会第5巻(2021)
A novel dipeptide type inhibitor of the Wnt/ $\beta$ -catenin pathway suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells.	共著	2021年1月	Biochem Biophys Res Commun
Plasma membrane anchored nanosensor for quantifying endogenous production of H2O2 in living cells	共著	2021年2月	<i>Biosensors and Bioelectronics</i> 179, 2021
6-Hydroxythiobinupharidine inhibits migration of LM8 osteosarcoma cells by decreasing expression of LIM domain kinase 1.	共著	2019年12月	Anticancer Research vol. 39 No. 12
DJ-1 contributes to self-renewal of stem cells in the U87-MG glioblastoma cell line	共著	2019年11月	Anticancer Research vol. 39 No. 11
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
<i>Epithelial anion secretion of human bronchial ciliary epithelium.</i>		2020年9月	European respiratory society international meeting
<i>The effect of Taxane anticancer drugs on bronchiolar ciliary activity in human airway cultured cells</i>		2020年9月	European respiratory society international meeting

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2002年から現在	日本呼吸器学会 会員 専門医
2009年から現在	日本生理学会 評議員
2020年から現在	日本薬学会会員
2000年から現在	日本内科学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生理学分野	職名 助教	氏名 戸田 侑紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>薬学専門教育 (講義)</p> <p>生理学A 授業評価: 7.8 (2017年度)、7.6 (2018年度)、7.5 (2019年度)、8.2 (2020年度)</p> <p>生理学B 授業評価: 7.6 (2017年度)、8.1 (2018年度)、7.8 (2019年度)、7.9 (2020年度)</p> <p>薬学専門教育 (実習等)</p> <p>解剖・生理学実習 薬理学実習</p> <p>薬学専門教育 (研究等)</p> <p>総合薬学研究A&amp;B</p> <p>薬学教養</p> <p>早期体験学習 基礎演習</p>	<p>2017年-現在</p> <p>2017年-現在</p> <p>2018年-現在 2017年-現在</p> <p>2017年-現在</p> <p>2018年-現在 2020年-現在</p>	<p>知識を丸呑みしないように論理的な思考プロセスに従って関連知識を繋ぎ合わせ、体系的な理解に導く内容で行いました。同時に、薬学における生理学に対する知的好奇心を引き出すために、学んだ知識を他科目の内容に当てはめ、生理学が薬学のあらゆる部分に通じることを示しました。授業アンケートの結果において、総合評価や講義に対する前向きな回答を占める割合が入職初年時に比べ増加しました。</p> <p>所属研究室では、PDCAサイクルの循環と学内外での発信をサポートしてきました。担当した学生には独立した研究課題を幅広い範囲で考え、個別に対応しました。日々のコミュニケーションを大切に、実験データなどの研究に関する報告や相談を徹底しました。その中で、研究上の問題点を洗い出し、実験者の意図を尊重しながら次の展開を共に考えました。加えて、分野内セミナーの運営について体系的な整備を行い、論文の読解と論理構築、ならびにそれを基にした議論を促す仕組みを作りました。進捗よく、一定の研究成果が得られた担当学生は、教員指導の下、専門学会にて当人を筆頭著者とする発表をほぼ毎年達成しました。分野全体としても、所属学生が毎年10件以上の演題を国内外における専門学会で発表しました。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) A novel dipeptide type inhibitor of the Wnt/ $\beta$ -catenin pathway suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells.	共著	2021年1月	Biochemical and Biophysical Research Communications vol.535
(論文) Factors associated with dose modification of lenalidomide plus dexamethasone therapy in multiple myeloma	共著	2020年8月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.43
(論文) 6-Hydroxythiobinupharidine inhibits migration of LM8 osteosarcoma cells by decreasing expression of LIM domain kinase 1.	共著	2019年12月	Anticancer Research vol. 39 No. 12
(論文) DJ-1 contributes to self-renewal of stem cells in the U87-MG glioblastoma cell line	共著	2019年11月	Anticancer Research vol. 39 No. 11
(論文) Multiple myeloma cells adapted to long-exposure of hypoxia exhibit stem cell characters with TGF- $\beta$ /Smad pathway activation	共著	2018年2月	Biochemical and Biophysical Research Communications vol. 496 Issue 2
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) A novel dipeptide type Wnt/ $\beta$ -catenin pathway inhibitor suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells		2021年	第80回日本癌学会学術総会
(演題名) A novel coumarin-based compound inhibits invasion and migration of osteosarcoma cells		2021年	第80回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2010年～現在	日本薬学会会員		
2013年～現在	日本癌学会会員		
2019年～現在	日本骨髄腫学会会員		
2019年～現在	European Association for Cancer Research; early career membership		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生化学分野	職名 教授	氏名 秋葉 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業評価に基づく授業の改善およびフィードバック 配信講義（リアルタイム・オンデマンド）への対応		2017-2021年度 2020-2021年度	授業形態や、講義レベル、補足資料等の改善 スライドのみの講義に対応した適切な分量の視聴用資料の作成
2 作成した教科書、教材、参考書 分子病態薬物治療学 分子病態薬物治療学 第2版		2017年3月30日 2020年3月16日	担当科目教科書 担当科目教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第2回日本薬学教育学会大会（シンポジウムでの発表） 2019年度卒業後教育講座		2017年9月2日 2019年6月9日	「FD活動からアウトカムをはかる：カリキュラム構築と教員間授業参観をとした教育の質向上につなげるFD活動」 「病態と治療薬がみえるリポタンパク質代謝の異常」
4 その他教育活動上特記すべき事項 学内FD勉強会への参加 学内FD勉強会への参加		2020年2月25日 2021年1月13日	新カリキュラム案に残された課題について オンライン授業の教育効果に関する講演
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
A comparative analysis of hepatic pathological phenotypes in C57BL/6J and C57BL/6N mouse strains in non-alcoholic steatohepatitis models.	共著	2019年1月	Sci. Rep., vol.9
Copper accumulation in the brain causes the elevation of oxidative stress and less anxious behavior in Ts1Cje mice, a model of Down syndrome.	共著	2019年4月	Free Radic. Biol. Med., vol.134
Perturbation of the immune cells and prenatal neurogenesis by the triplication of the Erg gene in mouse models of Down syndrome.	共著	2020年1月	Brain Pathol., vol.30
$\alpha$ 2-Antiplasmin as a potential regulator of the spatial memory process and age-related cognitive decline.	共著	2020年10月	Molecular Brain., vol.13
Decrease in the T-box1 gene expression in embryonic brain and adult hippocampus of Down syndrome mouse models.	共著	2021年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol.535
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
非アルコール性脂肪肝炎における類洞内皮の毛細血管化および肝線維化に対するIVA型ホスホリパーゼA <sub>2</sub> 欠損の影響		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
IVA型ホスホリパーゼA <sub>2</sub> を介した粥状動脈硬化巣の形成における責任細胞種の同定		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年4月～現在	日本生化学会近畿支部評議員		
2019年6月～9月	文部科学省「令和元年度薬学教育者のためのワークショップ」タスクフォース		
2020年1月～2021年3月	公益財団法人大学基準協会大学評価分科会委員		
2020年6月～現在	第106回薬剤師国家試験問題検討委員会病態・薬物治療部会委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	病態生化学分野
職名	准教授	氏名	石原 慶一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業評価を行い、フィードバックした。 講義復習レポートの提出によるオンデマンド講義補強 在宅研究活動中学生とのオンライン会議による議論		2017-2021年度 2020年度 2020年度	
2 作成した教科書、教材、参考書 生化学実習書の作成 薬学総合演習のテキスト作成 分子病態薬物治療学 分子病態薬物治療学 第2版		2017-2021年度 2017, 2019年度 2017年3月30日 2020年3月16日	核酸・糖・脂質に関する生化学実習書の作成 薬学総合演習で使用する糖尿病に関するテキストの作成 担当科目教科書 担当科目教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 学内FDへの参加			「カリキュラム改定」および「新型コロナウイルス感染症対策下での講義・補講」に関する学内FD勉強会
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Ts1Cje Down syndrome model mice exhibit environmental stimuli-triggered locomotor hyperactivity and sociability concurrent with increased flux through central dopamine and serotonin metabolism	共著	2017年6月	Exp. Neurol. vol. 293
A comparative analysis of hepatic pathological phenotypes in C57BL/6J and C57BL/6N mouse strains in non-alcoholic steatohepatitis models.	共著	2019年1月	Sci. Rep., vol. 9
Copper accumulation in the brain causes the elevation of oxidative stress and less anxious behavior in Ts1Cje mice, a model of Down syndrome.	共著	2019年4月	Free Radic. Biol. Med., vol. 134
Perturbation of the immune cells and prenatal neurogenesis by the triplication of the Erg gene in mouse models of Down syndrome.	共著	2020年1月	Brain Pathol., vol. 30
Decrease in the T-box1 gene expression in embryonic brain and adult hippocampus of Down syndrome mouse models.	共著	2021年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol. 535
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ダウン症の脳発生における神経血管ユニットの破綻の可能性(シンポジウム)		2021年9月	第64回日本神経化学学会大会
ダウン症候群と生命金属恒常性異常(シンポジウム)		2021年3月	第94回日本生化学学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本ダウン症学会 評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 病態生化学分野	職名 助教	氏名 河下 映里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 講義復習レポートに対するひとりひとりへのフィードバック 在宅研究活動中の学生とのTeamsの会議機能を利用した議論	2020年 2020年	manabaを利用して学生の理解度に対するコメントをした Teams会議で研究背景・方針の確認や結果の議論を行った	
2 作成した教科書、教材、参考書 生化学実習書の作成 薬学総合演習のテキスト作成	2017年～2020年 2017年	核酸・糖・脂質に関する生化学実習書の作成に携わった 薬学総合演習で使用する糖尿病に関するテキストを作成した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 学内FD勉強会への参加	2020年2月25日 2021年1月13日	「カリキュラム改定」および「新型コロナウイルス感染症対策下での講義・補講」に関する学内FD勉強会に参加した	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
A comparative analysis of hepatic pathological phenotypes in C57BL/6J and C57BL/6N mouse strains in non-alcoholic steatohepatitis models.	共著	2019年1月	Sci. Rep., vol.9
Copper accumulation in the brain causes the elevation of oxidative stress and less anxious behavior in Ts1Cje mice, a model of Down syndrome.	共著	2019年4月	Free Radic. Biol. Med., vol.134
Perturbation of the immune cells and prenatal neurogenesis by the triplication of the Erg gene in mouse models of Down syndrome.	共著	2020年1月	Brain Pathol., vol.30
$\alpha$ 2-Antiplasmin as a potential regulator of the spatial memory process and age-related cognitive decline.	共著	2020年10月	Molecular Brain., vol.13
Decrease in the T-box1 gene expression in embryonic brain and adult hippocampus of Down syndrome mouse models.	共著	2021年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol.535
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
非アルコール性脂肪肝炎における類洞内皮の毛細血管化および肝線維化に対するIVA型ホスホリパーゼA <sub>2</sub> 欠損の影響		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
IVA型ホスホリパーゼA <sub>2</sub> を介した粥状動脈硬化巣の形成における責任細胞種の同定		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2005年10月～現在	日本生化学会 正会員		
2014年8月～現在	日本神経化学会 正会員		
2015年2月～現在	日本薬学会 正会員		
2017年12月～現在	国際線溶学会(International society for Fibrinolysis & Proteolysis) 正会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬物治療学分野	職名 教授	氏名 加藤伸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年4月～  2017年4月～	3年次薬理学Cを担当  教科書を中心に板書を適宜行いながら講義を進めた。2020年からはオンデマンドやオンラインとなったため、PowerPointに板書の内容を纏めて、アニメーションなど駆使して、板書に書き加えていくように表示させるように工夫した。 授業評価：2017年：8.3、2018年度：7.61、2019年：7.47 2020年：8.37  3年次病態薬物治療学Bを担当  同系の講義科目が複数あり、複数の教員で担当しているため、適切な教科書がない。そのため、担当範囲のプリントを作成し、プリントと板書で講義を行っている。2020年からはオンデマンドやオンラインとなったため、PowerPointに板書の内容を纏めて、アニメーションなどを駆使して、板書に書き加えていくように表示させるよう工夫した。 授業評価：2017年：8.2、2018年度：7.83、2019年：7.85、2020年：8.26	
2 作成した教科書、教材、参考書 新しい疾患薬理学	2018年3月	南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Leukotriene B4 receptor type 2 accelerates the healing of intestinal lesions by promoting epithelial cell proliferation</i>	共著	2020年1月	<i>J Pharmacol Exp Ther</i> vol. 373, No. 1
(論文) <i>NOX1/NADPH oxidase in bone marrow-derived cells modulates intestinal barrier function</i>	共著	2020年1月	<i>Free Radic Biol Med</i> vol. 147
(論文) <i>G protein-coupled receptor 40 activation ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis in mice via the upregulation of glucagon-like peptide-2</i>	共著	2019年3月	<i>J Pharmacol Sci</i> vol. 140, No 2
(論文) <i>G protein-coupled receptor 35 contributes to mucosal repair in mice via migration of colonic epithelial cells</i>	共著	2017年1月	<i>Pharmacol Res</i> vol. 123

(論文) <i>NOX1/NADPH oxidase expressed in colonic macrophages contributes to the pathogenesis of colonic inflammation in trinitrobenzene sulfonic acid-induced murine colitis</i>	共著	2017年1月	<i>J Pharmacol Exp Ther vol. 360, Vol. 1</i>
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 温度感受性TRPV4の消化管における発現と病態への関与		2021年8月	生体機能と創薬シンポジウム2021
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年1月～現在	日本潰瘍学会理事		
2020年11月～現在	日本薬理学会代議員		
2017年4月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会世話人		
2018年4月～2021年3月	BPB編集委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬物治療学分野	職名 准教授	氏名 松本 健次郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年4月～          2017年4月～	3年次薬理学Cを担当  薬理学Cでは、講義資料の改訂、演習問題の作成により、科目への理解度があがるよう工夫した。 授業評価：2017年：8.30、2018年度：7.78、2019年：8.51 2020年：8.73  3年次病態薬物治療学Bを担当  作用機序の図の作成、図を用いた解説を増やすことにより生理、病態、薬の作用点、治療を関連づけることのできる講義を行い、さらに演習問題によって理解を深めた。 授業評価：2017年：8.70、2018年度：8.28、2019年：8.47、2020年：8.25	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) <i>Role of transient receptor potential vanilloid subtype 2 in lower oesophageal sphincter in rat acid reflux oesophagitis</i>	共著	2021年3月	<i>J Pharmacol Sci vol.146, No. 3</i>
(論文) <i>Role of transient receptor potential vanilloid subtype 4 in the regulation of azoymethane/dextran sulphate sodium-induced colitis-associated cancer in mice</i>	共著	2020年1月	<i>Eur J Pharmacol vol. 867</i>
(論文) <i>Transient receptor potential vanilloid 4 mediates sour taste sensing via type III taste cell differentiation</i>	共著	2019年2月	<i>Sci Rep vol. 9, No. 9</i>
(論文) <i>Role of transient receptor potential melastatin 2 in surgical inflammation and dysmotility in a mouse model of postoperative ileus</i>	共著	2018年1月	<i>Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol vol. 315, No. 1</i>

(論文) <i>Transient receptor potential vanilloid 4 channel regulates vascular endothelial permeability during colonic inflammation in dextran sulphate sodium-induced murine colitis</i>	共著	2018年1月	<i>Br J Pharmacol vol. 175, No. 1</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 温度感受性TRPV4の難治性消化管疾患に対する創薬標的としての		2021年8月	生体機能と創薬シンポジウム2021
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年10月～現在	日本神経消化器病学会評議員		
2018年5月～現在	TRP研究会 コアメンバー		
2012年4月～現在	日本薬理学会評議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬物治療学分野	職名 助教	氏名 安田 浩之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2020年4月～  2021年4月～	病態薬物治療学B (3年次)  2020年度はオンデマンドによる講義を行ったため、powerpointを用いたスライドの作成において、文字だけでなくイラストなどを駆使して見やすく理解しやすいものになるように工夫した。(2020年度授業評価: 8.18)  薬理学C (3年次)  2021年度から対面だけでなく、オンラインとオンデマンドを併用しながらの講義であったため、powerpointを用いたスライドの作成において、文字だけでなくイラストなどを駆使して見やすく理解しやすいものになるように工夫した。また、治療薬の構造式など様々な観点から学習できるように心掛けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) がん転移機序の新たな可能性: 好中球細胞外トラップの関与	共著	2021年4月	ファルマシア、57巻6号
(著書) インクレチンのDNA脱メチル化機能によるEC-SOD発現調節	共著	2018年11月	東京医学社、腎とフリーラジカル第13集
(論文) DNA demethylation increases NETosis	共著	2020年8月	Archives of Biochemistry and Biophysic, vol. 689, 108465
(論文) Formation of neutrophil extracellular traps in mitochondrial DNA-deficient cells	共著	同 年1月	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition, vol. 66 No. 1, 15-23
(論文) 17- $\beta$ -estradiol enhances neutrophil extracellular trap formation by interaction with estrogen membrane receptor	共著	2019年3月	Archives of Biochemistry and Biophysic, vol. 663, 64-70
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 好中球細胞外トラップ誘導におけるDNAメチル化制御機構の関与		2021年8月	生体機能と創薬シンポジウム2021

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年4月～現在	日本薬学会会員
2016年4月～現在	日本酸化ストレス学会会員
2017年4月～現在	日本生化学会会員
2020年4月～現在	日本薬理学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬理学分野	職名 教授	氏名 中田 徹男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年度～  2021年度	・教科書の代わりに、最新の診断・治療ガイドラインを取り込んだ講義資料を作成し配布している。 ・講義の最後に演習問題を解いてもらっている。
2 作成した教科書、教材、参考書			・なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			・なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			・なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(著書) <i>Oxidative stress and Dietary Antioxidants. 2nd Edition</i>	共著	2020年4月	<i>Elsevier Aging Chapter 2</i>
<i>Induction of autophagy has protective roles in imatinib-induced cardiotoxicity</i>	共著	2021年5月	<i>Toxicology Report Volume 8, 2021, Pages 1087-1097</i>
<i>Preconditioning with Short-term Dietary Restriction Attenuates Cardiac Oxidative Stress and Hypertrophy Induced by Chronic Pressure Overload</i>	共著	2021年2月	<i>Nutrients 13, 737</i>
<i>Febuxostat Attenuates the Progression of Periodontitis in Rats</i>	共著	2021年3月	<i>Pharmacology 106:294-304</i>
<i>Comparison of effects of L/N-type and L-type calcium channel blockers on post-infarct cardiac remodelling in spontaneously hypertensive rats</i>	共著	2020年9月	<i>Clin Exp Pharmacol Physiol 47(9): 1545-1553</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
<i>SPARC increment is induced by renin-angiotensin system and induces collagen deposition via ADAMTS1 in DOCA-salt hypertensive rats</i>		2021年3月	第85回日本循環器学会年会
<i>イマチニブ誘導性心筋障害に対するオートファジーの役割</i>		2021年3月	第94回日本薬理学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	日本循環薬理学会幹事
2019年4月～現在	日本心脈管作動物質学会理事
2017年4月～現在	日本高血圧学会評議員
2019年4月～現在	関西広域連合登録販売者試験問題作成委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬理学分野	職名 准教授	氏名 小原 幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			オンライン、オンデマンド授業において、理解度が低下しないようpdf資料をより詳しく作製し、毎回復習問題を作製、解説している。
2 作成した教科書、教材、参考書			授業毎に資料を作成している。資料は改定される診療指針をもとに作成しており、毎年改定している。本年度はpdf化しmanabaに掲載した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Induction of autophagy has protective roles in imatinib-induced cardiotoxicity.</i>	共著	2021年5月	<i>Toxicol Rep. 8, 1087-1097</i>
(論文) <i>Febuxostat Attenuates the Progression of Periodontitis in Rats.</i>	共著	2021年3月	<i>Pharmacology, 106(5-6):294-304.</i>
(論文) <i>Preconditioning with Short-term Dietary Restriction Attenuates Cardiac Oxidative Stress and Hypertrophy Induced by Chronic Pressure Overload</i>	共著	2021年2月	<i>Nutrients . 2021 Feb 26;13(3):737.</i>
(論文) <i>Comparison of effects of L/N-type and L-type calcium channel blockers on post-infarct cardiac remodelling in spontaneously hypertensive rats</i>	共著	2020年9月	<i>Clin Exp Pharmacol Physiol . 2020 Sep;47(9):1545-1553.</i>
(著書) <i>Aging</i>	共著	2020年5月	<i>Elsevire, chapter 2</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ドラッグリポジショニングを用いた歯周炎の予防		2021年6月	第21回日本抗加齢医学会総会
<i>Expression and Roles of N-type Ca Channel in Cardiac Myocytes</i>		2021年8月	ヨーロッパ心臓病会議2021
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年-現在	日本循環器学会 社員		
2020年	日本循環器学会 女性研究者賞審査員		
2017年-現在	日本内科学会、日本薬理学会員		
...			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬理学分野	職名 助教	氏名 鳥羽裕恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年度～	・自作の講義資料には図、解説、症例、CBT、国試過去問を多く含め学習効果を高めている。 ・講義冒頭に目的を明確にし意欲を高めている。最後に関連するCBT、国試過去問を解いている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年度～ 2019年度～	・解剖学・生理学実習資料 ・薬理学実習・循環器系に影響を及ぼす薬物のビデオ教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特記なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Macrophage Overexpression of Matrix metalloproteinase-9 in Aged Mice Improves Diastolic Physiology and Cardiac Wound Healing After Myocardial Infarction</i>	共著	2018年2月	<i>American Journal of Physiology. Heart and Circulatory Physiology, Vol. 314(2) pp. H224~H235</i>
<i>Extracellular Matrix Roles in Cardiorenal Fibrosis: Potential Therapeutic Targets for CVD and CKD in the Elderly</i>	共著	2019年1月	<i>Pharmacology and Therapeutics, Vol. 193 pp. 99~120</i>
<i>Transiently Proliferating Perivascular Microglia Harbor M1 Type and Precede Cerebrovascular Changes in a Chronic Hypertension Model</i>	共著	2019年4月	<i>Journal of Neuroinflammation, Vol. 16(1) pp. 79(1~13)</i>
<i>Antihypertensive and Renoprotective Effects of Dietary Flaxseed and Its Mechanism of Action in Deoxycorticosterone Acetate-Salt Hypertensive Rats</i>	共著	2020年1月	<i>Pharmacology, Vol. 105(1-2) pp. 265~276</i>
<i>Sphingolipids and Kidney Disease: Possible Role of Preeclampsia and Intrauterine Growth Restriction(IUGR)</i>	共著	2021年3月	<i>KIDNEY360 Vol. 2 pp. 534-541</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
エリスロポエチンはインスリン抵抗性モデルラットの耐糖能異常と血管障害を改善する		2021年12月	第31回日本循環薬理学会
<i>SPARC increment induces vascular endothelial dysfunction in DOCA-salt hypertensive rats</i>		2022年3月	第86回日本循環器学会総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～現在	日本薬理学会学術評議員		
2017年～現在	日本循環器学会、日本高血圧学会、日本循環薬理学会、臨床薬理学会、The American Physiological Society、American Heart Association会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	薬理学分野	教授	田中 智之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
2 作成した教科書、教材、参考書			
函解 薬学・副作用学（改訂2版）（南山堂） スタンダード薬学シリーズⅡ「薬学研究」（東京化学同人） 科学者の研究倫理-化学・ライフサイエンスを中心に（東京化学同人） 臨床薬学テキストシリーズ「呼吸器/免疫・炎症・アレルギー」		2017年9月15日 2017年9月29日 2018年6月8日 2020年9月26日	「薬物アレルギー」の項目を担当 「研究の心構え」の項目を担当 分担執筆 「抗アレルギー薬」「免疫抑制薬」の項目を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
学術出版における研究公正の動向  なぜ不正行為に及ぶのか？：メトリクス偏重の弊害  学術出版における研究公正の動向について  オンデマンド型授業（ビデオ講義）の実践と課題		2020年3月  2020年12月4日  2021年2月19日  2021年3月9日	第140回日本薬学会年会（京都、誌上開催）シンポジウム「医薬品研究コミュニケーションの今後—オープンサイエンス、ソーシャルメディアの活用」  第43回日本分子生物学会年会（オンライン）フォーラム「質の高い研究活動の実施に向けて～研究者が今、取り組むべきこと」  日本薬学図書館協議会学術シンポジウム（オンライン）「オープンサイエンス時代の新しい学術出版の動向と研究公正について」  第94回薬理学会年会（札幌、ハイブリッド）With/Afterコロナ時代の新たな薬理学教育Ⅰ：遠隔教育の実践と課題
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) 1-Fluoro-2,4-dinitrobenzene and its derivatives act as secretagogues on rodent mast cells.	共著	2017年1月	Wiley, Eur. J. Immunol., 47, 60-67
(論文) Suppression of IFN- $\gamma$ production in murine splenocytes by histamine receptor antagonists.	共著	2018年12月	MDPI, Int. J. Mol. Sci., 19, 4083
(論文) Suppression of IgE-Independent Degranulation of Murine Connective Tissue-Type Mast Cells by Dexamethasone.	共著	2019年2月	MDPI, Cells, 8, 112
(論文) Establishment and Characterization of a Murine Mucosal Mast Cell Culture Model.	共著	2019年12月	MDPI, Int. J. Mol. Sci., 21, 236
(著書) Activation and Modulation of Mast Cells	共著	2020年8月	MDPI
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
研究評価と研究不正（シンポジウム・「これからの研究者はどうあるべきか」）		2021年11月	日本生化学会
第23回ヒスタミン学会（年会委員長）		2022年1月	日本ヒスタミン学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2015年～現在	医薬品医療機器総合機構専門委員
	日本生化学会評議員
	日本薬理学会評議員
	日本ヒスタミン学会幹事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬理学分野	職名 准教授	氏名 藤井 正徳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年度～現在  2020年度～現在	<p>自作講義テキストを用いた授業 担当科目「薬理学A, B」：関連する基礎生物系科目(解剖学、生理学、病態生理学)の復習を適宜取り入れ、図を多用した自作の講義テキストを使用した。2019年度授業評価：薬理学A 8.59(科目区分平均8.12)、薬理学B 8.52(科目区分平均7.94)</p> <p>オンライン講義 担当科目「薬理学A, B」：Microsoft Teamsを利用して板書式オンライン講義を行うことにより、従来の対面講義と同様に教育効果が得られるよう工夫した。2020年度授業評価：薬理学A 8.58(科目区分平均8.16)、薬理学B 8.90(科目区分平均8.09)</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年度	薬理学講義テキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Diet-Induced Mouse Model of Atopic Dermatitis. In: "Animal Models of Allergic Disease: Methods and Protocols"	共著	2020年11月	Methods in Molecular Biology (2223・79-86)
(論文) Eicosapentaenoic acid ethyl ester ameliorates atopic dermatitis-like symptoms in special diet-fed hairless mice, partly by restoring covalently bound ceramides in the stratum corneum	共著	2018年8月	Experimental Dermatology (27・837-840)
(論文) Barbiturates enhance itch-associated scratching in atopic dermatitis mice: A possible clue to understanding nocturnal pruritus in atopic dermatitis	共著	2018年10月	European Journal of Pharmacology (836・57-66)
(論文) Brain allopregnanolone induces marked scratching behaviour in diet-induced atopic dermatitis mouse model	共著	2019年2月	Scientific Reports (9・2364-2375)
(総説) Current understanding of pathophysiological mechanisms of atopic dermatitis: Interactions among skin barrier dysfunction, immune abnormalities and pruritus	単著	2020年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin (43・12-19)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）アトピー性皮膚炎マウスの掻痒行動におけるアロプレグナロンおよびテトラヒドロデオキシコルチコステロンの関与	2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2013年度～現在	日本薬理学会 評議員	
2017年9月～現在	滋賀県指定薬物審査会 委員	
2018年10月～2020年9月	日本薬理学会 代議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬理学分野	職名 助手	氏名 田村裕穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2020年度  2021年度 2020年度	薬理学実習  薬理学実習 薬学総合演習	学生が理解しているか確認するため、時折質問するなどして進行するよう心がけた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Tyrosine kinase activity of EphA2 promotes its S897 phosphorylation and glioblastoma cell proliferation	共著	2018年	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol. 499, 920-926 .
(論文) EphA2 is up-regulated by epidermal growth factor and promotes formation of glioblastoma cell aggregates	共著	2019年	Biochem. Biophys. Res. Commun. Vol. 508, 715-721
(著書) トピックス 薬理系薬学	単著	2020年	ファルマシア 2020, 56巻12号, pp1135.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年12月	新型コロナPCR検査業務		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床腫瘍学分野	職名 准教授	氏名 中田晋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年度	解剖学 8.86(10点満点) 日常の臨床に関係のある解剖学的内容を関連づけて講義し、将来学ぶ生理学や薬理学に直結する内容を詳しく説明するよう工夫した。 腫瘍細胞生物学 8.65(10点満点) がんの分子標的治療薬の薬理学に繋がる腫瘍細胞生物学的な内容にフォーカスを当て系統的に理解出来るように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Identification of U83836E as a <math>\gamma</math>-glutamylcyclotransferase inhibitor that suppresses MCF7 breast cancer xenograft growth</i>	共著	2021年3月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> , 549:128-134
<i>Inhibition of Gli2 suppresses tumorigenicity in glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model</i>	共著	2021年1月	<i>Cancer Gene Therapy</i> , <a href="https://doi.org/10.1038/s41417-020-00282-5">https://doi.org/10.1038/s41417-020-00282-5</a>
<i><math>\gamma</math>-Glutamylcyclotransferase, a novel regulator of HIF-1<math>\alpha</math> expression, triggers aerobic glycolysis</i>	共著	2021年1月	<i>Cancer Gene Therapy</i> , <a href="https://doi.org/10.1038/s41417-020-00287-0">https://doi.org/10.1038/s41417-020-00287-0</a>
<i>Depletion of gamma-glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth by activating the AMPK-FOXO3a-p21 axis</i>	共著	2019年9月	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> , 517:238-243
<i>Depletion of gamma-glutamylcyclotransferase in cancer cells induces autophagy followed by cellular senescence</i>	共著	2018年4月	<i>American Journal of Cancer Research</i> , 8:650-661
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1の減少を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する		2020年10月	第79回日本癌学会学術総会
Stat5b阻害はマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖を抑制し、アポトーシスを誘導する		2020年10月	第79回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年12月	Cell Death and Disease誌論文審査員		
2018年6月	Cancer Science誌論文審査員		
2017年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin誌論文審査員		
2017年7月	Clinical Cancer Research誌論文審査員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床腫瘍学分野	職名 助教	氏名 飯居 宏美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年度～現在	解剖学(授業評価7.84)教科書の授業内容についてどこが大切なポイントなのか分かるように説明し、補足資料を用意して復習できるように工夫した。
		2014年度～現在	腫瘍細胞生物学(授業評価7.92)講義の最初に、目的を説明するようにし、ポイントになる事項について配布資料に記載した。
		2015年度～現在	がん化学療法学(授業評価7.84)教科書に沿った補助スライドを追加し、後で復習しやすいように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Identification of U83836E as a $\gamma$ -glutamylcyclotransferase inhibitor that suppresses MCF7 breast cancer xenograft growth.	共著	2021年3月	<i>Biochem Biophys Res Commun.</i>
Up-regulation of death receptor 5/TRAIL-R2 mediates apoptosis induced by <i>N,N'</i> -[(3,4-dimethoxyphenyl)methylene] biscinnamide in cancer cells.	共著	2020年9月	<i>Anticancer Res.</i>
Blockade of $\gamma$ -glutamylcyclotransferase enhances docetaxel growth inhibition of prostate cancer cells.	共著	2019年3月	<i>Anticancer Res.</i>
A novel prodrug of $\gamma$ -glutamyl cyclotransferase inhibitor suppresses cancer cell proliferation in vitro and inhibits tumor growth in a xenograft mouse model of prostate cancer.	共著	2018年1月	<i>ChemMedChem.</i>
Design of fluorogenic probes and fluorescent-tagged inhibitors for $\gamma$ -glutamyl cyclotransferase.	共著	2020年9月	<i>J Pept Sci.</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Anti-tumor effects of antisense oligonucleotides targeting $\gamma$ -glutamyl cyclotransferase in an A549 xenograft model.		2021年・10月	日本癌学会
Identification of U83836E as a gamma-glutamylcyclotransferase inhibitor that suppresses MCF7 xenograft growth.		2021年・3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年度	奈良県毒劇物取扱者試験問題評価委員		
2021年度から現在	日本生化学会会員		
2020年度から現在	日本癌治療学会会員		
2010年度から現在	日本癌学会会員、日本薬学会会員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	薬剤学分野
職名	教授	氏名	山本 昌
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年4月～現在	薬剤学A、DDS概論、薬剤学実習、アドバンスト薬学、投与設計薬学特論1、投与設計薬学特論2を担当し、学生に分かりやすい講義をするように努めており、授業評価も高い評価を得ている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2016年9月	モデル生物薬剤学～ADMEからDDSまで～ (京都廣川書店)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2016年4月～現在	毎年、開催される薬剤学教科担当教員会議に大学の代表者として出席し、薬剤師国家試験の問題の評価などを行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Effects of polyoxyethylene alkyl ethers on the intestinal transport and absorption of rhodamine 123: a P-glycoprotein substrate by in vitro and in vivo studies.	共著	2016年4月	<i>J. Pharm. Sci.</i> , <b>105</b> , 1526-1534 (2016).
Enhanced oral delivery of alendronate by sucrose fatty acids esters in rats and their absorption-enhancing mechanisms.	共著	2016年12月	<i>Int. J. Pharm.</i> , <b>515</b> , 476-489 (2016).
Improvement of intestinal absorption of curcumin by cyclodextrins and the mechanisms underlying absorption enhancement.	共著	2018年1月	<i>Int. J. Pharm.</i> , <b>535</b> , 340-349 (2018).
Modulation of intestinal transport and absorption of topotecan, a BCRP substrate by various pharmaceutical excipients and their inhibitory mechanisms of BCRP transporter.	共著	2019年3月	<i>J. Pharm. Sci.</i> , <b>108</b> , 1315-1325 (2019).
Absorption-enhancing mechanisms of Capryol 90, a novel absorption enhancer, for improving the intestinal absorption of poorly absorbed drugs: Contributions to trans- or para-cellular pathways	共著	2020年12月	<i>Pharm. Res.</i> , <b>37</b> , 248 (2020).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Labrasol関連製剤によるアレンドロネート及びインスリンの消化管吸収性の改善		2020年5月	日本薬剤学会第35年会
Labrasol関連製剤Capryol 90による消化管吸収改善機構の解析～膜流動性、膜抵抗値及びタイトジャンクション関連タンパク質の発現量に対するCapryol 90の影響～		2020年5月	日本薬剤学会第35年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～現在	日本薬剤学会評議員、代議員		
2016年4月～現在	日本DDS学会評議員		
2016年4月～2021年3月	Journal of Pharmaceutical Sciences の編集委員(Editorial Board)		
2020年6月～現在	日本薬剤学会第36年会 組織委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬剤学分野	職名 准教授	氏名 勝見英正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016年4月～現在	薬剤学B、日本薬局方、DDS概論、薬剤学実習 アドバンスト薬学、投与設計薬学1,2、SGDを導入し 学生の知識の統合や表現力の養成に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年5月	製剤学・物理薬剤学(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月	「実験実習における能動的学修推進への取り組み —薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について—」第3回日本薬学教育学会(2018)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年4月～現在	日本薬局方教科担当教員会議 担当教員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
<i>Dendrimer-based micelles with highly potent targeting to sites of active bone turnover for the</i>	共著	2020年10月	<i>Eur. J. Pharm. Biopharm., 157, 85-96, (2020)</i>
<i>Efficient transdermal delivery of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, using tip-</i>	共著	2017年8月	<i>Pharmaceutics, 9, E29 (2017)</i>
<i>Development of PEGylated carboxylic acid-modified polyamidoamine dendrimers as bone-targeting</i>	共著	2017年11月	<i>J. Control. Release, 262, 10-17 (2017)</i>
<i>Development of PEGylated aspartic acid-modified liposome as a bone-targeting carrier for the</i>	共著	2017年10月	<i>Biomaterials, 154, 74-85. (2018)</i>
<i>l-Serine-modified polyamidoamine dendrimer as a highly potent renal targeting drug carrier</i>	共著	2018年10月	<i>PNAS, 115, 10511-10516. (2018)</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
セリン修飾を利用した腎臓ターゲティング型ドラッグデリバリーシステム(DDS)の開発と腎臓疾患治療への応用		2020年8月	第63回日本腎臓学会学術総会
アミノ酸クラスターを利用したターゲティング型DDSの開発とがんのセラノスティクスへの展開		2020年8月	第36回日本DDS学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年7月～現在	日韓若手薬剤学研究者WS 組織委員		
2019年5月～現在	日本薬剤学会DDS臨床フォーカスグループ執行部		
2020年4月～現在	日本薬剤学会 代議員		
2021年3月～現在	日本薬剤学会第36年会 実行委員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬剤学分野	職名 助教	氏名 森下 将輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年7月～現在	日本薬局方、薬剤学実習、薬学総合演習 を担当している。適宜、学生の理解度を深めるために学修支援システム「manaba」を用いた小テスト等の振り返り学習の配信を配信し、高い授業評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月	「実験実習における能動的学修推進への取り組み—薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について—」第3回日本薬学教育学会 (2018)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) <i>Characterizing different probiotic-derived extracellular vesicles as a novel adjuvant for immunotherapy.</i>	共著	2021年3月	<i>Molecular Pharmaceutics</i> vol. 18 Issue. 3
(論文) <i>Development of CD40L-modified tumor small extracellular vesicles for effective induction of antitumor immune response.</i>	共著	2020年7月	<i>Nanomedicine</i> vol. 15 Issue. 17
(著書) <i>DDSを志向したプロバイオティクス由来細胞外小胞の基礎的特性の解明</i>	共著	2019年7月	膜 (MEMBRANE) 40巻 5号
(論文) <i>Role of extracellular vesicle surface proteins in the pharmacokinetics of extracellular vesicles.</i>	共著	2018年3月	<i>Molecular Pharmaceutics</i> vol. 15 Issue. 3
(論文) <i>Enhanced Class I Tumor Antigen Presentation via Cytosolic Delivery of Exosomal Cargos by Tumor-Cell-Derived Exosomes Displaying a pH-Sensitive Fusogenic Peptide.</i>	共著	2017年11月	<i>Molecular Pharmaceutics</i> vol. 14 Issue. 11
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
プロバイオティクス由来細胞外小胞が有する特性の比較検討		2020年5月	日本薬剤学会第35年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年7月～現在	日本薬学会会員		
2017年7月～現在	日本薬剤学会会員		
2017年7月～現在	日本DDS学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬物動態学分野	職名 教授	氏名 栄田敏之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
薬物動態学 (2年次)	授業評価スコア : 8.53 (2020年度)	2017-2021	教科書を作成し、教科書に準拠したパワーポイント教材を用いて、過不足ない正しい基礎知識の定着に重点を置いた。演習問題を解く時間を与え、これを解説することで、理解の助けを図った。なお、簡単な数学がわからないことに起因する理解不足が散見されたので、1年次数学担当者と連携し、内容の関連性を持たせた。
テーラーメイド薬物治療学 (3年次)	授業評価スコア : 8.63 (2020年度)	2017-2021	教科書を作成し、教科書に準拠したパワーポイント教材を用いて、過不足ない正しい基礎知識の定着に重点を置いた。演習問題を解く時間を与え、これを解説することで、理解の助けを図った。本科目は2年次薬物動態学の応用的な側面があるので、2年次薬物動態学の復習も兼ねた構成とした。
PK-PD 解析概論 (6年次)	授業評価スコア : 8.50 (2020年度)	2017-2021	5年次実務実習の後の講義科目であることに着目し、臨床現場で経験した課題を取り上げ、薬物動態学的な知識の活用により、これを解決する方法について議論する場とした。また、科目横断的な科学的思考力の醸成を図るため、薬物治療学、薬理学、生化学、その他との関連性を持たせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017-2021	教科書(実践薬物速度論、京都廣川書店、2015年9月発行)に準拠したパワーポイント教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017-2021	2017年は教務部委員会委員として、2018~2021年は教務部長として、教務部委員会の他、教務関連業務に従事した。2020年度以降はコロナ禍における新しい教育方法の導入に注力した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 医薬品情報学	編集、共著	2017年5月	廣川書店
(著書) 製剤学・物理薬剤学	編集、共著	2017年5月	廣川書店
(論文) Comparison of in vivo transportability of anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) agents into intracellular and extracellular tissue spaces in rats	共著	2021年2月	J. Pharm. Sci., 110(2), 898-904
(論文) A validated LC-MS/MS method for the low-level determination of pemafibrate, a novel SPPARM $\alpha$ , in plasma	共著	2020年5月	Bioanalysis, 12(10), 683-692
(論文) Pharmacokinetics of macrolide antibiotics and transport into the interstitial fluid: Comparison among erythromycin, clarithromycin, and azithromycin	共著	2020年4月	Antibiotics (Basel), 9(4), 199

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Data mining of the public version of the FDA Adverse Event Reporting System	2017年10月	The 8th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference 2017
（演題名）TDM in Japan	2017年9月	The 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
1983年2月～現在	日本薬学会（2004年4月より、関西支部委員）	
1998年10月～現在	日本臨床薬理学会（2016年12月より、社員）	
1999年1月～現在	日本 TDM 学会（2016年10月より、理事長）	
2010年9月～現在	レギュラトリーサイエンス学会（2010年11月より、運営委員会委員）	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	京都薬科大学	講座名	薬物動態学分野	職名	講師	氏名	伊藤 由佳子
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫							
薬物動態学 (2年次)		(スコア: 7.5)		2016年-2020年			
テーラーメイド薬物治療学 (3年次)		(スコア: 7.5)		2016年-2021年			
2 作成した教科書、教材、参考書							
理系薬学版 アカデミック・スキル				2021年3月31日	理系(薬学)に必要な能力・素養習得のための手引書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
なし							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
なし (FDを含む)							
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
理系薬学版 アカデミック・スキル				共著	2021年3月	京都薬科大学 理系版アカデミック・スキル研究会	
(論文) <i>Cytology-based detection of circulating tumour cells in human pancreatic cancer xenograft models with KRAS mutation.</i>				共著	2020年12月	<i>Anticancer Res. vol 40 no. 12</i>	
(論文) <i>Assessment of oxaliplatin-induced chronic neuropathy and anticancer efficacy through pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of a rat model of colorectal cancer. Anticancer Res, 39(8), 4207-4213 (2019).</i>				共著	2019年12月	<i>Anticancer Res. vol 39 no. 8</i>	
(論文) <i>Pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of oxaliplatin-induced neuropathy and hematological toxicity in rats. Cancer Chemother. Pharmacol. 2018, 81, 155-161.</i>				共著	2018年1月	<i>Cancer Chemother Pharmacol. vol 81 no. 1</i>	
(論文) <i>Dissolving microneedles for enhanced local delivery of capsaicin to rat skin tissue</i>				共著	2017年5月	<i>J Drug Target. vol 25 no. 5</i>	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)					発表年・月	学会名	
(演題名) Pharmacokinetic-pharmacodynamic approach to predict paclitaxel-induced peripheral neuropathy in pancreatic cancer rats.					2021年9月	第80回日本癌学会学術総会	
(演題名) Risk management of peripheral neuropathy by platinum localization in dorsal root ganglion neurons with FOLFIRINOX					2021年9月	第80回日本癌学会学術総会	
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)							
2018年11月～現在		学術振興会 科研費若手(B) 審査員					
1997年3月～現在		日本薬学会会員					
2015年3月～現在		日本癌学会会員					
2021年4月～2022年5月		日本薬剤学会第37年会 実行委員					

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬物動態学分野	職名 助教	氏名 河渕真治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬物動態学（2年次）授業評価スコア：9.1/10 テーラーメイド薬物治療学（3年次）授業評価スコア：8.5/10	2015-2021年度 2015-2021年度	薬物動態学の範囲に限定することなく、薬理学や統計学などの知識を統合して科目横断的に考える力を育てるために、講義内で関連課題を解答する時間を設けている。解説も行うことで、考える過程を学生と共有し、学習効果の向上を目指している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）第Ⅲ章 抗菌薬の適正使用 2. 抗菌薬のPK/PD. 薬剤師のための感染制御マニュアル第4版	共著	2017年4月	薬事日報社
（論文）Application of pharmacometrics of 5-fluorouracil to personalized medicine: A tool for predicting pharmacokinetic-pharmacodynamic/toxicodynamic responses.	共著	2020年12月	Anticancer Res. 40(12), 6585-6597
（論文）Population pharmacokinetic model-based evaluation of circadian variations in plasma 5-fluorouracil concentrations during long-term infusion in rats: a comparison with oral anticancer prodrugs.	共著	2020年7月	J. Pharm. Sci., 109(7), 2356-2361
（論文）Population pharmacokinetics of afatinib and exposure-safety relationships in Japanese patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer.	共著	2019年9月	Sci. Rep., 9(1), 18202
（論文）Circadian variations in the pharmacokinetics of capecitabine and its metabolites in rats.	共著	2018年1月	Eur. J. Pharm. Sci., 112, 152-158
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Pharmacokinetic-pharmacodynamic approach to predict paclitaxel-induced peripheral neuropathy in pancreatic cancer rats.		2021年9月	第80回日本癌学会学術総会
（演題名）Risk management of peripheral neuropathy by platinum localization in dorsal root ganglion neurons with FOLFIRINOX		2021年9月	第80回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年6月～現在	日本薬物動態学会 会員		
2010年11月～現在	日本薬学会 会員		
2012年7月～現在	日本臨床薬理学会 会員		
2021年4月～2022年5月	日本薬剤学会第37年会 実行委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学分野	職名 教授	氏名 西口工司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年度～ 2021年度	・教科書の内容を補填する資料の配布している ・講義開始時に前回の講義内容を復習している ・manaba小テスト機能にて確認問題を実施
2 作成した教科書、教材、参考書 次世代型調剤論(教科書)共著		2018年3月20日	次世代の薬剤師として必要な知識、技能、態度の修得を目的として作成し、共著とともに編者を担当した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
<i>Synergistic effects of olaparib and DNA-damaging agents in oesophageal squamous cell carcinoma cell lines</i>	共著	2019年2月	<i>Anticancer Res.</i> 2019, 39, 1813-1820
<i>Uremic serum residue decreases SN-38 sensitivity through suppression of organic anion transporter polypeptide 2B1 in LS-180 colon cancer cells</i>	共著	2019年9月	<i>Sci. Rep.</i> 2019, 9, 15464
<i>Olaparib potentiates anticancer drug cytotoxicity via 53BP1 in oesophageal squamous cell carcinoma cells</i>	共著	2020年2月	<i>Anticancer Res.</i> 2020, 40(2), 813-823
<i>A case of idiosyncratic liver injury after oxaliplatin-induced thrombocytopenia</i>	共著	2020年4月	<i>J. Clin. Pharm. Ther.</i> 2020, 45(2), 373-375
<i>In Vitro Evidence of Potential Interactions between CYP2C8 and Candesartan Acyl-β-D-glucuronide in the Liver.</i>	共著	2021年4月	<i>Drug Metab. Dispos.</i> 2021, 49(4), 289-297
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト乳癌細胞株における PARP 阻害薬に対する耐性獲得が遊走能及び浸潤能に及ぼす影響		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
ヒト消化管上皮 Caco-2 細胞におけるソラフェニブによる有機カチオン輸送担体の機能低下		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2019年3月	厚生労働省 薬剤師国家試験問題作成委員会 委員		
2018年9月～現在	日本薬学教育学会 理事		
2019年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2019年12月～現在	科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	臨床薬学分野
		職名	講師
		氏名	辻本 雅之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年度～現在 2021年度 2021年度	症例をベースとした課題を用意し、SGDを実施 MS Teams中の仮想会議室でのSGDを実施 Manabaの小テスト機能による確認問題の作成
2	作成した教科書、教材、参考書 次世代型調剤論(京都廣川書店)共著	2018年3月20日	合併症時の薬物治療、TDM、薬物相互作用を担当
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「なし」		
4	その他教育活動上特記すべき事項 「なし」 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) In Vitro Evidence of Potential Interactions between CYP2C8 and Candesartan Acyl-β-D-glucuronide in the Liver.	共著	2021年4月	Drug Metab. Dispos. 2021, 49(4), 289-297
(論文) Factors associated with dose modification of lenalidomide plus dexamethasone therapy in multiple myeloma.	共著	2020年8月	Biol. Pharm. Bull. 2020, 43(8), 1253-1258.
(論文) A case of idiosyncratic liver injury after oxaliplatin-induced thrombocytopenia.	共著	2020年4月	J. Clin. Pharm. Ther. 2020, 45(2), 373-375.
(論文) Olaparib potentiates anticancer drug cytotoxicity via 53BP1 in oesophageal squamous cell carcinoma cells.	共著	2020年2月	Anticancer Res. 2020, 40(2), 813-823.
(論文) Uremic serum residue decreases SN-38 sensitivity through suppression of organic anion transporter polypeptide 2B1 in LS-180 colon cancer cells.	共著	2019年9月	Sci. Rep. 2019, 9, 15464.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ヒト消化管上皮Caco-2細胞におけるソラフェニブによる有機カチオン輸送担体の機能低下		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
(演題名) 薬物動態から考える高齢腎機能低下患者の医薬品安全性～腎機能低下患者の薬物動態を中心に～		2021年7月	第7回日本医薬品安全性学会学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2022年3月	日本腎臓病薬物療法学会 代議員、編集委員、国際交流委員		
2017年4月～2022年3月	日本医薬品安全性学会 代議員		
2017年4月～2022年3月	関西腎と薬剤研究会 評議員、学術委員長		
2017年4月～2022年3月	関西POS薬剤研究会 理事		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	臨床薬剤学分野	教授	村木 優一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			感染症学(2年次)、感染症治療学(3年次)、感染制御概論(6年次)の講義では、各学年の修学状況に応じて16年間の実務経験を活かして症例を交えながら行っている。医療の担い手や実務事前実習などにおいても同様に実務経験を活かして講義や演習を実践している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年	寸劇を用いたAMR対策をテーマとした市民公開講座の効果
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017.12 2019.12 2020.12 2020.12	薬学共用試験(OSCE): 外部評価者(大阪薬科大学) 薬学共用試験(OSCE): 外部評価者(大阪薬科大学) 薬学共用試験(OSCE): 外部評価者(摂南大学) 薬学共用試験(OSCE): 大学委員長(京都薬科大学)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称(多数あるため、各年1つずつ表記)	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 即引き!薬の必須検査値チェックブック	共著	2017	南江堂
(論文) Usefulness of limited sampling strategy for mycophenolic acid area under the curve considering postoperative days in living-donor renal transplant recipients with concomitant prolonged-release tacrolimus	共著	2017	J Pharm Health Care Sci. 3(17), doi: 10.1186/s40780-017-0086-7
(著書) AMR対策につながる抗菌薬の使い方実践ガイド	共著	2018	月間薬事
(論文) Monitoring of peripheral blood cluster of differentiation 4+ adenosine triphosphate activity and CYP3A5 genotype to determine the pharmacokinetics, clinical effects and complications of tacrolimus in patients with autoimmune diseases	共著	2018	Exp Ther Med. 2018, 15, 532-538
(論文) What is the impact of the change in DDD of amoxicillin and amoxicillin combined with $\beta$ -lactamase inhibitors on nationwide surveillance of antimicrobial use?	共著	2019	J. Antimicrob Chemother. 2019, 74(10), 3119-3121
(著書) 「AST虎の巻:日常の疑問に答える!」	共著	2020	中外医学社
(論文) Impact of antimicrobial stewardship fee on prescribing for Japanese pediatric patients with upper respiratory infections	共著	2020	BMC Health Services Research. 2020, 20(1)
(論文) An alternative index for evaluating AMU and anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus agent use: A study based on the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups data of Japan	共著	2021	J Infect Chemother. 2021 Feb 19;S1341-321X(21)00040-4. doi: 10.1016/j.jiac.2021.02.009.
2. 学会発表(評価対象年度のみ、多数あるため、各年1つずつ表記)		発表年・月	学会名
(演題名) JACSを利用した抗菌薬使用量サーベイランスMACS(Mie Antimicrobial Consumption Surveillance)の構築		2017.2	第32回日本環境感染学会総会・学術大会(神戸)
(演題名) 日本における2006年から2015年までの抗真菌薬の使用動向調査		2018.11	第28回日本医療薬学会年会(神戸)
(演題名) NDBを用いた日本における2016年の抗MRSA薬の使用を反映する各指標と分離率及び耐性率の関係		2019.11	第29回日本医療薬学会年会(福岡)
(演題名) NDBを用いた日本におけるClostridioides difficile感染症に用いる抗菌薬の使用動向		2020.09	第68回日本化学療法学会総会(神戸)
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
平成26年~現在□	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師部門認定審査委員		
平成27年~現在□	抗微生物薬適正使用推進検討委員会 委員		
平成27年~現在□	日本医療薬学会 代議委員		
令和2年~現在□	日本医療薬学会 理事		
平成27年~現在□	日本TDM学会 評議委員		
平成27年~現在□	日本化学療法学会 評議委員		

平成28年～現在	日本環境感染学会 評議委員
平成29年～現在	日本環境感染学会 理事
平成29年～現在	AMR臨床リファレンスセンター（AMRCRC）運営委員
平成31年度～現在	日本薬学会代議員（近畿支部）

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料 9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	臨床薬剤疫学分野	助手	冢瀬 諒
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			4年次の実務事前実習を担当しており、病院での実務経験を活かして、調剤に関する手技や知識について指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Calcium channel blockers possibly delay the elimination of plasma methotrexate in patients receiving high-dose methotrexate therapy.	共著	2019	Journal of chemotherapy, 2019 31, 30-34.
(論文) Risk of malignant lymphoma in patients with rheumatoid arthritis treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs and methotrexate.	共著	2019	Int J Clin Pharmacology and Therapeutics, 2019, 57, 63-72.
(論文) JADERIにおける医師および薬剤師による有害事象報告の比較.	共著	2020	医薬品情報学, 2020, 22(3), 135-140.
(論文) Association between malignancy and methotrexate and biological disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis.	共著	2020	Int J Clin Pharmacol Ther. 2020, 58(3), 131-138.
(論文) An alternative index for evaluating AMU and anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus agent use: A study based on the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups data of Japan.	共著	2021	J Infect Chemother. 2021 Feb 19;S1341-321X(21)00040-4. doi: 10.1016/j.jiac.2021.02.009.
2. 学会発表		発表年・月	学会名
(演題名) 悪性リンパ腫に対する高用量メトトレキサート療法の排泄遅延に及ぼす影響因子の解析		2017.11	第27回日本医療薬学会年会(幕張)
(演題名) 肺癌がんに対するゲムシタピン+アルブミン懸濁型パクリタキセル療法の治療強度低下に関する影響因子の検討		2018.03	日本薬学会第138年会(金沢)
(演題名) Risk of malignant lymphoma in patients with rheumatoid arthritis treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs and methotrexate		2019.10	ISPE's 12th Asian Conference on Pharmacoepidemiology and 25th Japanese Conference on Pharmacoepidemiology joint meeting (Kyoto City)
(演題名) 転移性脳腫瘍患者に対するナルデメジン投与が鎮痛効果に及ぼす影響		2020.02	第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会(神戸)
(演題名) JADERを用いた薬剤師と医師による有害事象報告件数の推移及び報告内容の違いに関する考察		2020.03	日本薬学会第140年会(京都)
III 学会および社会における主な活動(加入学会名)			
日本医療薬学会			
日本医薬品情報学会			
日本薬学会			
日本臨床腫瘍薬学会			

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
京都薬科大学	講座名 統合薬科学系	職名 教授	氏名 高田 和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
生理学		2017年度～2019年度	一目でわかる図表を多く用いて直感的な理解を促した。大変わかりやすいという評価得た。
生命科学探求概論		2017年度～現在	生体機能の学びを統合し、痛みの受容について、神経系から感覚器までの理解を総合的まとめ、薬物治療の理解までを促す内容とした。興味を持つように工夫されており、理解しやすいという評価を得ている。
薬理学		2019年度～現在	生理学で学んだ内容を多く取り入れ、また同じイラスト等を用いながら、ヒトの正常から病気をして薬の理解までの一連の流れの理解を
基礎演習		2017年度～現在	医療をテーマとしたSGDやプロダクトの作成と発表を体験させることで、問題の発見・解決能力の修得をサポートしている。
薬理学実習		2017年度～現在	中枢興奮抑制薬について、マウスの向こうにあるヒトを想像する実習を促している。緊張感を持って薬の作用を肌で感じることができ、理解を飛躍的に深めることができると言う評価を得ている。
研究倫理特論（大学院講義）		2019年度～2020年度	研究倫理について、ラボノート書き方や遺伝子組換え生物の取り扱い、実験動物の取り扱いについて法令と具体例を取り入れて講義した。自身の研究を実施する上で実践として大変参考になるという評価を得た。
生命分子科学特論（大学院講義）		2017年度～現在	幹細胞の分子科学について、その歴史から先端研究応用に至るまで広く説明し、大学院生自身の研究にも活かせる内容としている。幹細胞についての理解が深まり、興味がますますわいてきたという評価を得ている。
薬学英語特論（大学院講義）		2017年度～現在	英文論文の執筆の中で、日本人が間違いやすい英語文法を取り上げ、実践的な講義を実施している。また、英語での医療従事者間の英会話や国際学会関連の深い内容で具体的であり、参考になるという評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
iPS細胞と再生医療、iPS細胞や再生医療分野の理解を深めるための人材育成事業基礎講座テキスト〈学術研究用〉		2019年2月21日	人工多能性幹（iPS）細胞を含む幹細胞技術を産業利用するために必要となる幹細胞の基礎知識をまとめたテキストの一部を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
日本薬学会第5回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ（参加）		2019年9月21日-23日	近未来の薬学教育を考えるワークショップに参加した。



II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Induced pluripotent stem cell-derived primitive macrophages as a cellular platform to model tissue-resident macrophage differentiation and function.	共著	2017年7月	Immunity (47) 183-198
(論文) Alpha7 nicotinic acetylcholine receptor-specific agonist DMXBA (GTS-21) attenuates amyloid- $\beta$ accumulation through suppression of neuronal $\gamma$ -secretase activity and promotion of microglial amyloid- $\beta$ phagocytosis and ameliorates cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease.	共著	2018年2月	Neurobiol. Aging (62) 197-209
(論文) Bone-marrow-derived microglia-like cells ameliorate brain amyloid pathology and cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease.	共著	2018年6月	J. Alzheimer Dis., 64 (2), 563-585
(論文) Peripheral blood-derived microglia-like cells decrease amyloid- $\beta$ burden and ameliorate cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease.	共著	2020年1月	J. Alzheimer Dis., 73 (1), 413-429
(論文) Mouse bone marrow-derived microglia-like cells secrete transforming growth factor- $\beta$ 1 and promote microglial A $\beta$ phagocytosis and reduction of brain A $\beta$ .	共著	2020年6月	Neuroscience, 438, 217-228
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
iPS細胞を利用した脳免疫研究		2021年・9月	第62回日本組織細胞化学会総会・学術集会
脳オルガノイドを活用した脳内免疫環境変化の解析と認知症の病態解明		2021年・11月	第40回日本認知症学会学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年9月～現在	Scientific Reports, Editorial Board Member		
2019年1月～現在	Journal of Alzheimer's disease, Associate Editor		
2019年5月19日	2019年度卒後教育講座講義		
2020年4月～現在	日本薬理学会 代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 統合薬科学系	職名 助教	氏名 西村周泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬理学B、薬理学実習		2019年度	中枢神経系に影響を及ぼす薬物に関して、講義および実習を担当している。講義の内容については、年度ごとに学生からフィードバックを得ており、次年度の講義へと反映させている。
2 作成した教科書、教材、参考書 理系薬学版アカデミック・スキル		2021年3月	理系(薬学)の学生に必要な思考力および表現力について、教材としてまとめたものを発刊した。これを使って初年次教育を実践している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし。			
4 その他教育活動上特記すべき事項 京都薬科大学 Lehmannプログラム(専門・認定薬剤師資格 取得支援) 薬学領域におけるリーダー養成基礎科目(プレゼンテーション概論)		2020年6月	本プログラムは、専門・認定薬剤師資格の取得をサポートするとともに、将来の薬学領域におけるリーダーを育成することを目的とした履修証明プログラムである。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Peripheral blood-derived microglia-like cells reduce brain amyloid- $\beta$ burden and ameliorates cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease.	共著	2020年1月	J. Alzheimer Dis., 73 (1), 413-429
(論文)Zonisamide promotes survival of human-induced pluripotent stem cell-derived dopaminergic neurons in the striatum of female rats.	共著	2020年6月	J. Neurosci. Res., 98, 1575-1587
(論文)Mouse bone marrow-derived microglia-like cells secrete transforming growth factor- $\beta$ 1 and promote microglial A $\beta$ phagocytosis and reduction of brain A $\beta$	共著	2020年6月	Neuroscience, 438, 217-228
(論文)Neuroprotective effects of 5-aminolevulinic acid against neurodegeneration in rat models of Parkinson's disease and stroke.	共著	2020年11月	J. Pharmacol. Sci., 144, 183-187
(論文)MEK/ERK signaling regulates reconstitution of the dopaminergic nerve circuit in the planarian <i>Dugesia japonica</i> .	共著	2021年1月	Neurochem. Res.,印刷中
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
二次元および三次元培養法による低分子化合物を用いたヒトiPS細胞から線条体神経細胞への分化誘導法の開発		2021年7月	第44回 日本神経科学大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本薬学会医療薬科学部会 若手世話人		
2019年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2020年4月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人		
2020年4月～現在	日本薬理学会 薬理学エドゥケーター		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	健康科学分野
職名	准教授	氏名	長澤 吉則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2017年度	<p>科目：健康科学（1年次）</p> <p>健康の維持増進に貢献できるための運動生理学的基礎知識のうち主に運動の仕組みについて講義している。他の担当教員と共にSGDを取り入れ、教材はMoodle上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。</p> <p>授業評価：8.0(10段階評価)</p> <p>科目：スポーツ療法（2年次）</p> <p>対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および応用について講義している。他の教員と共に演習形式を取り入れるなど工夫している。</p> <p>授業評価：8.8(10段階評価)</p>
		2018年度	<p>科目：健康科学（1年次）</p> <p>健康の維持増進に貢献できるための運動生理学的基礎知識のうち主に運動の仕組みについて講義している。他の担当教員と共にSGDを取り入れ、教材はmanaba上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。</p> <p>授業評価：7.5(10段階評価)</p> <p>科目：スポーツ療法（2年次）</p> <p>対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および応用について講義している。他の教員と共に演習形式を取り入れるなど工夫している。</p> <p>授業評価：9.0(10段階評価)</p>
		2019年度	<p>科目：健康科学（1年次）</p> <p>健康の維持増進に貢献できるための運動生理学的基礎知識のうち主に運動の仕組みについて講義している。他の担当教員と共にSGDを取り入れ、教材はmanaba上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。</p> <p>授業評価：7.7(10段階評価)</p> <p>科目：スポーツ療法（2年次）</p> <p>対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および応用について講義している。他の教員と共に演習形式を取り入れるなど工夫している。</p> <p>授業評価：9.5(10段階評価)</p>

	2020年度	<p>科目：健康科学（1年次）</p> <p>健康の維持増進に貢献できるための運動生理学的基礎知識のうち主に運動の仕組みについて講義している。他の担当教員と共にSGDを取り入れ、教材はmanaba上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。</p> <p>授業評価：7.7(10段階評価)</p> <p>科目：スポーツ療法（2年次）</p> <p>対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および応用について講義している。他の教員と共に演習形式を取り入れるなど工夫している。</p> <p>授業評価：9.5(10段階評価)</p>
	2021年度	<p>科目：健康科学（1年次）</p> <p>健康の維持増進に貢献できるための運動生理学的基礎知識のうち主に運動の仕組みについて講義している。他の担当教員と共にSGDを取り入れ、教材はmanaba上に公開し、学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。</p> <p>授業評価：未実施</p> <p>科目：スポーツ療法（2年次）</p> <p>対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および応用について講義している。他の教員と共に演習形式を取り入れるなど工夫している。</p> <p>授業評価：未実施</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次科目「健康科学」の教科書改編（第6刷）、教材作成、改編</li> </ul>
	2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成、改編</li> <li>・1年次科目「健康科学」の教材作成、改編</li> <li>・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成、改編</li> </ul>
	2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次科目「健康科学」の教科書改編（第7刷）、教材作成、改編</li> <li>・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成、改編</li> </ul>
	2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次科目「健康科学」の教科書改編（第8刷）、教材作成、改編</li> <li>・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成、改編</li> </ul>
	2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次科目「健康科学」の教材作成、改編</li> <li>・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成、改編</li> </ul>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度京都薬科大学初年次教育および学習支援にかかる説明会</li> </ul> <p>演題名：早期体験学習について</p>
	2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度京都薬科大学初年次教育および学習支援にかかる説明会</li> </ul> <p>演題名：早期体験学習について</p>
	2019年度	なし
	2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度京都薬科大学初年次教育および学習支援にかかる説明会</li> </ul> <p>演題名：早期体験学習について</p>
	2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度京都薬科大学初年次教育および学習支援にかかる説明会</li> </ul> <p>演題名：早期体験学習について</p>

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年度	・2017年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（タスクフォースとして参加） ・京都女子大学非常勤講師（スポーツ実践担当）
	2018年度	・2018年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（タスクフォースとして参加） ・総合薬学研究担当教員
	2019年度	・2019年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（タスクフォースとして参加） ・総合薬学研究担当教員
	2020年度	・2020年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（タスクフォースとして参加） ・同志社大学嘱託講師（高齢者スポーツ論担当）
	2021年度	・2021年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（タスクフォースとして参加） ・同志社大学嘱託講師（高齢者スポーツ論担当）

## II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法-ここが知りたかった測定と評価のコツ-	共編著	2019年10月	杏林書院
（論文）Characteristics of the life habits of obese students at one of Japan's the National College of Technology	共著	2017年7月	International Journal of Adolescent Medicine and Health 20160109
（論文）Factors associated with increased levels of Brain natriuretic peptide and cardiac troponin I during the peripartum period	共著	2019年2月	PLOS ONE vol.14 No.2
（論文）Effect of grip strength on controlled force exertion in different strength exertion phases in young men	共著	2019年4月	American Journal of Sports Science and Medicine vol.7 No.2
（論文）Comparison of circulating fatty acid binding protein 4 concentration in venous and capillary blood	共著	同 年12月	PLOS ONE vol.14 No.12
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）発揮力量の異なる局面における女性の筋力発揮調整能は年代と関連する		2017年9月	日本体育学会 第68回大会
（演題名）Relationships between daily moderate- and vigorous-intensity physical activity time and physical functions in elderly cardiac patients during the maintenance period		2018年8月	International conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science
（演題名）若年者における下肢の等張性筋力発揮調整能と歩行能力及び認知機能の関係		2019年9月	日本体育学会 第70回大会
（演題名）心疾患維持期高齢者における日常の中強度身体活動と体格、体力及びADLの関係		2020年7月	第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
（演題名）若年者における下肢の等尺性筋力発揮調整能の性差		2021年9月	第76回日本体力医学会大会

## III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）

2007年8月～現在	日本教育医学会常任理事
2011年2月～現在	京滋心臓リハビリテーション研究会世話人
2011年4月～現在	日本体育測定評価学会常任理事
2013年9月～現在	日本体力医学会評議員
2015年4月～2021年3月	日本体育測定評価学会理事長
2019年10月	やましな健康フェスタ第2回実行委員会委員
2021年4月～現在	日本体育測定評価学会副会長

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 健康科学分野	職名 助教	氏名 棚橋 嵩一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2019年度	科目：体育実技（1年次） 各種スポーツの実践を通して、生涯を通じて運動やスポーツを実践できる資質を向上させる授業を実施している。また、コミュニケーションスキルの向上も目指し内容を工夫している。 授業評価：未実施  科目：スポーツ療法（2年次） 対象者に適したスポーツや運動を提供するためのスポーツ療法の基礎および方法について講義している。演習形式を取り入れるなど工夫している。 授業評価：9.5（10段階評価）	
	2020年度	科目：体育実技（1年次） 各種スポーツの実践を通して、生涯を通じて運動やスポーツを実践できる資質を向上させる授業を実施している。また、コミュニケーションスキルの向上も目指し内容を工夫している。 授業評価：8.6（10段階評価）  科目：健康科学（1年次） 健康の維持増進に貢献できるための基礎知識のうち、主に生活習慣と疾患との関わりについて講義している。教材はmanaba上に公開し学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。 授業評価：8.5（10段階評価）	
	2021年度	科目：体育実技（1年次） 各種スポーツの実践を通して、生涯を通じて運動やスポーツを実践できる資質を向上させる授業を実施している。また、コミュニケーションスキルの向上も目指し内容を工夫している。 授業評価：未実施  科目：健康科学（1年次） 健康の維持増進に貢献できるための基礎知識のうち、主に生活習慣と疾患との関わりについて講義している。教材はmanaba上に公開し学生の自己学習に活用できるようにするなど工夫している。 授業評価：未実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年度	・1年次科目「体育実技」の教材作成 ・2年次科目「スポーツ療法」の教材作成	
	2020年度	・1年次科目「体育実技」の教材作成 ・1年次科目「健康科学」の教材作成	
	2021年度	・1年次科目「体育実技」の教材作成 ・1年次科目「健康科学」の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年度	なし	
	2020年度	なし	
	2021年度	なし	



4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年度	・埼玉県立大学非常勤講師（スポーツ実技・ウィンタースポーツ）	
	2020年度	・総合薬学研究担当教員	
	2021年度	・総合薬学研究担当教員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Impact of Age and Aerobic Exercise Training on Conduit Artery Wall Thickness: Role of the Shear Pattern	共著	2017年9月	J Vasc Res. 54:272-279
（論文）Influence of sympathetic vasoconstrictor tone on conduit artery retrograde and oscillatory shear: effects of habitual aerobic exercise in middle-aged and older adults	共著	2018年1月	J Phys Fitness Sports Med. 1:19-24
（論文）Combined effects of lactatoripeptide and aerobic on cognitive function and cerebral oxygenation in middle-aged and older adults	共著	2019年2月	Am J Clin Nutr. 1:109 (2):353-360
（論文）Association between duration of excessive weight and arterial stiffness in middle-aged and older adults	共著	2019年5月	Clin Exp Hypertens. 42(3):213-217
（論文）Incremental short maximal exercise increases urinary liver-type fatty acid-binding protein in adults without CKD	共著	2020年4月	Scand J Med Sci Sports. 30(4):709-715
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）若年女性における一過性の伸張性運動が動脈スティフネスに与える影響		2017年9月	第72回日本体力医学会大会
（演題名）Long spending time in sedentary behavior is associated with increased arterial stiffness in Japanese older adults		2018年7月	23rd annual congress of the European college of sport science
（演題名）The relationship between arterial stiffness and increase in blood pressure during exercise in middle-aged overweight and obese men		2019年7月	24th annual congress of the European college of sport science
（演題名）中高齢女性における皮膚特性、動脈スティフネス、および身体活動の関連		2020年9月	第75回日本体力医学会大会
（演題名）若年者における握力発揮特性と動脈スティフネスの関係		2021年9月	第76回日本体力医学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2012年4月～現在	日本体力医学会会員		
2019年9月～11月	第2回やましの健康フェスタ実行委員		
2020年4月～2021年2月	日本体育測定評価学会第20回記念大会実行委員		
2021年4月～現在	日本体育学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	物理学分野
職名	教授	氏名	有本 収
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年度～2021年度	①毎授業冒頭に前回内容の確認小テストを行い、成績評価に反映させている(形成的評価)。②毎授業最後に授業内容の要点を書かせ、成績評価に反映させている。③授業内容のイメージが湧くよう関連の実験映像をほぼ毎回紹介している。④アドバンストな話題や最新トピックスを随時授業に織り込んでいる。⑤補習授業を開講している。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年9月2日	学修取り組み姿勢の重要性―意識・行動と成績との相関―(第2回日本薬学教育学会大会)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2017年1月21日 2017年5月20日 2018年3月3日 2019年3月2日 2021年2月2日	大学コンソーシアム京都 京都FDer塾×大学教育パワーアップセミナー合同企画 参加 初年次教育実践交流会 in北陸 参加 大学コンソーシアム京都 第23回FDフォーラム 参加 大学コンソーシアム京都 第24回FDフォーラム 参加 大学コンソーシアム京都 第26回FDフォーラム 参加
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	なし		発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	なし		学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年10月～2018年3月	京都大学光物性研究室100周年記念誌編集委員会 委員		
2019年11月～現在	光物性物理学史研究会 会長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 基礎科学系 数学分野	職名 教授	氏名 上野嘉夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度～現在	<p><b>【基礎数学A・同B】</b> 1年次配当(前期・後期)微分積分基礎に、薬学に関わる微分方程式の基礎を加えた構成である。構成は着任時(2014)に薬学専門教員から募った意見をベースに適宜改変している。関連科目担当教員に適宜講義情報を提供している。2018年度以降はmanaba、それ以前はmoodleというLMS上に黒板と併用使用するパワーポイント資料や練習問題等のアップロードや、連絡に活用している。指定教科書の内容に沿って講義を構成しているが、数学では学生が「どこ」が講述されているか見失いがちなので、パワーポイントは「今ここ」や「これは追加」を示す目的で使用している。板書は、単に計算や論理展開を詳細に示すのではなく、「接続」の根拠を示し、その使われ方を示すことを目的としている。</p> <p>このような授業スタイルは、学生の授業評価では良い工夫と評価されてきている。この授業方式は意外とオンデマンド(録画配信)授業とも相性が良く「対面もオンライン・オンデマンドも同じ感覚で受講出来るのが良い」という評価を得ている。</p> <p>講義内容に直結している中高数学(数Ⅱ数B)辿って示すことは、数学に自信がない学生、教Ⅲ未習学生の不安感を除去するばかりか、習熟度の高い学生には数学の連続性や発展性への気づきを促すことがわかってきたので、積極的に言及している。</p> <p><b>【薬学統計解析学】</b> 2年次前期配当科目で、初等的な確率・統計から統計的検定までを範囲としている。構成に関する工夫(他教員の意見募集等)や、パワーポイントと板書併用のスタイル、パワーポイントの用途等は上記【基礎数学A・B】と同様である。前年度担当科目と共通のスタイルをとることで、円滑に本科目に進める利点がある。</p> <p>本科目固有の工夫が2点ある。一つ目は日本語記述と数式記述の結合の促しである。大人数講義のためインタラクティブ作りは困難だが、「この日本語わかる？」等の問いを発してから解説に入るなど注意喚起に努めている。教員は板書で、学生はノートで当該記述の図表現を描くこと等で日本語記述と数式記述リンクの一助としている。確率統計論特有のリテラシーにも注意喚起している。二つ目はコンピュータ処理への注意である。コンピュータは入力形式さえ合えば、何でも結果数値を返すことを伝えている。人間が果たす役割が依然として鍵であることを気づかせている。</p> <p><b>【数学補講】</b> 本学入学後の数学に関する高大接続科目で、1年次前期開講である。入学直後の実力確認試験で一定レベル得点に達しなかった学生を対象としている。高校数学の確認は主に約束事(定義)の確認に努め、その後は基礎数学Aの進捗に応じてその先取り(予習)や復習に充てている。実力確認試験と基礎数学A定期試験の散布図から判断する限り学力アップへの寄与が見られる。</p>	

	2020年度～現在	【分子生体モデリングと情報処理実習】 プログラミング基礎と統計処理の部分を担当している。オーソドックスな計算機実習スタイルで、統計論の復習の後、種々の検定法の実習を情報系科目担当教員と共に実施している。ここでも計算機使用で陥りやすい誤りを喚起している。	
2	作成した教科書、教材、参考書	なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし	
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) <i>The averaged Hebbian learning equation, the exponential-type geodesics of the finite discrete distributions, and their quantum statistical analogues</i>	単著	2019年12月 数理解析研究所講究録, No. 2137
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	なし		
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年度	大学コンソーシアム京都 FDフォーラム企画委員		
2018年5月～現在	京都市東部文化会館・地域文化芸術活動活性化協議会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育分野	職名 教授	氏名 野崎亜紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 LMSを利用したレポート執筆、発表指導 語学科目におけるLMSを利用した発音、スピーキング指導 オンデマンド配信およびオンライン授業における反転授業の展開 オンライン授業における共同研究指導	2017年度～現在 2017年度～現在 2020年度～現在 2020年度～現在	初年次教育内少人数演習科目（基礎演習）におけるアプリケーションを用いた指導 学生の習熟度把握とフィードバック 教養科目（社会科学系）講義内発問・学生間意見共有・講義内でのフィードバック 初年次教育内少人数演習科目（基礎演習）におけるアプリケーションを用いた共同作業／議論	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義内資料の作成	2017年度～現在	LMS内指定場所等に格納し、学生に提供	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学習者中心の授業運営のための基礎知識	2017年9月17日	大学コンソーシアム京都：新任教員FD合同研修プログラムA@キャンパスプラザ京都	
4 その他教育活動上特記すべき事項 1年次基礎演習の実施状況についてのアンケート調査	2021年1月19日		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）子どもを持つ権利：生殖とリベラルな社会の接続を考えるために（松元雅和・井上彰編著『人口問題の正義論』所収）	単著	2019年1月	世界思想社
（論文）自由を規制する理由・再考—タブーなき社会をむかえて—	単著	2019年3月	成文堂、法の理論（38巻）
（論文）医事法の基本原理—法哲学の視点から	単著	2019年11月	信山社、医事法研究（1巻）
（論文）専門家とリベラリズム	単著	2020年3月	日本評論社、法律時報（93巻1号）
（論文）関係的プライバシーを問う理由—《個人の尊重》から考える—	単著	2021年1月	成文堂、法の理論（37巻）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）生命医学研究におけるプロフェッショナリズム・ガバナンス・法		2017年11月19日	日本法哲学会
（演題名）A Right to Have Children: Relationship between Reproduction and Liberal Society		2018年7月8日	The 1st IVR-Japan International Conference
（演題名）Relationship between reproduction and liberal society Reasons for Regulating Freedom- Reconsideration- Welcoming a Taboo-less Society		2019年7月9日	IVR World Congress 2019
（演題名）人を対象とする医学系研究に対する倫理審査委員会のあり方		2020年12月6日	日本生命倫理学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2015年11月～現在	日本法哲学会理事
2018年11月～現在	日本医事法学会理事
2020年12月～現在	日本生命倫理学会学会誌編集委員長
2020年12月～現在	日本生命倫理学会副代表理事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育分野	職名 教授	氏名 佐藤 毅
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2017年-現在	大学生は高等学校終了の段階において、専門英語を理解するための文法に関しては、個人差はあるものの修得している。それまでに学んだことをどのように応用するかという点に力を入れてきた。低学年では化学系の専門書において頻出の表現を覚え、実際に使えるようになることを目指し、化学的内容の頻出構文の暗記とそれらを用いた英作文を講義に取り入れている。
		2017年-現在	高学年においては、専門的内容に関してより高度な英語表現が求められる。低学年において修得した表現を筆記、口頭において用いる訓練を行っている。化学反応や生物学的現象の原理を英語で表現する、英語で書かれた論文をまとめ、プレゼンテーションを行うことを通して、表現力の育成を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年-現在	著書等はない。しかし、専門英語教育を行う中、理系論文の読み方を修得させるべく、論文著者がどのように論文を書くのかをまとめた教材を作成した。論文を理解するために、どのように書かれるかを知るといったコンセプトである。頻出表現の他、論文を構成する各コンポーネントが記述される背景等の説明を詳細に行うものである。
		2020年-現在	日本人が英語を用いる上で苦手とする冠詞を学ぶことができる教材の作成を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Lipid-Protein Interplay in Dimerization of Juxtamembrane Domains of Epidermal Growth Factor Receptor</i>	共著	2018年2月	<i>Biophys. J.</i> 114,
(論文) <i>Role of the N-terminal Transmembrane Helix Contacts in the Activation of FGFR3</i>	共著	2020年2月	<i>J. Comput. Chem.</i> 41
(論文) <i>Total Synthesis and Structural Characterization of Caveolin-1</i>	共著	2021年4月	<i>Angew Chem Int Ed Engl</i>



2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) <i>Signaling across the membrane by receptor tyrosine kinase</i>	2017年10月	International Seminar on Biophysics and Chemical Biology of Biomembrane and Lipid Bilayers
(演題名) <i>Function of transmembrane-juxtammbrane region of EGFR</i>	2018年9月	Symposium in the 56th annual meeting of the Biophysical Society of Japan, "Regulation of the signal transduction in cell membrane via localization and clustering of receptors"
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
なし		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育	職名 教授	氏名 實川 眞理子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			リモート授業では教室対面授業の双方向性が失われるため、講義は反転授業として、E-learningシステムを利用して学生に準備学習課題を出し、その学習からうまれた質問に対して教員が答えるという形式で「双方向性」と学生が教員と繋がっているという感覚を提供することに努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			1年次必修 「英語1A」、「英語1B」、1年次人と文化選択科目 「コミュニケーション論」、2年次必修 「英語2A」配信用講義動画
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育分野	職名 准教授	氏名 今井千壽
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2017年度～現在	<p>〈英語 1A/1B〉 基本的な英語4技能の養成を目指す、特に英語発信力の向上に重点を置く授業である。したがって、学生たちには、SGDを通して主体的に課題について考察し、その結果を英語でまとめプレゼンテーション行う機会をしばしば与えた。 授業評価は10点満点で平均8.5程度であった。授業評価の意見を参考に、学生たちがより楽しんで積極的に授業に参加できるよう、ディスカッションやプレゼンテーションの形態やテーマを工夫した。</p> <p>〈英語 2A〉 英語のリスニングとリーディングを通して、世界で発生している様々な事象をタイムリーに捉え、現代社会が抱える問題を理解・考察する機会をもった。授業評価は平均8.1点程度である。最近の学生は時事問題にあまり関心がないため、教科書だけでなく、色々な媒体から集めた資料を併用し、学生の知識を深める努力をした。</p> <p>〈外国文学B〉 イギリス小説を介して、その背景に存在する文化・社会について解説し、学生たちが抱いている一般的な固定観念の打破とイギリス(人)に対する理解の深化を目指した。授業評価は平均8.5点程度である。学生の興味を喚起するため、地理・風土、歴史、食事、美術、犯罪、薬・医学など様々な側面に焦点を当てた。スライドは視覚に訴えるよう作成に工夫を凝らした。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>The Importance of the Five Senses in A Christmas Carol</i>	単著	2017年12月	JAS4QoL Vol. 3(4)
(論文) <i>The Conflict between the Inner World and the Outer World in the Mystery of Edwn Drood</i>	単著	2018年12月	JAS4QoL Vol. 4(4)
(論文) <i>The significance of Brain Fever in Great Expectations</i>	単著	2019年12月	『京薬論集』第24・25合併号
(論文) 養母たちの苦悩と病い— Charles Dickensの作品より	単著	2000年12月	『英米文学手帖』第58号

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年10月	第23回京都薬科大学公開講座講師	
2019年11月	『京薬論集刊行会』第17回文化講演会講師	
...		
...		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育分野	職名 准教授	氏名 坂本尚志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 LMSを利用したライティング指導 外国語科目における対面個別添削による指導 双方向授業実施のためのLMSの活用 オンデマンド配信による反転授業の実施 オンデマンド授業における学びのコミュニティ作り ハイブリッド授業における双方向授業 「アカデミック・スキルゼミ」の立ち上げ	2017年度～現在 2017年度～現在 2018年度～現在 2020年度～現在 2020年度～現在 2021年度～現在 2021年度～現在	哲学系科目のレポート執筆指導（複数回） 学生個々のレベル把握と最適なフィードバック LMSのクリッカー機能による双方向授業の実践 オンラインでの反転授業実施の試み 学習者のオンラインコミュニティ形成の試み オンラインでのグループワーク等の試み 初年次教育におけるアカデミック・スキル教育	
2 作成した教科書、教材、参考書 『バカロレア幸福論』 『京薬生のためのアカデミック・スキル』	2017年度 2019年度～現在	「人間学」にて使用 「基礎演習」等にて使用	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 “Development of a Philosophy Teaching Method Based on the French Baccalaureate Philosophy Examination”  「薬学教育においてどのような哲学・倫理教育が必要か？」  《 Comment enseigner la philosophie ? - l' épreuve de philosophie du baccalauréat comme modèle 》  「「型」を身につける哲学教育—フランス・バカロレア哲学試験をめぐる誤解と実像」	2017年度  2017年度  2019年度  2019年度	Hawaii International Conference on Education 16th Annual Meeting  国立教育政策研究所高等教育政策セミナー（14）次世代哲学教育研究会第3回会合「学位プログラムと哲学教育のカリキュラム」、京都大学  長栄大學應用哲学系專題討論、長栄大學（台南）  日本カリキュラム学会第30回大会、京都大学	
4 その他教育活動上特記すべき事項 「アカデミック・ライティングの基礎 「問題意識」を「問い」に変換する」  「LMS 10の使用方法 成功例、失敗例、そして…」  「アカデミック・ライティングの基礎 「問題意識」を「問い」に変換する」  「「型」を学び、使いこなす—フランスの哲学教育」  「オンライン授業におけるLMSの活用—主体的な学びをどうデザインするか？」	2018年度  2018年度  2019年度  2020年度  2020年度	2018年度大学コンソーシアム京都SDゼミナール 第3回、キャンパスプラザ京都  大学コンソーシアム京都第24回FDフォーラム第6分科会「LMS（学習管理システム）を生かした教育改革」立命館大学衣笠キャンパス  2019年度大学コンソーシアム京都SDゼミナール 第1回、キャンパスプラザ京都  第11回グローバルセンターシンポジウム 大阪教育大学全学FD事業「フランスの論述教育を日本の教育に取り入れるには—論述とテキスト読解—」  清泉女子大学後期FD研修会	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
『バカロレア幸福論 フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン』	単著	2018年2月	星海社
『変動する大学入試—資格か選抜か ヨーロッパと日本』	共著	2020年8月	大修館書店
『フーコー研究』	共著	2021年3月	岩波書店
（論文）「『分析手帖』と『マルクス＝レーニン主義手帖』 1960年代フランスにおける学知、革命、文学」	単著	2019年8月	『フランス語フランス文学研究』115号

(論文)「想像的なものから美的なものへーミシェル・フーコーにおけるフィクション」	単著	2020年9月	『思想』1158号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年4月～現在	大学教育学会学会誌編集委員		
2017年6月～2019年6月	日本フランス語フランス文学会関西支部学会誌編集委員		
2018年6月～2020年6月	日本フランス語フランス文学会関西支部大会実行委員		
2019年4月～現在	日本フランス語フランス文学会学会誌編集委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 基礎科学系一般教育分	職名 講師	氏名 岩崎 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 「学習ポートフォリオの使用」	2007年4月1日 ～現在	授業において定期的に学生による学習記録の記入を行い、振り返りの機会を与えるとともに、学習者が自らの学習方法や学習態度を見直すことで自律した学習者育成を図っている。	
「学生による自己評価・相互評価」の導入	2011年4月～ 2019年3月	教育評価の評価項目のうち、「意欲・関心・態度」を測定するために評価シートを用意し、学生自身に評価を実践させ、その評点を成績に反映させる。	
「アクティブラーニングの実践」	2003年4月～現在	学生による能動的な学習を促進するため、ピア活動、ペア練習、グループワーク、プロジェクト課題等を用いた授業の実践。	
2 作成した教科書、教材、参考書 『NHKラジオ まいにちドイツ語』「もやもや解消！ドイツ語の基礎固め」 『NHKラジオ まいにちドイツ語』「「格」完全マスター！格変化は怖くない！」	2019年4月-2020年3月 2020年4月-2021年3月	NHKラジオ講座用テキスト内で初級ドイツ語学習のための練習問題の連載（12か月） NHKラジオ講座用テキスト内で初級ドイツ語学習のための練習問題の連載（12か月）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
（著書）磯崎康太郎、岩崎大輔編『誕生、始まりのディスクール ―変革と転換の文学的表現―』	共著	2020年〇月	日本独文学会学会研究叢書 142.
（論文）いかにして復活はなされるのか ―ヘルダー『復活について』と再生思想―	単著	2020年〇月	磯崎康太郎、岩崎大輔編『誕生、始まりのディスクール ―変革と転換の文学的表現―』 日本独文学会学会研究叢書 142, 2020, 5-18.
（論文）岩崎大輔、二〇〇〇年代のヘルダー研究 ―ヘルダー像の再検討の時代―	単著	2020年12月	『上智大学ドイツ文学論集』, 2020, (57号, 71-113)
（著書）『授業を活性化するための70のレシピ』	共著	2017年3月	弘学社、担当15、25、67、71、78頁
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			



Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
なし	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	講座名	一般教育分野	職名 講師	氏名 岸野亮示
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2020年4月～	<p>「英語」「文化論」「歴史」：深刻なコロナ禍において、学生の身の安全と学びの機会の確保を両立させるために、動画配信と対面授業の両方を実施。動画においては、様々な視聴覚教材を積極的に取り入れることで、対面授業では充分には出来ない情報提示を実施し、対面授業においては、動画配信では充分に出来ない添削やプレゼンテーションを中心とした演習形式の実施している。</p> <p>「基礎演習」：学生が自ら試行錯誤しながら、主体的にアカデミック・スキル（調査・調査した内容の文章化・報告）を身に付けられるよう、早い段階から、各人がテーマを決めて、その「調査・文章化・報告」を順番に行う取り組みを実施している。また文章に関しては、作成した教科書（『京葉生のためのアカデミック・スキル』）に沿って綿密に添削を行い、特に脚注を適切に用いることができる能力の向上に努めている。</p> <p>「英語」：単に英語の能力を高めることだけでなく、その能力を日常的に用いることの重要性についても認識してもらえよう、身近な英語サイトやそこに添付された動画を教材として積極的に活用し、それらを通じて日本語だけでは得られ難い世界情勢やグローバルスタンダードについての有益な情報が得られることを体感してもらう授業をおこなっている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 『京葉生のためのアカデミックスキル』		2020年4月	「文章表現スキル」を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称	
(著書) 現世の活動と来世の往生	共著	2020年4月	臨川書店	
(論文) The Implications of Bu ston' s (1290-1364) Doubts about the Authenticity of the Vinaya-samgraha.	単著	2020年4月	Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko (77)	
(論文) 律尊者西本龍山：大谷大学と「根本説一切有部律研究」	単著	2019年4月	佛教学セミナー（第109巻）	
(論文) From Gyōnen 凝然 to Hirakawa Akira 平川彰: a Cursory Survey of the History of Japanese Vinaya Studies with a Focus on the Term Koritsu 広律	単著	2018年3月	佛教大学仏教学会紀要（23号）	
(論文) Bu ston' s Doubts about the Authenticity of the Vinaya-samgraha	単著	2017年12月	印度学佛教学研究（第65巻3号）	

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）学如撰『根本薩婆多部律撰』に付せられた密門の序文について	2021年9月	日本印度学仏教学会第72回学術大会（於 大谷大学）
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2008年4月～現在	日本印度学仏教学会会員	
2009年4月～現在	日本佛教学会会員	
2011年6月～現在	International Association of Buddhist Studies 会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 一般教育分野	職名 助教	氏名 朝比奈 裕子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年9月～	専門的な文章を書けるようになることを目標に薬学英語を教えている。一般英語と異なり、1つの解釈にしかならないような文章を書く必要性を意識させながら、よく使われる表現の構文を覚えさせ、まず、英作に必要な知識を身に付けさせている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Conserved Tyrosine Residues Involve in the Orientation of the Transmembrane Region in FGFR3</i>	共著	2020年1月	<i>Peptide Science 2020</i>
(論文) <i>Catalytic site-selective substrate processing within a tubular nanoreactor</i>	共著	2019年12月	<i>Nature Nanotechnology</i>
(論文) <i>Semisynthetic Nanoreactor for Reversible Single-Molecule Covalent Chemistry</i>	共著	2016年9月	<i>ACS Nano</i>
(論文) <i>Chemical Synthesis of O-Glycosylated Human Interleukin-2 by the Reverse Polarity Protection Strategy</i>	共著	2015年7月	<i>Angew. Chem. Int Ed.</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) <i>Conserved tyrosine residues involve in the orientation of the transmembrane region in FGFR3</i>		2019年10月	第56回ペプチド討論会
(演題名) <i>FGFR3の膜貫通部位に存在するチロシン残基と膜貫通部位の配向</i>		2019年9月	第92回日本生化学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
	日本ペプチド学会会員		
	日本蛋白質科学会会員		
	日本生化学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 細井信造
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年	有機化学A、Dにおいて、毎時間最新の有機化学に関する話題を提供し、興味を持たせるよう工夫した。有機化学A (8.6) 有機化学D (8.3)
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月	薬学教育研究ユニット交流フォーラム(東京)にて京都薬科大学薬学教育研究センターの紹介
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年度以降	2017年度のアドバンスト薬学より、全学生に5年次の実務実習で印象に残った症例や処方に基づいて薬学実践問題を作成させている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Novel and practical asymmetric synthesis of $\beta$ 2,3-amino esters using asymmetric Michael addition of chiral amine	共著	2017年4月	Tetrahedron vol. 73 No. 15
(論文) Carotenoid stereochemistry affects antioxidative activity of liposomes Co-encapsulating astaxanthin and tocotrienol	共著	2018年7月	Chemical and Pharmaceutical Bulletins vol. 66 No. 7
(論文) Exploration of moderate conditions and substrate variation in the direct condensation between phthalide and primary amine catalyzed by GaCl <sub>3</sub> Are aliphatic amines less reactive than aromatic ones?	共著	2019年5月	Heterocycles vol. 99 No. 1
(論文) Application of a novel chromophoric reagent, 2,2'-binaphthyl-3,3'-dicarbonyl cyanide, to the absolute configuration determination of chiral secondary alcohols	共著	2020年6月	Tetrahedron Letters vol. 61 No. 24
(論文) 6年制薬学部学生の模擬試験結果と薬剤師国家試験合否との関係:より効果的な学修支援を目指して	共著	2021年	京都薬科大学紀要第2巻1号 (in press)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合否との相関:より効果的な国家試験対策を目指して		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名) 6年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見えてきたこと—事前学修の重要性について—		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名) 学修取り組み姿勢と薬剤師国家試験合否との相関について:—初年次までに勝負は決まる?—		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名) 学修取り組み姿勢の重要性:—意識・行動と成績との相関—		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名) 学生による「薬学実践問題」作成の学修効果の検証:—長期実務実習の振り返りの重要性—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
(演題名) 学生が作成した「薬学実践問題」の分析結果から見えてきたこと		2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年4月～現在	日本薬学教育学会会員
2019年8月, 12月	近畿大学薬学部 薬学共用試験 CBTモニター員
2020年4月	Chemical and Pharmaceutical Bulletins 論文審査員
2020年9月, 12月	大阪薬科大学 薬学共用試験 CBTモニター員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬学教育研究センター	職名 講師	氏名 開 章宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年4月10日 2019年4月17日 2019年4月24日	・板書を主とした講義への変更 ・マイク音量の調整と確認 ・学生への質問の投げかけ 学生のノート記入に時間的な余裕を持たせるため、切り替えの早いスライド中心の講義から板書中心の講義へ変更した。聞き取りやすいマイク音量であるかを冒頭で全員に確認した。質問を投げかけ、各自で考える時間や隣同士で考える時間を設けた。以上の試みにより、授業評価が前年度の7.7から8.4に改善した。	
	2020年4月5日 2020年4月12日 2020年4月19日	・当日の講義内容の説明 ・課題提示とその解説 ・オンデマンド配信による復習機会の提供 講義冒頭で、当日の講義内容を板書で提示した。学修した重要内容を確認させるため講義最後に課題問題(数題)を提示し各自取り組ませ、翌週の講義冒頭で解説した。(コロナ禍のため)講義のオンデマンド配信により、学生が複数回復習出来る機会を与えた。以上の試みにより、授業評価が前年度の8.4から8.5に改善した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)京薬生のためのアカデミック・スキル	共著	2020年4月	北斗プリント社
(著書)京薬生のためのアカデミック・スキル(2021年度版)	共著	2021年4月	北斗プリント社
(論文)6年制薬学部学生の模擬試験結果と薬剤師国家試験合否との関係:より効果的な学修支援を目指して	共著	2021年	京都薬科大学紀要第2巻1号 (in press)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合否との相関:より効果的な国家試験対策を目指して		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)6年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見えてきたこと—事前学修の重要性について—		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)学修取り組み姿勢と薬剤師国家試験合否との相関について:—初年次までに勝負は決まる?—		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)学修取り組み姿勢の重要性:—意識・行動と成績との相関—		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名)学生による「薬学実践問題」作成の学修効果の検証:—長期実務実習の振り返りの重要性—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会



(演題名) 学生が作成した「薬学実践問題」の分析結果から見えてきたこと	2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2016年5月～現在	日本薬学会会員	
2016年8月～現在	日本薬学教育学会会員	
2020年10月～2021年3月	日本薬学教育学会論文査読	
2021年4月～現在	日本薬学教育学会論文査読	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬学教育研究センター	職名 助教	氏名 吉村 典久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2019年11月	・質問が多い範囲について動画配信 6年次生を対象に、例年、質問が多い範囲について動画配信を行った。繰り返し視聴できるメリットもあり、また、「質問することは心理的ハードルが高い」と感じる学生も気軽に視聴することができたと考えられる。計7本の動画をアップロードしたところ、総再生回数は2700回を超えた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年 8月～11月	・21世紀型能力の習得を目指すファシリテーター育成事業 ～学生のやる気を引き出す！教員のためのファシリテーションスキルUPコース～ 企画・運営  2018年度 学長裁量経費教育改革推進事業のひとつとして、外部講師を招き、体験を交えた4回コースの実践型ファシリテーション研修を学内の教育職員、事務職員を対象に実施した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(論文)6年制薬学部学生の模擬試験結果と薬剤師国家試験合格との関係:より効果的な学修支援を目指して	共著	2021年	京都薬科大学紀要第2巻1号 (in press)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合格との相関:より効果的な国家試験対策を目指して		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)6年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見えてきたこと 一事前学修の重要性について		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)学修取り組み姿勢と薬剤師国家試験合格との相関について:一初年次までに勝負は決まる?一		2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会
(演題名)学修取り組み姿勢の重要性:一意識・行動と成績との相関一		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名)学生による「薬学実践問題」作成の学修効果の検証:一長期実務実習の振り返りの重要性一		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
(演題名)学生が作成した「薬学実践問題」の分析結果から見えてきたこと		2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2016年5月～現在	日本薬学会会員
2016年8月～現在	日本薬学教育学会会員
2017年4月～2018年3月	平成29年度地域健康創生人材育成事業（滋賀県）

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 矢野義孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		~2021年度 ~2021年度	臨床統計開発論 (14コマ) 医薬品評価科学特論 (大学院、8コマ) * データ解析という実践的な内容のため EXCEL等のPC操作内容も講義に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書			「薬学数理統計 (京都廣川書店)」 他、担当講義における補足資料・スライド作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2020~2021年度 ~2021年度	教務部委員として、教務部主催FD進行役 OSCE委員会副委員長 (学内)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(論文) Symptom clusters and their influence on prognosis using EORTC QLQ-C15-PAL scores in terminally ill patients with cancer	共著	2021年度	Paiiative Care in Cancer, 2021, Accepted
(論文) The role of EORTC QLQ-C15-PAL scores and inflammatory biomarkers in predicting survival in terminally ill patients with cancer	共著	2021年度	BMC Cancer, 21(1), 304 (2021)
(論文) Cost-effectiveness analysis of Atezolizumab plus Nab-Paclitaxel for advanced PD-L1 positive triple-negative breast cancer in japan	共著	2021年度	Clin. Drug Investig., 41(4), 381-389 (2021)
(論文) Factors associated with efficacy and nivolumab-related interstitial pneumonia in non-small cell lung cancer: A retrospective survey.	共著	2020年度	Cancer Control., 27(4): (2020)
(論文) Time-series modeling and simulation for comparative cost-effective analysis in cancer chemotherapy; an application to platinum-based regimens for advanced non-small cell lung cancer.	共著	2017年度	Biol. Pharm. Bull. 40(1): 73-81 (2017).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(共同演者としてのみ発表あり、自身の発表なし)			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
~2021年度	Pharmacometrics研究会、副会長、事務局長		
2018年9月、2019年11月	ゆう薬局グループ 薬剤師研修会講演		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 教授	氏名 橋詰 勉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
1年次科目基礎演習		2017～2018年度	グループワークの取り組み方が身に付くようにアドバイスをを行っている。
1年次科目早期体験学習		2017年度～現在	
4年次科目医薬品情報学		2017年度～現在	講義時間中に演習をとりいれている。 授業評価 8.1点/10点 (2020年度)
4年次科目実務事前実習		2017年度～現在	患者対応について学生との双方向の議論を行う。
5年次科目実務実習 (病院・薬局実習)		2017年度～現在	実務実習の直前講義で少人数教育を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年度～現在	臨床情報学では、補足資料を適宜作成・配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う新規OSCE課題のトライアル		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会 (名古屋)
近畿地区での薬・薬・薬 (三薬) 連携		2017年11月	第27回日本医療薬学会シンポジウム (千葉)
臨床準備教育における概略評価表の開発		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会 (東京)
薬学教育：新規課題とOSCE		2020年10月	第30回日本医療薬学会シンポジウム (名古屋)
4 その他教育活動上特記すべき事項			
日本薬学会第7回全国学生ワークショップ (府中)		2017年8月11-12日	タスクフォース
第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ		2017年8月26-27日	(in 近畿) ディレクター
薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会 (福山)		2018年7月22日	(薬学共用試験センター主催) タスクフォース
日本薬学会第8回全国学生ワークショップ (府中)		2018年8月6-7日	タスクフォース
薬学共用試験OSCE模擬医師養成伝達講習会 (東京)		2019年7月28日	(薬学共用試験センター主催) タスクフォース
第98回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ		2019年8月31-9月1日	(in 近畿) 事務局
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 厚生労働省から提供される情報. 医薬品情報学	共著	2017年5月	廣川書店
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2019年度薬学共用試験OSCEの結果解析報告と2020年度OSCE結果の速報		2021年3月	日本薬学会第141年会
2020年度第12回薬学共用試験OSCEの結果解析		2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2018年3月	薬学教育協議会・中央調整機構委員会委員、近畿地区調整機構委員長		
2017年4月～2019年5月	薬学共用試験センター理事、運営委員会委員、OSCE実施委員会委員長		
2017年4月～2020年3月	文部科学省 大学設置・学校法人審議会専門委員 (大学設置分科会)		
2017年4月～2022年3月	滋賀県薬剤師会 薬学教育委員会委員		
2019年6月～現在	薬学共用試験センター運営委員会委員、OSCE実施委員会副委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## 教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
京都薬科大学	臨床薬学教育研究センター	教授	楠本正明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年度	<p>科目：医療薬学A（4年次）            薬剤師業務の基本から薬剤管理指導業務及びチーム医療について講義をしている。担当内容は、医療と薬剤師、医薬品の有効性と安全性</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.8（10段階評価）</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次）            5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、我が国の医療の現状、地域医療の問題</p> <p style="text-align: center;">授業評価：8.5（10段階評価）</p>	
	2018年度	<p>科目：医療薬学B（4年次）            5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、高血圧、心不全。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.8（10段階評価）</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次）            5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、我が国の医療の現状、地域医療の問題</p> <p style="text-align: center;">授業評価：8.3（10段階評価）</p>	
	2019年度	<p>科目：医療薬学B（4年次）            5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、高血圧、心不全。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.8（10段階評価）</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次）            5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、我が国の医療の現状、地域医療の問題</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.9（10段階評価）</p>	
	2020年度	<p>科目：医療薬学B（4年次）            5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、高血圧、心不全。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.5（10段階評価）</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次）            5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、我が国の医療の現状、地域医療の問題</p> <p style="text-align: center;">授業評価：7.9（10段階評価）</p>	



	2021年度	<p>科目：医療薬学A（4年次） 5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は病院薬剤師や薬局薬剤師の役割と課題について</p> <p>授業評価：講義中のため未確定</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次） 5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、我が国の医療の現状、地域医療の問題</p> <p>授業評価：講義中のため未確定</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	<p>2017年度</p> <p>2018年度</p> <p>2019年度</p> <p>2020年度</p> <p>2021年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担執筆：症例から考える代表的な8疾患（じほう）</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学B」の教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・分担執筆：症例から考える代表的な8疾患 第2版（じほう）</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学B」の教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学A」の教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> </ul>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	<p>2017年度</p> <p>2018年度</p> <p>2019年度</p> <p>2020年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回日本薬学教育学会大会（ポスター発表） 演題名： 京都薬科大学近隣地域の医療施設と連携した在宅チーム医療教育体制の基盤構築</li> <li>・第3回薬剤師のためのスキルアップセミナー（京都府薬剤師会） 演題名：指導薬剤師への期待と臨床研究のススメ</li> <li>・第12回日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 演題名： バイオシミラー使用促進に向けて</li> <li>・第32回舞鶴薬剤師会学術講演会 演題名： 今さら聞けない後発医薬品</li> <li>・大津市医師会講演会 演題名： バイオシミラー使用促進に向けて</li> <li>・第5回日本薬学教育学会大会（ポスター発表） 演題名： 患者の病態アセスメントから薬学的介入につなげるための「フィジカルアセスメントセミナー&lt;アドバンストコース&gt;」の取り組みと教育効果</li> </ul>
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度文部科学省受託事業 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究「薬学実務実習の諸課題についての調査・研究」地域活性・課題解決アドバンストプログラム構築のためのワークショップ（秋田県）（タスクフォースとして参加）</li> </ul>

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）症例から考える代表的な8疾患 第2版	共著	2019年9月	じほう社
（著書）薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2020	共著	2020年2月	じほう社
（論文）日本アンチ・ドーピング機構のドーピング防止規律パネル決定報告を基にした日本のドーピングの現状及び今後の薬剤師によるアンチ・ドーピング活動に対する考察	共著	2017年7月	YAKUGAKU ZASSHI（第137巻第7号）
（論文）在宅医療における薬剤師の役割に対するケアマネジャーの意識調査－テキストマイニングによる客観的解析－	共著	2018年9月	日本プライマリ・ケア連合学会誌（第41巻第3号）
（論文）災害に備えた一般のおよび疾患別支援ツールに対する被災地および非被災地の医療従事者間の比較調査－2011年東日本大震災の場合－	共著	2019年2月	日本臨床救急医学会雑誌（第22巻第1号）
（論文）多職種連携を意識した「フィジカルアセスメント講座<入門コース>」の取り組みと受講者の変容	共著	2021年2月	薬学教育（第5巻）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）薬局薬剤師による在宅医療活動の現状と今後の課題		2017年9月	第27回日本医療薬学会年会
（演題名）薬局における検体測定室設置を妨げる要因への対応策に関する調査		2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
（演題名）経度認知症高齢者の自立的な在宅生活を維持する住環境デザインの構築		2019年11月	第9回4大学連携フォーラム
（演題名）スポーツファーマシストの取得の有無や勤務先の違いから検討した薬剤師のアンチ・ドーピング活動に対する実態調査		2020年10月	第53回日本薬剤師会学術大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～2018年9月	京都府立医科大学 在宅チーム医療推進講座 特任教授		
2016年4月～2019年3月	厚生労働省 ジェネリック医薬品品質情報検討会 委員		
2016年～現在	日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 理事		
2016年～現在	日本アプライド・セラピューティクス学会 理事		
2016年～現在	日本TDM学会 評議員		
2019年6月～現在	一般社団法人 京都府薬剤師会 副会長		
2020年4月～現在	京都市及び(公財)大学コンソーシアム「学まち連携大学」促進事業 京都山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム「区民に身近な大学へ」プロジェクト 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 准教授	氏名 津島美幸 (通称: 津島己幸)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2008～2019年度  2006年度～ 現在に至る  2007年度～ 現在に至る  2009年度～ 現在に至る  2010年度～ 現在に至る  2007年度～ 現在に至る  2010年度～ 現在に至る	1年次科目：基礎演習  1年次科目：早期体験学習  4年次科目：臨床情報学  4年次科目：実務実習事前学習  5年次科目：実務実習（病院・薬局実習）  臨床情報学では医療現場の話題、最近のトピックなどを取り上げたり、演習を取り入れている。  実務実習の直前講義では少人数で教育している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2007年度～  2009年度～  2010年度～	臨床情報学：講義資料を作成・配付  実務実習事前実習：担当項目の教材作成  病院・薬局実務実習直前講義の資料作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年9月  2018年5月	カロテノイド研究会若手の会（京都）  第23回 ifia JAPAN 2018 カロテノイドフォーラム（東京）	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2018年8月  2018年8月	平成30年度 文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ（タスクフォース）  第92回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿（滋賀）（タスクフォース）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
(総説) カロテノイドの吸収と代謝 (1)	単著	2017年5月	FOOD STYLE 21, Vol. 21 No. 4
(総説) カロテノイドの吸収と代謝 (2)	単著	2017年6月	FOOD STYLE 21, Vol. 21 No. 5
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
熱中症救急搬送データベースに基づいた高齢者での熱中症予防のための暑さ指数（WGBT）の検討		2021年12月	日本気象学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年～現在に至る	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会委員		
2010年～現在に至る	京都府薬剤師会実務実習受入委員会委員		
2014年～現在に至る	京都府薬剤師会情報出版委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## 教育および研究活動の業績一覧

大学名	講座名	職名	氏名
京都薬科大学	臨床薬学教育研究センター	講師	今西孝至
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2017年度	科目：医療薬学B（4年次） 5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、救急医療、心房細動・脳血管障害。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。 授業評価：8.7（10段階評価） 科目：地域医療連携概論（6年次） 5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、多職種連携(IPE/IPW)、災害医療。 授業評価：8.6（10段階評価）	
	2018年度	科目：医療薬学B（4年次） 5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、救急医療、心房細動・脳血管障害。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。 授業評価：8.3（10段階評価） 科目：地域医療連携概論（6年次） 5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、多職種連携(IPE/IPW)、災害医療。 授業評価：8.7（10段階評価）	
	2019年度	科目：医療薬学B（4年次） 5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、セルフ Medikation・OTC薬、救急医療、心房細動・脳血管障害。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。 授業評価：8.4（10段階評価） 科目：地域医療連携概論（6年次） 5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、多職種連携(IPE/IPW)、災害医療。 授業評価：8.5（10段階評価）	
	2020年度	科目：医療薬学B（4年次） 5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、心房細動、脳血管障害、救急医療。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。 授業評価：8.2（10段階評価） 科目：地域医療連携概論（6年次） 5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、多職種連携(IPE/IPW)、災害医療。 授業評価：8.2（10段階評価）	

	2021年度	<p>科目：医療薬学B（4年次）</p> <p>5年次の実務実習に備えた医療現場での薬剤師の役割について疾患シナリオを用いて講義をしている。担当内容は、心房細動・脳血管障害、救急医療、認知症。他の担当教員と共にSGDを取り入れるなどの工夫をしている。</p> <p>授業評価：現時未実施のため未確定</p> <p>科目：地域医療連携概論（6年次）</p> <p>5年次の実務実習後のアドバンス的な科目で、地域医療の現状とそれに伴う薬剤師の役割について講義をしている。担当内容は、多職種連携(IPE/IPW)、災害医療。</p> <p>授業評価：現在講義中のため未確定</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	<p>2017年度</p> <p>2018年度</p> <p>2019年度</p> <p>2020年度</p> <p>2021年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担執筆：症例から考える代表的な8疾患（じほう）</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学B」で使用している教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・分担執筆：症例から考える代表的な8疾患 第2版（じほう）</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学B」で使用している教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> <li>・4年次科目「医療薬学B」で使用している教科書に記載されていない部分の追加教材作成・改編</li> <li>・6年次科目「地域医療連携概論」の教材作成・改編</li> </ul>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	<p>2017年度</p> <p>2019年度</p> <p>2020年度</p> <p>2021年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回日本薬学教育学会大会</li> <li>演題名： 京都薬科大学近隣地域の医療施設と連携した在宅チーム医療教育体制の基盤構築</li> <li>・第4回日本薬学教育学会大会</li> <li>演題名： 多職種連携を想定した「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」の取り組みとその教育効果の検証</li> <li>・日本薬学会第140年会</li> <li>演題名： 在宅医療における大学院がん専門薬剤師育成プログラム（在宅チーム医療研修）の構築</li> <li>・第5回日本薬学教育学会大会</li> <li>演題名： 患者の病態アセスメントから薬学的介入につなげるための「フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉」の取り組みと教育効果</li> <li>・第6回日本薬学教育学会大会</li> <li>演題名： 大学における臨床薬学教育－“ヒトを診る力”を兼ね備えた薬剤師教育について－</li> <li>・第6回日本薬学教育学会大会</li> <li>演題名： 文部科学省委託事業「薬学実務実習の諸課題についての調査・研究」の活動内容と得られた知見</li> </ul>
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	<p>2017年度</p> <p>2018年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）</li> <li>・大阪府立岸和田高等学校 出張講義「ドーピングとは？スポーツと薬剤師って関係があるの？（大学での薬学教育についても含む）」</li> <li>・2017年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（企画・運営・ファシリテーターとして参加）</li> <li>・第93回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）</li> <li>・2018年度京都薬科大学・京都橘大学合同多職種連携IPE研修会（企画・運営・ファシリテーターとして参加）</li> </ul>

	2019年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第98回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）</li> <li>・2019年度京都薬科大学・京都橋大学合同多職種連携IPE研修会（企画・運営・ファシリテーターとして参加）</li> <li>・2019年度文部科学省受託事業 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究「薬学実務実習の諸課題についての調査・研究」地域活性・課題解決アドバンスプログラム構築のためのワークショップ（沖縄県）（タスクフォースとして参加）</li> </ul>
	2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度京都薬科大学・京都橋大学合同多職種連携IPE研修会（企画・運営・ファシリテーターとして参加）</li> <li>・2020年度文部科学省受託事業 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究「薬学実務実習の諸課題についての調査・研究」地域活性・課題解決アドバンスプログラム構築のためのワークショップ（秋田県）（タスクフォースとして参加）</li> </ul>

## II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）症例から考える代表的な8疾患 第2版	共著	2019年9月	じほう社
（論文）日本アンチ・ドーピング機構のドーピング防止規律パネル決定報告を基にした日本のドーピングの現状及び今後の薬剤師によるアンチ・ドーピング活動に対する考察	共著	2017年7月	YAKUGAKU ZASSHI（第137巻第7号）
（論文）在宅医療における薬剤師の役割に対するケアマネジャーの意識調査－テキストマイニングによる客観的解析－	共著	2018年9月	日本プライマリ・ケア連合学会誌（第41巻第3号）
（論文）災害に備えた一般のおよび疾患別支援ツールに対する被災地および非被災地の医療従事者間の比較調査－2011年東日本大震災の場合－	共著	2019年2月	日本臨床救急医学会雑誌（第22巻第1号）
（論文）多職種連携を意識した「フィジカルアセスメント講座<入門コース>」の取り組みと受講者の変容	共著	2021年2月	薬学教育（第5巻）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）薬局薬剤師による在宅医療活動の現状と今後の課題		2017年9月	第27回日本医療薬学会年会
（演題名）薬局における検体測定室設置を妨げる要因への対応策に関する調査		2018年9月	第51回日本薬剤師会学術大会
（演題名）在宅医療における薬剤師の役割に関する訪問看護師およびケアマネジャーの意識調査		2019年5月	第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
（演題名）スポーツファーマシストの取得の有無や勤務先の違いから検討した薬剤師のアンチ・ドーピング活動に対する実態調査		2020年10月	第53回日本薬剤師会学術大会
（演題名）デザインに拠る薬効を示すピクトグラムの作成とその視認性の評価		2021年11月	第15回日本薬局学会学術総会

## III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）

2016年4月～現在	山科薬剤師会 運営委員会 委員
2019年6月～現在	一般社団法人 京都府薬剤師会 理事
2020年4月～現在	京都市及び(公財)大学コンソーシアム「学まち連携大学」促進事業 京都山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム「区民に身近な大学へ」プロジェクト 委員
2020年4月～現在	京都橋大学大学院 看護学研究科 博士前期課程 専門看護師コース 特別兼任講師
2020年7月～現在	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 京都府支部 幹事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 講師	氏名 中村暢彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016年～2021年	講義：医療薬学A、医療薬学B、がん化学療法学 臨床腫瘍学概論、緩和医療概論 実習：実務実習事前学習（注射）
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年～2021年	医療薬学に関する教材の作成 がん薬物療法に関する教材の作成 実務実習事前学習に関する教材の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2016年2月	文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤 推進プラン市民公開講座
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2016年～2021年 2019年～2020年 2018年	1年次生早期体験学習（病院・薬局見学）企画・運営 生涯研修プログラム 実務支援セミナー企画・運営 一般社団法人京都府薬剤師会 薬剤業務委員会委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
(論文) Effectiveness of protocol-based pharmacotherapy management collaboration between hospital and community pharmacists to address capecitabine-related hand-foot syndrome in cancer patients: a retrospective study	共著	2021年3月	J. Pharm. Health. Care. Sci., 7(1):8, (2021)
(論文) ニボルマブ製剤における残液廃棄を考慮した注射バイアル規格と薬剤費の検討	共著	2018年1月	日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 7, 1-7 (2018)
(論文) ベバシズマブ製剤の使用量請求がもたらす経済性の検討	共著	2018年10月	日本病院薬剤師会雑誌, 54(10), 1251-1257 (2018)
(論文) 抗がん薬における注射バイアル規格の妥当性評価手法の検討	共著	2017年11月	日本病院薬剤師会雑誌, 53(11), 1389-1395 (2017)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) カペシタビンの手足症候群に対する病院薬剤師と薬局薬剤師の連携によるPBPMの有用性：多施設後ろ向き研究		2020年9月	第30回日本医療薬学会年会. 名古屋市
(演題名) インフリキシマブ製剤の人口動態統計に基づく追加バイアル規格の検討と医療経済評価		2019年7月	日本ジェネリック医薬品・バイオシ ラー学会 第13回学術大会 in 長崎
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年4月～2021年3月	一般社団法人日本医療薬学会 代議員		
2016年4月～現在	一般社団法人日本病院薬剤師会論文審査員		
2016年4月～現在	一般社団法人日本医療薬学会論文審査員		
2020年3月	一般社団法人日本医療薬学会 専門薬剤師認定試験 問題作成委員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名: 講師	氏名: 松村 千佳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2016年度	「医療の担い手としてのこころ構えB (2年次前期)」: 講義内容に関する医療にかかわる様々な問題から解決を見出すことを目的にオリジナルシナリオを作成しSGD形式で実施した。	
	2017年度	「医療薬学B (4年次後期)」: 代表的な疾患の症例を通して問題発見・解決方法について学ぶことを目的にシナリオを作成し講義を行った。(授業評価 8.1点/10点、学内平均 8.2点)	
	2018年度	「緩和医療概論 (6年次前期)」: 緩和医療に必要な薬剤に関する知識、患者やその家族とのコミュニケーションに関する専門的な知識を修得するために臨床における必要な情報を取り入れた。(授業評価 8.3点/10点、学内平均 8.2点)	
	2019年度	「薬学総合演習 (4年次後期)」: 薬学的視点から気管支喘息と脳血管障害の2疾患について、オリジナルシナリオを作成し、予習課題を事前に提示し、SGD形式で実施した。	
	2020年度	「医療薬学B (4年次後期)」: 薬物療法における用法・用量、治療計画および副作用への対応について理解を深めるためにオリジナルシナリオを作成しSGD形式で実施した。 「先端臨床薬学概論 (6年次前期)」: 薬剤師として臨床研究を行うためのテーマ設定について具体的事例を通じて講義した。(授業評価 9点/10点)	
	2020年度	「実務事前実習 (4年次前期)」: 処方箋受け取り(内容確認)から処方の確認、調剤、患者対応(服薬指導)といった薬剤師業務の一連の流れを理解できることを目的にオリジナルシナリオを作成しSGD形式で実施した。 「緩和医療概論 (6年次前期)」: オンデマンド配信であったが、項目ごとに確認問題を入れることで理解しながら視聴できるように工夫した。(授業評価 8.38点/10点)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2016年度～ 2016年度～ 2016年度～ 2017年度～ 2018年度 2019年度～ 2019年度～ 2020年度～ 現在に至る	「医療の担い手としてのこころ構えB」の教材作成 「緩和医療概論」の教材作成 実務実習事前実習の担当項目(医療コミュニケーション・疑義照会)の教材作成 「医療薬学B」の教材作成 「薬学総合演習」の教材作成 「医療薬学A」の教材作成 「先端臨床薬学概論」の教材作成 「実務事前実習(4年次前期)」の教材作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度 2017年度～ 2018年度	鏡山学区の健康すこやか教室にて、一般の方を対象に「くすりの正しい飲み方・使い方」について講演をした。 リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都で、一般の方を対象に講演をした。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(著書)スタンダード薬学シリーズⅡ9 薬学演習Ⅰ医療薬学・臨床薬学 第9章チーム医療	共著	2020年10月	東京化学同人
(著書)スタンダード薬学シリーズⅡ7 臨床薬学Ⅲチーム医療および地域の保険・医療・福祉への参画 §4・3緩和ケアチーム	共著	2018年6月	東京化学同人
(論文) The role of EORTC QLQ-C15-PAL scores and inflammatory biomarkers in predicting survival in terminally ill patients with cancer.	共著	2021年3月	BMC Cancer (open access)
(論文) Comparison of patient self-reported quality of life and healthcare professional-assessed symptoms in terminally ill patients with cancer.	共著	2021年3月	American Journal of Hospice and Palliative Medicine. vol.38 No.3
(論文) Relationship between pain scores and EORTC QLQ-C15-PAL scores in outpatients with cancer pain receiving opioid therapy.	共著	2021年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin.vol.44 No.3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 緩和ケア病棟に入院したがん患者の症状評価における患者自己報告(EORTC QLQ-C15-PAL)と医療者評価(STAS-J)の関係性の検討.		2020年8月	緩和・支持・心のケア 合同学術大会2020
(演題名) 終末期がん患者における苦痛症状と血液検査値の関連性評価および予後予測因子としての有用性に関する検討.		2020年11月	第30回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年6月～2020年3月	一般社団法人 日本医療薬学会 専門薬剤師育成委員会(大学教員ワーキンググループ) 委員		
2018年6月～現在	神戸大学臨床研究審査委員会の委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名 助教	氏名 地寄悠吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2017年-2021年    2020年-2021年	臨床統計開発論 (学生が理解しやすいよう資料に手書きメモを記載するなど工夫した。授業評価: 2017までは実技補助のため授業評価なし。2020年7.65)  実務実習事前学習 (薬剤の作用機序や化学的特徴を理解しながら実習に取り組めるよう工夫した。授業評価:実習科目なのでなし。)  医薬品評価学特論 (学生が理解しやすいよう実際の研究内容を用いて解析に関して説明するなど工夫した。 臨床情報学 (学生が理解しやすいよう、実際にPCで演習できるよう工夫した。授業評価:2020年7.42)
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年-2021年 2017年-2021年 2020年-2021年 2020年-2021年	実務実習事前学習 (教材) 医薬品評価学特論 (教材) 臨床統計開発論 (教材) 臨床情報学 (教材)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)			大学開催のFDに参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Cost-effectiveness analysis of Atezolizumab plus Nab-Paclitaxel for advanced PD-L1 positive triple-negative breast cancer in japan	共著	2021年3月	Clin. Drug Investig. 2021, 41(4), 381-389.
Prediction of apparent oral clearance of small-molecule inhibitors in pediatric patients	共著	2018年3月	J. Pharm. Sci. 2018, 107(3), 949-956.
医薬品副作用データベースにおける情報抽出と解析の自動化を目的としたアプリケーションの開発	共著	2018年11月	日本病院薬剤師会. 2018, 54(11), 1384-1390.
Time-series modeling and simulation for comparative cost-effective analysis in cancer chemotherapy: an application to platinum-based regimens for advanced non-small cell lung cancer	共著	2017年1月	Biol. Pharm. Bull. 2017, 40(1), 73-81.
Analysis of Adverse Drug Reaction Risk in Elderly Patients Using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) Database	共著	2017年6月	Biol. Pharm. Bull. 2017, 40(6), 824-829.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
インフルエンザの流行と気象情報の関係性に関する検討		2020年3月	日本薬学会第140年会
シミュレーションによる抗がん剤投与後の好中球数予測モデル構築とベイズ推定による予測性の評価		2019年5月	第36回TDM学会・学術大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
	日本TDM学会
	日本計量生物学会
	日本癌治療学会
	日本薬学会

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 情報処理教育研究センター	職名 教授	氏名 藤原 洋一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
学習管理システム (Moodle)による授業課題の管理		2017年4月～ 2019年8月	1年次生対象「情報科学」
学習管理システム (Moodle)による実習ビデオの管理		2018年4月～ 2020年4月	学生実習
学習管理システム (manaba)による授業課題の管理		2019年4月～ 現在	1年次生対象「情報科学」
Webページによる授業内容の開示		2017年4月～ 現在	1年次生対象「情報科学」
2 作成した教科書、教材、参考書			
「ネットワークの基礎」の理解のためのFlash動画		2017年4月～ 2019年10月	1年次生対象「情報科学」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 「マネキンを使用した心肺蘇生法およびAEDの 使用方法についてのビデオ教材の作成」		2017年4月～現在	早期体験学習「救命応急手当」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
(論文) 京都薬科大学紀要; 「学生実習に取り入れたピア 評価による実技検定の実践と学生の意識変化」	共著	2020年10月	京都薬科大学紀要 (1・2)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
「実験実習におけるLMS「Moodle」の活用—事前学習や振り返りを 促進するための仕組みづくり—」		2018年3月	大学コンソーシアム京都 FDフォーラム
「ICTを活用した実験実習における学習支援の取り組み」		2019年3月	大学コンソーシアム京都 FDフォーラム
「ICTを活用した学習支援の取り組み— 初年次・薬学基礎実験実習教育の実践—」		2020年4月	大学コンソーシアム京都 FDフォーラム
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2021年3月	日本薬学会 会員		
2017年4月～2021年4月	日本薬学教育学会 会員		
2017年4月～2021年3月	日本医療情報学会 会員		
2018年3月	明治150周年京都創成フェスティバル 体験教室 (小中高生向け)		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。



(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 情報処理教育 研究センター	職名 講師	氏名 石川誠司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
学習管理システム (manaba)による授業課題の管理		2019年4月～ 現在	1年次生対象「情報科学」
Webページによる授業内容の開示		2017年4月～ 現在	1年次生対象「情報科学」
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数)等の名称
なし			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2021年3月	日本薬学会 会員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
  - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
  - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
  - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
  - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧						
大学名	講座名	学生実習支援センター	職名	准教授	氏名	木村 徹
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年	月	日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 実技実習科目の内容改良		~2021		実技実習科目に学生が興味を持つような教材作成 学生が理解しやすい実習内容、操作法に改変		
2 作成した教科書、教材、参考書				なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)						
II 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	なし	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	なし		発表年・月	学会名		
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)						
なし						

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助教	氏名 金瀬薫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	20年度～現在  2020年11月～12月  2021年6月	2020年度は、新型コロナウイルス感染症により学生実習では、学生へのフェイスシールドの配布や消毒用アルコール綿の設置や消毒などを行い感染防止対策を行った。また、学生へのアンケートを行い、結果をもとに実習の改善を行っている。  基礎科学実習において、新たに書画カメラを用いることにより、操作説明の際に学生が教員の近くに来なくても手元がみられるように工夫を行った。  物理化学実習において、実験器具の見直しを行い、失敗を減らし試薬のロスが少ない方法への変更を行う予定である。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	20年度～現在 2020年12月 2021年2月 2021年8月	長期実務実習正担当 薬学共用試験OSCE スタッフ 第26回FDフォーラムへの参加 山科理科実験講座 スタッフ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) <i>Catalytic asymmetric S-oxidation of N-benzoyl-1,5-benzothiazepines</i>	共著	2017年7月	<i>Tetrahedron Letters Vol 58</i>
(論文) <i>Elucidation of the E-amide preference of N-acyl azoles</i>	共著	2017年10月	<i>The Journal of Organic Chemistry Vol 82</i>
(論文) <i>4-Substituted carbamazepine derivatives: Conformational analysis and sodium channel-blocking properties Pirenzepine/Telenzepine Analogues</i>	共著	2018年5月	<i>Bioorganic &amp; Medicinal Chemistry Vol 26</i>
(論文) <i>Conformational Properties and M1 Antimuscarinic Activity of 4-Substituted</i>	共著	2019年8月	<i>Heterocycles Vol 101 No. 1</i>
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年度～現在	日本薬学会会員		
2016年度～現在	日本医療薬学会会員		
2016年度～現在	有機合成化学協会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助教	氏名 河野享子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2017年4月～2019年3月  2019年4月～現在に至る	1年次生科目：早期体験学習（救命応急手当）、基礎科学実習 3年次生科目：生薬学実習、微生物学実習、栄養化学実習、公衆衛生学実習等  微生物学実習以外は同上。微生物学・免疫学実習（新カリキュラム）が加わった。  ビデオ教材を作成し手元の操作法をスクリーンで見易く工夫した。この教材は教学マネージングシステムで予習復習に利用できる。実習アンケートで90%の学生が役に立ったと回答した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月～現在に至る  2015年4月～現在に至る	(ビデオ教材) 基礎科学実習：実習を始めるにあたって、器具・機器の使い方等  (ビデオ教材) 微生物学実習：画線塗抹法、グラム染色法、無菌試験法、薬剤耐性試験法等
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月1日	学生実習支援センターの役割と機能（口頭）第3回日本薬学教育学会（薬学教育研究ユニットフォーラム）
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2017年3月5日  2018年3月4日  2017年7月30日、 2018年7月29日、 2019年7月28日	科学・技術学修の推進を図る動画教材の開発と活用（ポスター）第22回FDフォーラム（京都）  学生実習支援センターの10年の取組みと、これから（ポスター）第23回FDフォーラム（京都）  山科学区小学生対象に地域市民ボランティアと協働して、理科教育増進を図る「理科実験講座」を独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金助成金によって開催した。毎年3月に開催される日本薬学会年会でこの実施報告（ポスター）を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）  発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 薬学生のための英語Ⅰ		共著	2017年3月17日 成美堂 日本薬学研究会編 ISBN978-4-7919-5099-7
(著書) 薬学生のための英語Ⅱ		共著	2019年1月20日 成美堂 日本薬学研究会編 ISBN978-4-7919-7194-7
(著書) 薬学生のための英語会話		共著	2021年2月12日 東京化学同人 金子利雄・Eric M. Skier編 ISBN978-4-8079-0978-0
(論文) 学生実習に取り入れたピア評価による実技検定の実践と学生の意識		共著	2020年10月 京都薬科大学紀要（1巻2号 103-112）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
実験実習教育における予習教材の利用と自主的な取り組みを促進する工夫と効果（共著者）		2017年3月25日	日本薬学会第137年会
実験実習における能動的学習推進への取り組み—分析化学に実習に導入したピアレビューによる実技確認（検定）の効果について—（共著者）		2017年9月2日	第2回日本薬学教育学会大会
実験実習における能動的学習推進への取り組み—薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について—（共著者）		2018年9月1日	第3回日本薬学教育学会大会
市民組織と協働で行う地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議大権2018イン山科～（共著者）		2019年3月22日	日本薬学会第139年会
実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認（検定）について—（共著者）		2019年8月24日	第4回日本薬学教育学会大会
市民組織と協働で実施する地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議大権2019イン山科～（共著者）		2020年3月	日本薬学会第140回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2006年5月28日～現在に至る		応急手当普及員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
	学生実習支援センター	助教	高尾 郁子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月～現在	1年次科目早期体験学習 救命救急手当の担当し、心肺蘇生法等を普及した	
	2012年4月～現在	学生実習を担当し、担当分野教員と連携を図り、安全及び教育効果の向上に努めて実施した ・1年次科目：基礎科学実習 ・2年次科目：分析化学実習、物理化学実習、解剖学・生理学実習、生化学実習、有機化学実習、機器分析学実習 ・3年次科目：栄養化学実習、公衆衛生学実習、薬理学実習、天然医薬品学実習、植物園実習、薬剤学実習、薬物動態学実習、免疫学・微生物学実習 ・4年次科目：分析・生体モデリングと情報処理	
	2014年～現在	実習終了後に実習アンケートを実施することで、学生の理解度や技能習得状況を把握し、次年度への改善に務めている	
	2015年～現在	実習で使用する器具の基本的な取り扱いなどをまとめた事前学習教材（操作ビデオ）を作成、LMSで配信することで実験技能の向上を図っている	
	2015年～現在	実習に「自己振り返り」や「ピア評価」を取り入れ、学生が自身の実習パフォーマンスを振り返る機会を設けることで、実験技能や態度の向上を目指している	
	2018年～現在	ICT（iPadやLMSなど）を利用してパフォーマンス評価データや実験結果を収集し、その集計結果を実習期間内に学生にフィードバックすることで、実験技能や態度の向上を図っている。 また各種データが可視化できたことで、指導教員が学生の理解度や技術習得状況を把握することができ、受講学生の状況やニーズに応じた指導内容が可能となっている	
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年6月～現在	学生実習で使用する器具や機器の取り扱い方法および実習への心構えなどについてのビデオ教材を作成した。作成したビデオ教材はLMSを利用して、学生に配信し、予習や復習の教材として使用した	
	2019年7月～現在	ノートテイクや文章表現スキルなど大学で学ぶために必要な基本的な技能習得のため、初年次学生を対象としたアカデミック・スキルに関する冊子「京薬生のためのアカデミック・スキル」、「京薬生のためのアカデミック・スキル（2022年度版）」を作成した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年3月	日本薬学会第137回年会「地域児童を対象とした理科実験講座“身近な夏の不思議体験2016 イン 山科”の実践」発表	
	2017年3月	日本薬学会第137回年会「実験実習教育における予習教材の利用と自主的な取り組みを促進する工夫と効果」発表	



2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会「実験実習における能動的学修推進への取り組み-分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)の効果について-」発表
2018年3月	第23回FDフォーラム「実験実習におけるLMS「Moodle」の活用-事前学習や振り返りを促進するための仕組みづくり-」発表
2018年3月	第23回FDフォーラム「京都薬科大学 学生実習支援センター10年の取り組みと、これから」発表
2018年3月	第24回大学研究教育フォーラム「薬学部における実験実習の教育改善効果とその要因」発表
2018年3月	日本薬学会第138回年会「実験実習教育における単独で行う実験および学生による実験結果の説明の効果」発表
2018年3月	日本薬学会第138回年会「地域連携活動として実践する地域児童を対象とした理科実験講座～身近な夏の不思議体験2017 イン 山科～」発表
2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会 薬学教育研究ユニット交流フォーラム2018「学生実習支援センターの役割と機能」発表
2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会「実験実習における能動的学修推進への取り組み -薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について-」発表
2019年3月	第24回FDフォーラム「ICTを活用した実験実習における学習支援の取り組み」発表
2019年3月	日本薬学会第139回年会「京都薬科大学同窓会「京薬会」による薬剤師キャリアパス支援のための「リカレント研修プログラム」の実践」発表
2019年3月	日本薬学会第139回年会「市民組織と協働で行う地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験2018 イン 山科～」発表
2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会「実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築 -分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)について-」発表
2020年3月	日本薬学会第140回年会「京都薬科大学同窓会「京薬会」による「リカレント研修プログラム」の実践と評価」発表
2020年3月	日本薬学会第140回年会「市民組織と協働で実施する地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験2019 イン 山科～」発表
2021年2月	第26回FDフォーラム「コロナ禍における感染予防対策を講じた実験実習の実施報告」発表

	2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会「実験技能および学修態度の向上を目指した学生実習モデルの構築—コロナ禍に実施したiPadを用いた動画撮影による実技確認(実技検定)について—」発表予定	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年～現在	地域児童を対象とした理科実験講座を市民組織や本学事務局と協同し企画開催している また本取り組みは、2015年「平成26年度京都市はぐくみ憲章実践推進者表彰」(共同受賞)、「第2回京都地域力アップ貢献事業者等表彰」(共同受賞)、2017年「平成29年度京都市はぐくみ憲章実践推進者実践継続者(10周年特別部門)表彰」(共同受賞)の表彰を受けている	
	2017年3月～2018年2月	京都大学高等教育研究開発推進センター主催 第6期MOSTフェロシッププログラム修了	
	2018年～現在	大学コンソーシアム京都 FD企画研究委員会委員として、FD交流会やFDテーマ別研修会を企画運営している	
	2019年4月～2020年3月	岐阜大学医学教育共同利用拠点 MEDCフェロシップ 医療教育者のためのMEDCフェロシッププログラム修了	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 学生実習に取り入れたピア評価による実技検定の実践と学生の意識変化	単著	2020年1月	京都薬科大学紀要
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 学修の促進を図る動画教材の開発と活用		2017年3月	第22回FDフォーラム
(演題名) 地域児童を対象とした理科実験講座“身近な夏の不思議体験2016 イン 山科”の実践		2017年3月	日本薬学会第137回年会
(演題名) 実験実習教育における予習教材の利用と自主的な取り組みを促進する工夫と効果		2017年3月	日本薬学会第137回年会
(演題名) 実験実習における能動的学修推進への取り組み—分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)の効果について—		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会
(演題名) 実験実習におけるLMS「Moodle」の活用—事前学習や振り返りを促進するための仕組みづくり—		2018年3月	第23回FDフォーラム
(演題名) 京都薬科大学 学生実習支援センター10年の取り組みと、これから		2018年3月	第23回FDフォーラム
(演題名) 薬学部における実験実習の教育改善効果とその要因		2018年3月	第24回大学研究教育フォーラム
(演題名) 実験実習教育における単独で行う実験および学生による実験結果の説明の効果		2018年3月	日本薬学会第138回年会
(演題名) 地域連携活動として実践する地域児童を対象とした理科実験講座～身近な夏の不思議体験2017 イン 山科～		2018年3月	日本薬学会第138回年会
(演題名) 学生実習支援センターの役割と機能		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会 薬学教育研究ユニット交流フォーラム2018

(演題名) 実験実習における能動的学修推進への取り組み ―薬剤学実習に導入したジグソー法の効果について―	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
(演題名) ICTを活用した実験実習における学習支援の取り組み	2019年3月	第24回FDフォーラム
(演題名) 京都薬科大学同窓会「京薬会」による薬剤師キャリアパス支援のための「リカレント研修プログラム」の実践	2019年3月	日本薬学会第139回年会
(演題名) 市民組織と協働で行う地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験2018 イン 山科～	2019年3月	日本薬学会第139回年会
(演題名) 実験技能向上を目指した学生実習モデルの構築 ―分析化学実習に導入したピアレビューによる実技確認(検定)について―	2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
(演題名) 京都薬科大学同窓会「京薬会」による「リカレント研修プログラム」の実践と評価	2020年3月	日本薬学会第140回年会
(演題名) 市民組織と協働で実施する地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験2019 イン 山科～	2020年3月	日本薬学会第140回年会
(演題名) コロナ禍における感染予防対策を講じた実験実習の実施報告	2021年2月	第26回FDフォーラム
(演題名) 実験技能および学修態度の向上を目指した学生実習モデルの構築―コロナ禍に実施したiPadを用いた動画撮影による実技確認(実技検定)について―	2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会 (発表予定)
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2004年～現在	日本薬学会会員	
2007年2月～現在	応急手当普及員	
2016年～現在	日本薬学教育学会会員	
2017年7月～現在	地域児童対象の理科実験講座の開催(年1回、2部構成)	
2018年4月～現在	大学コンソーシアム京都 FD企画研究会委員	
2018年7月～現在	京薬会「リカレント研修プログラム」開催	
2019年～現在	日本教育工学会会員	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	京都薬科大学	講座名	学生実習支援センター
職名	助教	氏名	高田 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		全体を通してipadを活用した教育を行っている	
		2019年～現在	薬物動態学実習では、ポンプを用いた動態解析を行っている。その際、計算結果と実際の装置の設定が概ね合致しているか(例:分布容積=溶液量、全身クリアランス=流速)確認させたり、ipadでデータを収集しフィードバックを行うことで、実験がうまくできていたか否かの気付きを与えるようにしている。
		2019年～現在	公衆衛生学実習では、飲料水試験として、各実験台で異なる未知のミネラルウォーターを配布して、硬度を参考にして種類を特定してもらったり、各班が汲んできた水道水を用いて試験を行ったりしている。そのため多様なデータが出てくることもあり、情報共有をかねて、ipadでデータを収集し、翌日実験結果のフィードバックを行っている。 また解析データはmanabaにアップロードし、学生が必要に応じて活用できるようにしている。
		2019年～現在	栄養化学実習では、実験台ごとに酸敗程度の異なる油脂を配布し変質試験を実施している。学生は全実験台の情報収集し、実験結果を総合評価することで、酸敗の程度を特定するといったチームでの研究活動に通じる実験実習を行っている。 その際、フォローアップなしでは難しいので、実験前にはSGDを実施し、実験操作の意図を学んでもらい(jamboardを使用したフィードバックを実施)、実験後には学生の実験データをipadを用いて収集し、翌日グラフを示しながら実験結果の簡単なフィードバックを行っている。 また生データはmanabaにアップロードし、学生が必要に応じて利用できるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年7-8月 2019年7-8月 2020年3-4月 2020年7-8月 2021年3-4月 2021年7-8月	薬剤学実習実習書、薬物動態学実習実習書 薬剤学実習実習書、薬物動態学実習実習書 栄養化学実習実習書 薬剤学実習実習書、薬物動態学実習実習書 栄養化学実習実習書 薬剤学実習実習書、薬物動態学実習実習書(予定)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年3月	日本薬学会第140年会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年～現在	理科に興味を持ってもらうことを目的として、小学生を対象に年1回、理科実験講座を開講
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(予定)(演題名)未定		2022年3月	日本薬学会第142年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年10月～現在	日本薬学会会員
2018年4月～現在	理科実験講座（山科地区の小学生（4,5,6年生）対象 年1回） ※2020年度はコロナ感染拡大により中止

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助教	氏名 平山恵津子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		~2021年5月	1年次生科目：早期体験学習（救命応急手当）、基礎科学実習 2年次生科目：生化学・機器分析学、解剖学・生理学実習（2018年度～）、3年次生科目：微生物学実習、微生物学・免疫学実習（2019年度～）、栄養化学実習、公衆衛生学実習等  書画カメラを導入すると共に、ビデオ教材を作成し手元の操作法をスクリーンで見易く工夫した。この教材は教学マネージングシステムで予習復習に利用できる。実習アンケートで90%の学生が役に立ったと回答した。実習内容をより学習効果が高いものに変更、修正した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月～現在 に至る	免疫学実習実習書、レポート 生化学実習実習書、レポート  ビデオ教材：免疫学実習（マウスからの免疫担当細胞の採取）、生化学実習（PCR, Western blottingなど）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年9月1日	学生実習支援センターの役割と機能（口頭）第3回日本薬学教育学会（薬学教育研究ユニットフォーラム）
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2017年7月30日、 2018年7月29日、 2019年7月28日	山科学区小学生対象に地域市民ボランティアと協働して、理科教育増進を図る「理科実験講座」を独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金助成金によって開催した。毎年3月に開催される日本薬学会年会でこの実施報告（ポスター共著）を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
(論文) 学生実習に取り入れたピア評価による実技検定の実践と学生の意識		共著	2020年10月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
京都薬科大学・業績一覧の通り			京都薬科大学紀要（1巻2号 103-112）
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
~2021年5月		応急手当普及員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 学生実習支援センター	職名 助手	氏名 徳山 友紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2016年～現在	担当分野と協力しながら、学生実習を担当している。(主な担当科目は下記の通り) 2年次：解剖学・生理学実習，生化学実習，機器分析学実習 3年次：栄養化学実習，公衆衛生学実習，薬理学実習，薬物動態学実習，薬剤学実習	
	2018年～現在	機器分析学実習：レポートの報告事項について、実習書に記入する欄を設けることを提案。学生の記入忘れを防ぐと共に終了時の教員の確認でも見る範囲が定まるため、確認がしやすくなった。1班あたりの人数を減らし、学生が作業する機会を増やすために、実験器具を増やしグループ数を増加させた。	
	2019年～現在	公衆衛生学実習：「必携・衛生試験法」の教科書を実習に活用するにあたり、配布器具や試薬ラベルの名称変更等を行った。また、学生が実験結果を記入できる「データ記入シート」を導入した。学生が実験項目のやり忘れを防ぐとともに、終了時の確認で、教員が実験結果を確認でき、学生とディスカッションできるきっかけとなっている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年 2020年	京薬生のためのアカデミック・スキル（共著） 京薬生のためのアカデミック・スキル（2021年度版）（共著）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年3月	日本薬学会第139回年会「市民組織と協働で行う地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験2018 イン 山科～」発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2017年～現在 2016年～現在	FDフォーラムへの参加 理科への興味喚起およびその継続を目的として、山科区の小学生を対象とした理科実験講座を市民組織と協働で実施している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) 学生実習に取り入れたピア評価による実技検定の実践と学生の意識	共著	2020年10月	京都薬科大学紀要（1巻2号）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年～現在	日本薬学会会員		
2016年～現在	山科区の小学生向け理科実験講座の実施（2020年は中止）		



- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 薬用植物園	職名 助教	氏名 月岡淳子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年3月 2021年3月	応急手当普及員講習 (再講習) 応急手当普及員講習 (再講習)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
<i>Biocommunication between Plants and Pollinating Insects through Fluorescence of Pollen and Anthers.</i>	共著	2018年	<i>Journal of Chemical Ecology</i> 44, 591-600.
<i>Neolignan and megastigmane glucosides from the aerial parts of Isodon japonicus with cell protective effects on BaP-induced cytotoxicity. (2017).</i>	共著	2017年	<i>Phytochemistry</i> , 137, 101-108
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年~2021年	公益財団法人日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修講師 (委嘱) 実習研修		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 放射性同位元素研究センター	職名 准教授	氏名 河嶋秀和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義『放射薬学』		2017年度 ～現在	放射線の基礎と生体影響に関する講義を行った。教科書と配布プリント、板書（COVID-19の影響によるweb配信型授業を除く）を組み合わせた講義スタイルを通じ、薬学部に所属する多くの学生にとっては馴染みの薄い当該領域について「放射性医薬品」の理解へと繋げられるよう努めた。知識を効率的に定着させるため、力試し問題（講義の最後に出題し次回講義で解説する）と適宜小テストを組み合わせた方式は学生からは概ね高い評価を得られた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年9月	臨床放射薬学（河嶋秀和、木村寛之 編著／京都廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Redesign of negatively charged $^{111}\text{In}$ -DTPA-octreotide derivative to reduce renal radioactivity	共著	2017年5月	Nuclear Medicine and Biology, vol. 48
(著書) Characteristics of Ibritumomab as Radionuclide Therapy Agent	単著	2018年5月	Resistance to Ibritumomab in Lymphoma (Makoto Hosono, Jean-François Chatal, Eds., Springer Nature)
(論文) $^{123}\text{I}$ -Labeled oxLDL is widely distributed throughout the whole body in mice	共著	2018年4月	Nuclear Medicine and Molecular Imaging, vol. 52
(論文) Development of $^{99\text{m}}\text{Tc}$ radiolabeled A85380 derivatives targeting cerebral nicotinic acetylcholine receptor: Novel radiopharmaceutical ligand $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -A-YN-IDA-C4.	共著	2019年9月	Bioorganic and Medicinal Chemistry, vol. 27, No. 18
(著書) Single-Photon Emission Computed Tomographic Imaging in Live Animals (Chapter 6), Radiotherapeutic Applications (Chapter 7)	共著	2020年2月	Handbook of In Vivo Chemistry in Mice, From Lab to Living System (Katsunori Tanaka, Kenward Vong, Eds., Wiley-VCH)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Biodistribution of <sup>123</sup> I-labelled oxidized low-density lipoprotein (oxLDL) in normal mice	2017年5月	22 <sup>nd</sup> International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences
酸化LDLのマウス体内動態：高分解能SPECT/CTを用いた検討	2019年3月	日本薬学会第139年会
アスパラギン酸修飾ナノキャリアを利用した治療用放射性核種の骨標的化による骨転移抑制	2020年3月	日本薬学会第140年会
遺伝子発現イメージングを利用した移植細胞の時間・空間的追跡法の開発	2020年5月	第19回日本再生医療学会学術総会
	2021年5月	日本分子イメージング学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
(2007年)～2021年	Annals of Nuclear Medicine論文査読者	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
	バイオサイエンス研究センター	准教授	斉藤 美知子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・動物実験教育訓練 (解剖学・生理学実習)		2018年4~5月	2018年度から始まった解剖学・生理学実習の動物倫理に対する教育訓練を行った。
・動物実験教育訓練 (薬理学実習)		2018年4~5月	薬理学実習時に行う動物実験のための教育訓練。
・バイオサイエンス研究センター利用者講習会		2018年9月14日	バイオサイエンス研究センターを初めて使用する学生のための講習会。これを受講したもののみが実際に施設に入っている実地講習を受講できるようにした。
・動物実験教育訓練		2019年2月12日	教員・大学院生・研究員対象に行った。今後も法改正の行われる5年を目途に行う予定とした。
・動物実験教育訓練 (解剖学・生理学実習)		2019年4~5月	解剖学・生理学実習の動物倫理に対する教育訓練
・バイオサイエンス研究センター利用者講習会		2019年9月13日	バイオサイエンス研究センターを初めて使用する学生のための講習会。これを受講したもののみが実際に施設に入っている実地講習を受講できるようにしているため、この後6人ずつのグループに分け、計44グループ、198人に対して実地訓練を行った。
・動物実験教育訓練 (解剖学・生理学実習)		2020年6~7月	解剖学・生理学実習の動物倫理に対する教育訓練。コロナ渦のため8グループに分け、すべて対面で行った。法改正が行われたので、最新情報も加えて講習した。出席票に書いてある質問事項には、Q&A方式で回答を作り、manabaで公開した。
・バイオサイエンス研究センター利用者講習会		2020年11月19日	オンラインで受講、出席表(小テスト)持参の学生のみ実地訓練を行った。(37グループ185人)実地訓練に関して、上級生に付き添いを頼み、上級生の復習の場とした。
・動物実験教育訓練 (解剖学・生理学実習)		2021年4~6月	実験動物学会で作製した動画を使用した。6グループに分け、すべて対面で行った。本年度も、Q&Aを作成し、manabaで公開する予定。
2 作成した教科書、教材、参考書			
該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
動物実験に関する教育訓練		2019年5月31日	大阪国際がんセンターにおいて動物実験に関する教育訓練を行った
4 その他教育活動上特記すべき事項			
該当なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Transgenic mouse model exhibiting weak red fluorescence before and strong green fluorescence after Cre/loxP-mediated recombination.	共著	2020年	<i>Experimental Animals</i> . 69(3)
ER stress, Secretory Granule Biogenesis, and Insulin.	共著	2019年	Ultimate Guide to Insulin (IntechOpen) Chapter3 p37-56
Identification of the physiological substrates of PDIp, a pancreas-specific protein disulfide isomerase family member.	共著	2018年	<i>Journal of Biological Chemistry</i> 293(48)

Gradient-reading and mechano-effector machinery for netrin-1-induced axon guidance.	共著	2018年7月	<i>eLife</i> pii: e34593
IRE1-XBP1 pathway regulates oxidative proinsulin folding in pancreatic $\beta$ cells.	共著	2018年	<i>Journal of Cell Biology</i> , 217(4)
Ectopic expression of the transcription factor MafB in basal keratinocytes induces hyper-proliferation and perturbs epidermal homeostasis.	共著	2017年	<i>Experimental Dermatology</i> , 26(11)
4 $\mu$ 8C inhibits insulin secretion independent of IRE1 $\alpha$ RNase activity.	共著	2017年	<i>Cell Structure and Function</i> 42(1)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
IRE1 $\alpha$ -XBP1 pathway regulates oxidative proinsulin folding in pancreatic $\beta$ cells.		2018年8月	International Symposium “Proteins; from the Cradle to the Grave”
Golgi stress response and plasma cell differentiation.		2018年11月	第41回日本分子生物学会年会
IRE1 $\alpha$ -XBP1 pathway regulates oxidative proinsulin folding in pancreatic $\beta$ cells.		2018年6月	第70回日本細胞生物学会 第51回日本発生生物学会合同大会
The Golgi stress response during differentiation of plasma cells.		2017年12月	生命科学系学会合同年次大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	公私立大学実験動物施設協議会 記録・編集委員		
2019年8月～現在	実験動物学会 動物実験施設外部検証調査委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：京都薬科大学	講座名：共同利用機器センター	職名：講師	氏名：服部 恭尚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 板書を中心に自分の手で書くことを念頭にした講義 昨年度はオンラインの為、反省点を今年度反映	2017-2021年度 2017、2019年度	薬品合成化学B（分担、3回） 薬学総合演習（分担、2回）	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料（薬品合成化学B） 講義資料（薬学総合演習）	2017-2021年度 2017、2019年度	対面（2017-2019）、オンライン（2020、2021） 対面（2017、2019）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Inhibitory effects of cynaropicrin and related sesquiterpene lactones from leaves of artichoke ( <i>Cynara scolymus</i> L.) on induction of iNOS in RAW264.7 cells and its high-affinity proteins	共著	2021年	<i>Journal of Natural Medicines</i> Vol. 75 No. 2
A novel dipeptide type inhibitor of the Wnt/ $\beta$ -catenin pathway suppresses proliferation of acute myelogenous leukemia cells	共著	2021年	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> Vol. 535
Evaluation of an octahydroisochromene scaffold as a novel SARS 3CL protease inhibitor	共著	2020年	<i>Bioorganic &amp; Medicinal Chemistry</i> Vol. 28 No. 4
Convergent synthesis of <i>trans</i> -2,6-disubstituted piperidine alkaloid, (–)-iso-6-spectaline by palladium-catalyzed cyclization	共著	2019年	<i>Chemical and Pharmaceutical Bulletin</i> Vol. 67 No. 3
Evaluation of a non-prime site substituent and warheads combined with a decahydroisoquinolin scaffold as a SARS 3CL protease inhibitor	共著	2019年	<i>Bioorganic &amp; Medicinal Chemistry</i> Vol. 27 No. 2
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新規相互作用部位を付与したアザ-デカリン型SARS 3CLプロテアーゼ阻害剤の合成と評価		2021年	日本農芸化学会2021年度大会
Pd(II)触媒による立体選択的環化反応を用いた含窒素複素環化合物の効率的合成		2019年	第5回 関西薬学シンポジウム：化学系の若い力（招待講演）
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年～現在	毒物劇物取扱者試験講師（京都府）		



- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 京都薬科大学	講座名 共同利用機器センター	職名 助教	氏名 安東 友繁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年10月9日	「薬学総合演習」講義をSGDを実施(分担1回)
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Identification of the ternary complex of ribonuclease HI:RNA/DNA hybrid:metal ions by ESI mass spectrometry	共著	2021年2月	Journal of Biological Chemistry vol. 296, 100462
Inhibitory effects of cynaropicrin and related sesquiterpene lactones from leaves of artichoke (Cynara scolymus L.) on induction of iNOS in RAW264.7 cells and its high-affinity proteins.	共著	2021年1月	Journal of Natural Medicines vol. 75, 381-392
Chemical synthesis of ferredoxin with 4 selenocysteine residues using a segment condensation method.	共著	2020年10月	Chemical Communications vol. 56, 14239-14242
One-pot four-segment ligation realized by selenoester and its application to the synthesis of superoxide dismutase.	共著	2017年10月	Angewandte Chemie International Edition vol. 56, 15708 -15711
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～2021年3月	日本質量分析学会 講習会企画委員		
2021年6月～現在	日本質量分析学会 広報委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	401	380	94.76%
2年	393	346	88.04%
3年	345	333	96.52%
4年	395	394	99.75%
5年	348	342	98.28%
6年	382	370	96.86%

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 <sup>1)</sup>
風疹	237	117
麻疹	83	271
水痘	318	36
ムンプス	176	178
B型肝炎	21	126

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。  
確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	收容人員合計	備考
講義室・演習室 <sup>2)</sup>	大講義室	281、402	3	964	1室は1学年全員收容可能(1学年定員360名)、無線LAN設備
	中講義室	216、225	7	1557	全て固定机、無線LAN設備
	小講義室	30~110	11	883	全て可動机、無線LAN設備
	セミナー室、演習室	12~38	21	441	セミナー室18室は可動机、無線LAN設備
	コンピューター演習室	30~226	3	356	GBTにも利用
実習室	化学系実習室	100	3	300	基礎化学系実習で使用、内1室は生物系実習にも使用、無線LAN設備
	生物系実習室	100	1	100	基礎生物・薬理・生理系実習で使用、無線LAN設備
	医療系(事前学習)実習室	10~40	16	180	調剤室、薬品管理室、製剤室、模擬薬局・病室他 無線LAN設備
自習室等 <sup>3)</sup>	自習室	16~60	4	156	自習室は他に図書館にもある(基礎資料12)
	ラウンジ(開放スペース)	14~28	4	85	談話室、休憩室を含む
薬用植物園	<p>① 設置場所 薬用植物園:日野校地(本校地から南に約7km)、薬用植物園御陵園:グラウンド横(本校地から200m)</p> <p>② 施設の構成と規模 薬用植物園は約13,000m<sup>2</sup>と日本屈指の規模を誇り、ビニール温室2棟、ガラス温室1棟がある。管理棟には講義室・研究室・資料室などが設置されており、実習や研究等に利用されている。薬用植物園御陵園は約2,700m<sup>2</sup>でガラス温室が1棟あり、実習等に利用されている。</p> <p>③ 栽培している植物種の数 薬用植物園:約1000種 薬用植物園御陵園:約250種</p> <p>④ その他の特記事項 薬用植物園には研究室が設置されており、所属の学生は研究で扱う植物だけでなく様々な植物の栽培管理技術を習得する事を目指している。2019年度には企業の薬用植物栽培研究機関へ卒業生を輩出している。薬用植物園御陵園では教員不在時にも学生への教育効果を高めるため植物のラベル(ネームプレート)にQRコードを添付しており、Web上で解説が閲覧できる。</p>				

- [注] 1) 総合大学では薬学部で教育で使っている講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には收容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください(教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1),2)</sup>	面積 <sup>3)</sup>	収容人員 <sup>4)</sup>	室数 <sup>5)</sup>	備 考
教員個室 (教授室など)	25m <sup>2</sup>	1人	67	個室は教授・准教授・講師のみ、助教・助手は研究室にデスクがある。
実験室・研究室 (大)	128m <sup>2</sup>	24人	29	24分野の研究室 (50m <sup>2</sup> 以上)
実験室・研究室 (小)	21m <sup>2</sup>	4人	83	測定室・培養室・機器室等含む (50m <sup>2</sup> 未満)
セミナー室	36m <sup>2</sup>	7人	22	概ね各分野に1室: セミナー室、情報処理室、会議室

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。  
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1),2)</sup>	室数	施設の内容
共測室	28	複数の研究室が共同で使用する測定室。NMRやLC/MS、電子顕微鏡等の研究機器が設置されている。
実験動物施設	30	SPF実験室 (6室)、SPF飼育室 (9室)、大型動物飼育室 (1室)、感染動物飼育室 (1室) 他
RI実験施設	16	RI実験室 (6室)、RI測定室、RI貯蔵室、RI廃棄物保管室他

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。  
(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備 考 <sup>3)</sup>
図書館 <sup>4)</sup>	303	2,216	13.67%				学部：360人×6学年 大学院：56人
				愛学館自習室	124		
				南風館自習室	32		
計	303	2,216	13.67%		156		

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ（キャンパスが異なるなど）、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルのタイ トル数 <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
図書館	105094	97527	523	671	784	4131	1110	1034	951	
計	105094	97527	523	671	784	4131	1110	1034	951	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。